

北海道大学総合博物館年報
(令和5年度)

目 次

I. 沿革	3
II. 組織	4
A 総合博物館教職員	4
B 資料部研究員	5
C 各種委員会	7
III. 研究	12
A 学術標本の研究活用	12
B 教員の研究活動	33
IV. 教育	58
A 全学教育・大学院共通授業、学芸員関連科目と博物館実習	58
B ミュージアムマイスター認定コース	59
C パラタクソノミスト養成講座	59
D 各教員が指導する院生や学生	61
V. 社会貢献	64
A 展示	64
B セミナー	75
C 公開シンポジウム	77
D ボランティア活動	77
E 自治体や他機関との協定締結	78

F その他	79
VI. 国際的な活動	81
A 各種協定締結	81
B 客員教授・外国人研究員	81
VII. 広報 博物館ニュース、HP、FB、新聞報道記録など	82
VIII. 令和5年度予算状況	91
IX. 令和5年度の主な出来事	92
X. 総合博物館の第4期（令和4～9年度）中期目標	94

I. 沿革

北海道大学の前身、札幌農学校は 1876(明治 9)年に開校した。その翌年にはクラーク博士が『札幌農学校第 1 年報』において、将来の自然史博物館の基礎が着々と出来つつあることを述べている。博士が去って 7 年後の 1884(明治 17)年に札幌農学校は開拓使より植物園とともに園内の博物館を譲り受け、ここに附属博物館が実現した。札幌農学校開校以来 143 年の研究成果として、現在 400 万点を越す学術標本が学内に所蔵され、その中には 1 万 3 千点以上のタイプ標本が含まれている。これら貴重な学術標本を良好な状態で集約管理し学内外に情報を発信するために、1966(昭和 41)年から総合博物館設置が検討されてきた。理学部本館建物を総合博物館として再利用し、延べ約 9,000 m²の総合博物館にする構想がまとまり、1999(平成 11)年度、文部省より設置が認められた。2001(平成 13)年には、本学創基 125 周年次事業の一環として、第 1 期工事分 3,000 m²の改修が行われ公開展示が開始された。2014 (平成 26)年には、第 2、第 3 期 6,000 m²の改修・耐震工事に着手し、2016 (平成 28) 年に展示室・収蔵庫・研究教育関連スペースを完備してリニューアルオープンした。総合博物館は、北大の教育・研究の成果を広く一般に公開する場として、また、貴重な学術標本を整理・保管し教育・研究に利活用する場として、その役割はますます大きなものとなっている。なお、2007(平成 19)年には、水産科学研究院の水産資料館が、水産科学館として総合博物館の分館となった。

II. 組織

A 総合博物館教職員

館長	坪田敏男
水産科学館館長	今村 央
研究部長	江田真毅
副館長	大原昌宏、湯浅万紀子、小林快次、江田真毅
資料部長	坪田敏男
資料基礎研究系	学術標本の基礎研究や学際研究での利用並びに教育の利用に供するための業務
教授	大原昌宏（昆虫体系学）
准教授	阿部剛史（海藻分類学）
助教	田城文人（魚類分類学）
助教	首藤光太郎（植物体系学）
資料開発研究系	学術標本を教育・研究の素材として有効活用するための開発研究、並びに標本修復のための業務
教授	湯浅万紀子（博物館教育学）
教授	小林快次（古生物学）
教授	江田真毅（動物考古学）
助教	北野一平（岩石鉱物学）
博物館教育・メディア研究系	学術標本から得られた学術情報及び研究成果の公開・展示を基盤とした博物館教育の進展を図るための業務
(兼)教授	湯浅万紀子（博物館教育学）
研究支援推進員	市来紗都子
	土田江里子
	齋藤絵梨奈
事務局（※博物館担当）	
事務部長	岩佐俊明
課長補佐(総務担当)	大江幸人
課長補佐(研究支援担当)	後藤 普

課長補佐(学務担当)	鈴木晴香
課長補佐(管理担当)	今田有治
係長※	井上 猛
主任※	山田久恵
事務補助員※	高橋千華子
技術補助員※	柴野伸幸

B 資料部研究員

資料部長 小澤丈夫

研究員氏名	所属	職名	博物館担当教員
小亀 一弘	大学院理学研究院	教授	阿部剛史
四ツ倉 典滋	北方生物圏フィールド科学センター	教授	阿部剛史
天野 哲也	本学退職教員 (N104A)		江田真毅
泉 洋江	総合博物館 (S206)		江田真毅
小野 裕子	総合博物館 (N104A)		江田真毅
片倉 賢	本学退職教員	名誉教授	江田真毅
加藤 博文	アイヌ・先住民研究センター	教授	江田真毅
國木田 大	大学院文学研究院	准教授	江田真毅
高倉 純	埋蔵文化財調査センター	助教	江田真毅
増田 隆一	大学院理学研究院	教授	江田真毅
守屋 豊人	埋蔵文化財調査センター	特任助教	江田真毅
秋元 信一	本学退職職員 (S205B)	名誉教授	大原昌宏
池上 重康	大学院工学研究院	助教	大原昌宏
柁原 宏	大学院理学研究院	教授	大原昌宏
菊田 融	総合博物館 (S206)		大原昌宏
木村 正人	本学退職教員 (S205B)	名誉教授	大原昌宏
佐々木 均	総合博物館 (S205B)		大原昌宏
下村 政嗣	千歳科学技術大学	教授	大原昌宏
高久 元	北海道教育大学	教授	大原昌宏
戸田 正憲	本学退職教員 (S204B)	名誉教授	大原昌宏
三谷 朋弘	大学院農学研究院	准教授	大原昌宏

山口 諒	大学院先端生命科学研究院	助教	大原昌宏
山中 草叶	書家		大原昌宏
山本 周平	総合博物館 日本学術振興会特別研究員 SPD		大原昌宏
吉澤 和徳	大学院農学研究院	准教授	大原昌宏
渡部 英昭	総合博物館 (S205B)		大原昌宏
末富 弘	札幌学院大学経営学部	教授	小澤丈夫
金田 皓樹	洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会	学術専門員	北野一平
ゴータム ピ タンバル	本学退職職員		北野一平
ブイ ティ シン ブオン			北野一平
石川 満寿夫	総合博物館(S206)		小林快次
越前谷 宏紀	総合博物館 (S206)		小林快次
小野 修司	本学退職職員		小林快次
久保田 克博	兵庫県立人と自然の博物館		小林快次
沢田 健	大学院理学研究院	教授	小林快次
新村 龍也	足寄動物化石博物館		小林快次
竹下 徹	本学退職職員	名誉教授	小林快次
竹田 裕介	日本学術振興会特別研究員 P D (東京大学)		小林快次
田中 康平	筑波大学	助教	小林快次
田中 嘉寛	大阪市立自然史博物館		小林快次
千葉 謙太郎	岡山理科大学	講師	小林快次
中川 光弘	大学院理学研究院	特任教授	小林快次
西村 智弘	むかわ町穂別博物館		小林快次
吉田 純輝	福島県立博物館		小林快次
東 隆行	北方生物圏フィールド科学センター	助教	首藤光太郎
乙黒 聡子	大学院薬学研究院	技術専門職 員	首藤光太郎
小林 孝人	総合博物館 (S206)		首藤光太郎
近藤 誠司	本学退職教員	名誉教授	首藤光太郎
近藤 則夫	本学退職教員 (S206)	名誉教授	首藤光太郎
佐藤 謙	総合博物館 (S205B)		首藤光太郎

佐藤 広行	(一社)九州オープンユニバーシティ 博士研究員		首藤光太郎
佐野 雄三	大学院農学研究院	教授	首藤光太郎
高橋 英樹	本学退職教員	名誉教授	首藤光太郎
春木 雅寛	本学退職教員 (S205B)		首藤光太郎
富士田 裕子	本学退職職員	名誉教授	首藤光太郎
宮本 敏澄	大学院農学研究院	講師	首藤光太郎
持田 誠	浦幌町立博物館		首藤光太郎
谷亀 高広	瑞穂町郷土資料館けやき館		首藤光太郎
河合 俊郎	大学院水産科学研究院	准教授	田城文人
川西 亮太	北海道教育大学釧路校	准教授	田城文人
五嶋 聖治	本学退職教員	名誉教授	田城文人
篠原 現人	国立科学博物館		田城文人
矢部 衛	本学退職教員	名誉教授	田城文人
山下 俊介	大学院水産科学研究院	特任准教授	田城文人
佐々木 亨	大学院文学研究院	教授	湯浅万紀子

C 各種委員会

・運営委員会

開催日

第1回：令和5年5月17日～26日（メール持ち回り開催）、第1回：令和5年8月1日（オンライン開催）第2回：令和5年11月14日（オンライン開催）第3回：令和6年2月8日（オンライン開催）

委員会構成員：委員長 坪田敏男

部局名	職 名	氏 名
獣医学研究院	館 長	坪田 敏男
理事（附属図書館）	副学長（館長）	山本 文彦
文学研究院	教 授	谷古宇 尚
メディア・コミュニケーション 研究院	教 授	西川 克之
水産科学研究院	教 授	藤森 康澄
先端生命科学研究院	教 授	門出 健次

触媒科学研究所	教 授	浦口 大輔
歯学研究院	教 授	八若 保孝
遺伝子病制御研究所	教 授	近藤 亨
総合博物館	教授（研究部長）	江田 真毅
工学研究院	教授（資料部長）	小澤 丈夫
水産科学研究院	教授（水産科学館長）	今村 央
総合博物館	教 授	大原 昌宏
総合博物館	教 授	湯浅万紀子
総合博物館	教 授	小林 快次
総合博物館	准教授	阿部 剛史

・展示専門委員会

開催日

第1回：令和5年5月22日（オンライン開催）第2回：令和5年10月4日（オンライン開催）第3回：令和6年2月19日（オンライン開催）

部局名	職 名	氏 名
総合博物館	教授（研究部長）	江田 快次
工学研究院	教授（資料部長）	小澤 丈夫
総合博物館	教 授	大原 昌宏
総合博物館	教 授	湯浅万紀子
総合博物館	教 授	小林 快次
総合博物館	准教授	阿部 剛史
文学研究院	特任教授	佐々木 亨
水産科学研究院	特任助教	山下 俊介
総合博物館	助教	首藤 光太郎
総合博物館	助教	田城 文人

総合博物館	助教	北野 一平
文学研究院	准教授	久井 貴世

・学術標本検討専門委員会

開催日：令和5年12月14日（オンライン開催）

委員会構成員：委員長 小澤丈夫

部局名	職 名	氏 名
工学研究院	教授（資料部長）	小澤 丈夫
総合博物館	教授（研究部長）	江田 真毅
総合博物館	教 授	大原 昌宏
総合博物館	教 授	湯浅万紀子
総合博物館	教 授	小林 快次
総合博物館	准教授	阿部 剛史
総合博物館	助 教	田城 文人
総合博物館	助 教	首藤 光太郎
総合博物館	助 教	北野 一平
地球環境科学研究院	教 授	越川 滋行
農学研究院	准教授	吉澤 和徳
理学研究院	教 授	柁原 宏
医学研究院	助 手	中村 秀樹
水産科学研究院	准教授	河合 俊郎
文学研究院	教 授	高瀬 克範

・第2農場等の一般公開に関する専門委員会

開催日：令和5年9月25日（オンライン開催）

委員会構成員：委員長 岩淵和則

部局名	職 名	氏 名
農学研究院	教 授	岩淵 和則
総合博物館	教授（研究部長）	江田 真毅
工学研究院	教授（資料部長）	小澤 丈夫

農学研究院	准教授	石井 一暢
農学研究院	准教授	三谷 朋弘
総合博物館	助 教	首藤光太郎
総合博物館	資料部研究員	近藤 誠司
理学・生命科学事務部	事務部長	岩佐 俊明
施設部	環境配慮促進課長	空橋 博幸

・水産科学館専門委員会

開催日：開催なし

委員会構成員：委員長 今村 央

部局名	職 名	氏 名
水産科学研究院	教授（水産科学館長）	今村 央
総合博物館	教授（研究部長）	江田 真毅
総合博物館	助 教	田城 文人
水産科学研究院	教 授	綿貫 豊
水産科学研究院	准教授	高橋 勇樹
水産科学研究院	准教授	山口 篤
水産科学研究院	准教授	阿部 泰人
水産科学研究院	教 授	水田 浩之
水産科学研究院	教 授	東藤 孝
水産科学研究院	教 授	岸村 栄毅
水産科学研究院	准教授	藤本 貴史

・学内各種委員会対応

全学教育科目責任者	北野一平
教務委員会学芸員養成課程専門委員会	研究部長（江田真毅）
フィールドセンター運営委員会	大原昌宏
埋蔵文化財調査センター運営委員会	江田真毅
生態環境マネジメント WG	大原昌宏
歴史的資産活用 TF	湯浅万紀子
安全管理委員	阿部剛史

全学広報担当者会議	研究部長（江田真毅）
キャンパスマネジメント専門委員会	大原昌宏
大学文書館運営委員会	江田真毅
北海道大学 150 年史編集室員	江田真毅

III. 研究

A 学術標本の研究活用

<陸上植物標本利用記録>（担当 首藤光太郎 助教）

陸上植物標本庫（SAPS）には、明治時代から北海道・千島・樺太を中心に採集された植物標本がおよそ 35 万点収蔵されている。国内でも有数の歴史・点数をもつ標本庫であり、道内に生育する植物を対象とした研究・教育活動や事業に日常的に利用されている。今年度は、53 名により 64 回の利用があった。借受（貸出）は研究目的のものが 2 件あった。他標本庫への重複標本等の寄贈は 5 件あった。SAPS での標本調査に基づく報文は、21 報出版された。

・目的別点数のまとめ

研究	教育	展示	その他	総数
698	0	0	0	698

この数字は、利用申請書に記入されたものに基づいている。属や科といった高次分類群を 1 点と計数している場合があり、実際の標本点数を反映していない場合がある。また、申請の時点で調査対象分類群の収蔵点数が不明であり、未記入で申請・調査を行うことも多い。実際の利用点数はこの数字よりも遥かに大きいと思われるが、実態は不明である。

・標本庫利用（標本庫は学内の院生・学生に日常的に利用されている。以下の利用記録は申請書および標本庫のゲストブックに基づいており、実際の利用者の一部である）

利用期間	利用者	所属	標本名	目的	点数
4.22	山崎 真実	札幌市博物館活動センター	ヒンジモ, マルミノウルシ	研究	
4.26	武田 千恵子	所属なし	シダ植物・ラン科	研究	
5.10	阪口 翔太	京都大学大学院人間・環境学研究科	シラネアオイ・クガイソウ属・ミヤマスミレ	研究	100
5.10	Yu Jiaxin	京都大学大学院人間・環境学研究科	タチツボスミレ類	研究	100
5.10	渡辺 路	京都大学大学院人間・環境学研究科	オオバキスミレ類	研究	100
5.15	東 隆行	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター	ヒユ科	研究	
5.23	田 勝博	北海道大学農学院	オオウサギギク	研究	
5.23	岩佐 真彦	北海道大学環境科学院	イブキジャコウソウ	研究	
5.23	中村 剛	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター	ハルリンドウ	研究	
5.23	高橋 尚敏	北海道大学環境科学院	イヌナズナ属	研究	
6.4	齋藤 央	新篠津ツルコケモモを守る会	ハナタネツケバナ、ヤチコタヌキモなど	研究	20
6.7	茨木 靖	徳島県立博物館	さく葉標本	研究	1
6.7	加藤 ゆき恵	釧路市立博物館	釧路・根室のスゲ属植物、笠井文夫採集標本	研究	

6.13-12.28	星野 洋一郎	北海道大学北方生物圏フ ィールド科学センター	Lonicera caerulea の標 本	研究	
6.19	高島 路久	すげの会	ラン科	研究	
6.19	岩崎 貴也	お茶の水女子大学	タンポポ属, ブナ科	研究	
6.19	高橋 弥生	お茶の水女子大学	スミレ属	研究	
6.19	毛利 陽香	お茶の水女子大学	タンポポ属	研究	
6.19	倉田 正観	北海道大学北方生物圏フ ィールド科学センター	キキョウ、キセワタ、ミ ズナラ	研究	100
6.21	平岡 和	北海道大学文学院	広義ニワトコ	研究	
6.21	伊木 千絵美	May Plant	イトアオスゲ、ショウジ ョウスゲ、アカオニタビ ラコ、ジャニンジン、カ ワシロナナカマド、イブ リハナワラビ	研究	6
6.21	原田 竜輔	エヌエス環境株式会社	スゲ属・ラン科	研究	
6.21	三島 美佐子	九州大学総合研究博物館	ワレモコウ属	研究	
6.22	Andy Ramli	北海道大学環境科学院	スイカズラ属	研究	
6.23-6.24	原田 英美子	滋賀県立大学環境科学部	エゾカモジグサ	研究	40
6.29	矢野 興一	岡山理科大学	スゲ属・カヤツリグサ科	研究	
7.23	内田 暁友	所属なし	ヤグルマギク属	研究	
8.18	吉田 理見	弘前大学	キケマン属	研究	
8.18	山岸 洋貴	弘前大学	キケマン属	研究	
8.18	山本 将也	兵庫教育大学	ソラチコザクラ	研究	20
8.21	沢 和浩	東北植物研究会	ミクリ属・スイカズラ科	研究	
8.31	石塚 航	北海道立総合研究機構	シロヨモギ	研究	
9.7	副島 顕子	熊本大学	イグサ属	研究	
9.7	永益 英敏	京都大学総合博物館	全般	研究	
9.8	広木 詔三	名古屋大学	モンゴリナラ	研究	
9.8	長澤 耕樹	京都大学	センブリ属	研究	
9.8	山本 将也	兵庫教育大学	サクラソウ属	研究	
9.8	増田 和俊	京都大学	サクラソウ属	研究	
9.11-12	高嶋 八千代	北方植物資料研究会	北方植物絵図他	研究	
9.11-12	奥田 幸子	北方植物資料研究会	北方植物絵図他	研究	
9.11-12	数本 隆子	北方植物資料研究会	北方植物絵図他	研究	
9.14	五十嵐 博	北海道野生植物研究所	ラン科など	研究	
9.21	齋藤 央	北海道湿地踏査団	ムセンスゲ他	研究	
10.10-11	伊藤 雄氣	北海道大学理学院	小葉類	研究	
10.20	生方 正俊	国立研究開発法人森林研 究・整備機構森林総合研 究所林木育種センター北 海道育種場	ケンボナシ	研究	
10.20	岩井 大岳	国立研究開発法人森林研 究・整備機構森林総合研 究所林木育種センター北 海道育種場	ケンボナシ	研究	
10.25	Andy Ramli	北海道大学環境科学院	スイカズラ属	研究	
11.24-24	新田 紀敏	北海道立総合研究機構林 業試験場	シロヨモギ	研究	10
12.8	于 楷力	北海道大学環境科学院	エゾムギ属	研究	
12.12-13	石井 直浩	鳥取大学乾燥地研究セン ター	コウボウムギ、エゾノコ ウボウムギ	研究	200
12.15	柴田 あかり	北海道大学地球環境科学 研究院	ジンチョウゲ属	研究	1

12.19	武田 千恵子	所属なし	シダ植物・スゲ属	研究	
12.20	志田 祐一郎	野生生物総合研究所	イカリソウ属・サカネラン属	研究	
2024.1.15	武田 千恵子	所属なし	シダ植物・スゲ属	研究	
1.18	五十嵐 博	北海道野生植物研究所	キク科など	研究	
2.2	武田 千恵子	所属なし	シダ植物・スゲ属	研究	
2.8	五十嵐 博	北海道野生植物研究所	アブラナ科など	研究	
2.15	倉田 正観	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター	チョウジソウ	研究	
2.28	于 楷力	北海道大学環境科学院	ウルップソウ	研究	
3.23-24	黒沢 高秀	福島大学共生システム理工学類	福島県産標本	研究	
3.23-24	志賀 隆	新潟大学教育学部	水生植物	研究	
3.24	山崎 真実	札幌市博物館活動センター	ウラボシ科	研究	
3.27	高嶋 八千代	北方植物資料研究会	イノモトソウ科・イワガネソウ	研究	
3.28	吉川 諒	野外科学株式会社	草本全般	研究	

・借受（貸出のみ）

利用期間	利用者	所属	標本名	目的	点数
4.1~5.8	大槻 達郎	滋賀県立琵琶湖博物館	イブキノエンドウ	研究	2
6.1~7.7	阪口 翔太	京都大学大学院人間・環境学研究科	広義オオバキスミレ	研究	66

・他標本庫・組織への寄贈

寄贈日	寄贈先	寄贈先所属	標本名	目的	点数
6.1	阪口 翔太	京都大学大学院人間・環境学研究科	根室市産ミヤマスミレ	研究	1
10.24	黒沢 高秀	福島大学共生システム理工学類	重複標本	交換	269
2024.2.26	池田 博	東京大学総合研究博物館	ミチノクフクジュソウのアイソレクトタイプ	研究	1
2.26	永益 英敏	京都大学総合博物館	ミチノクフクジュソウのアイソレクトタイプ	研究	1
2.26	牧 雅之	東北大学植物園	ミチノクフクジュソウのアイソレクトタイプ	研究	1

・寄贈受け入れ

SAPS では学内/学外者による標本寄贈が日常的に行われている。例年ここでは大型のコレクションの受入（1,000 点以上）のみを記すこととしているが、2023 年度の受け入れはなかった。

・新規整理登録標本

北海道産維管束植物標本 約 2,000 点

・利用に基づく報文（21 報）

1. Shutoh K. 2023. Lectotypification of four intraspecific taxa described by Dr. Misao Tatewaki from Rebun and Rishiri islands, Hokkaido, Japan. *Journal of Japanese Botany* 98(4): 208–213.
2. Takahashi KT, Oda J, Fuse S, Yano O, Lu Y-F, Jin X-F, Tamura MN. 2023. Biosystematic Studies of *Carex* (Cyperaceae) III. Phylogenetic Analyses of the *Carex filipes* complex (sect. Paniceae) in East Asia, with Reference to Morphology, Karyology and Taxonomy. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica* 74(2): 71–103.
3. Takahashi H, Barkalov VY, Nagamasu H, Azuma T. 2023. New Name for the *Artemisia* Species (Asteraceae) Endemic to Maguntan Mud Volcano, Sakhalin, Russia. *Journal of Japanese Botany* 98(5): 221–226.
4. Tamaki I, Mizuno M, Ohtsuki T, Shutoh K, Tabata R, Tsunamoto Y, Suyama Y, Nakajima Y, Kubo N, Ito T, Noma N, Harada E. 2023. Phylogenetic, population structure, and population demographic analyses reveal that *Vicia sepium* in Japan is native and not introduced. *Scientific Reports* 13: 20746.
5. Naito H, Shiga T. 2024. Distribution of *Nymphaea pygmaea* and *N. tetragona* (Nymphaeaceae) in Hokkaido, Sakhalin Island, and the Kuril Islands based on herbarium specimen records. *Journal of Asia-Pacific Biodiversity* 17(1): 81–86.
6. 首藤光太郎, 山崎真実, 佐久間春子, 富士田裕子. 2023. 北海道新産のゴハリマツモ (マツモ科) と道内におけるマツモ属の極めて稀な結実記録. *植物地理・分類研究* 71(1): 65–71.
7. 山岸洋貴, 首藤光太郎. 2023. 北海道におけるミヤマキケマン (ケシ科) の分布について. *植物地理・分類研究* 71(1): 73–78.
8. 中川博之, 佐藤謙. 2023. トウゴクサイシン (ウマノスズクサ科) の北海道新産を確認する. *植物研究雑誌* 98(5): 264–267.
9. 加藤ゆき恵, 首藤光太郎. 2023. 北海道大学内で所在不明となっていたホロタイプ 3 点の発見と『秋山茂雄『極東亜産スゲ属植物』図版標本目録』(2009) の補遺. *莎草研究* (25): 29–37.
10. 石川弘晃, 富士田裕子, 首藤光太郎. 2023. 国内東限を更新するチャボイ(カヤツリグサ科)の新産地を北海道風蓮湖で確認. *莎草研究* (25): 45–50.
11. 山崎真実, 首藤光太郎. 2023. 札幌市東区におけるヒンジモ *Lemna trisulca* L. の新たな生育地点及びサッポロさとらんど内「さとの池」の水生植物. *水草研究会誌* (115): 17–24.
12. 五十嵐博. 2024. ホロムイイチゴ (バラ科) の北海道分布. *北方山草* (41): 25–29.
13. 新田紀敏. 2024. 七草考—ホロムイを冠する植物和名について—. *北方山草* (41): 30–37.
14. 五十嵐博. 2024. ミヤマカラマツ・ナガバカラマツ (キンポウゲ科) の北海道分布. *北方山草* (41): 77–79.
15. 吉中弘介, 佐藤広行. 2024. 北海道大学総合博物館植物標本庫から見つかった新渡戸稲造の採集標本とニトベカズラについて. *北方山草* (41): 80–84.
16. 深津恵太, 加藤ゆき恵, 高嶋八千代. 2024. 北海道本島におけるアキノタンポポモドキ *Scorzoneroideis autumnalis* (L.) Moench の初記録. *北方山草* (41): 91–96.

17. 武田千恵子. 2024. 北海道シダ植物相調査報告 8 一天塩岳・無意根山・札幌岳・砥石山一. 北方山草 (41): 97-107.
18. 五十嵐博. 2024. ドクウツギ (ドクウツギ科) の北海道分布. 旭川市北邦野草園研究報告 (12): 1-7.
19. 中川博之. 2024. 北海道のヤマオオウシノケグサ *Festuca hondoensis* (イネ科) について. 旭川市北邦野草園研究報告 (12): 11-16.
20. 横山 (木村) 耕, 中川博之, 丹羽真一, 佐藤謙. 2024. 日高山脈北部, 二岐岳とシネップナイ沢の維管束植物相. 旭川市北邦野草園研究報告 (12): 23-41.
21. 加藤ゆき恵, 首藤光太郎, 城坂 (平林) 結実, 水島未記, 持田誠, 山崎真実. 2024. 北海道内博物館合同展示「押し花の押し花〜牧野富太郎と植物標本」の報告. 北海道博物館研究紀要 (9): 127-136.

<菌類標本利用記録> (担当 小林孝人 資料部研究員・首藤光太郎 助教)

菌類標本庫 (SAPA) には, 明治時代から採集されてきた菌類標本が収蔵されている。今年度は, 来庫者 1 名、寄贈は 1 件であった。

・目的別点数のまとめ

研究	教育	展示	その他	総数

この数字は, 借用時に記入されたものに基づいている。分類群標本 1 点を 1 点と計数している。

・標本庫 (標本庫は学内の院生・学生に日常的に利用されている。以下の利用記録は申請書が提出されたもののみで、実際の利用者の一部である)

利用期間	利用者	所属	標本名	目的	点数
	中田洋子	藻岩山きのご観察会			

・寄贈標本

寄贈者名	標本名	点数	受け入れ日
	変形菌の標本		

<海藻標本利用記録> (担当 阿部剛史 准教授)

<昆虫標本利用記録> (担当 大原昌宏 教授)

北海道大学の院生や学生の利用は、定期的にある。学外の研究者や院生などによる当館の使用は、例年に比べ少なかった。

利用期間	利用者	所属	標本名	目的	点数
4.20-23	蓑島悠介	北九州市立自然史・歴史博物館	Coleoptera	研究	不明
4.23	瑤寺 裕	京都府立大学	Lepidoptera・Coleoptera	研究	不明
5.25	谷口 諒	北海道大学	Coleoptera	研究	不明
6.22	島田 孝	静岡市	Coleoptera	研究	不明
6.28	矢島民夫	草加市	Coleoptera	研究	不明
7. 8	和田 薫	明星大学	Coleoptera	研究	不明
7. 24	新里達也	東京都	Coleoptera	研究	不明
8.1-11	Hsuan-Pu Chen	台湾大学	Hymenoptera	研究	不明
10.4	森下俊介	豊橋市	Hymenopter	研究	不明
10.10	脇村涼太郎	東海大学	Coleoptera	研究	3 exs.
10.11-2 6	Alissa Lee Suzumura	ワシントン大学	Coleoptera	研究	不明
10.30	Lichen Shih	台湾・特有生物研究保育中心	Lepidoptera	研究	不明
11.27	Jake Lewis	OIST	Coleoptera	研究	不明
12.10	脇村涼太郎	東海大学	Coleoptera	研究	3 exs.
12.16	山田良純・奥野雄太	帯広畜産大学	Coleoptera, Diptera	研究	不明
12.27	山田良純・奥野雄太	帯広畜産大学	Coleoptera, Diptera	研究	不明
2.14-17	Shun-Chern Tsaur	台湾大学	Diptera	研究	不明
3.21	吉富博之	愛媛大学	Coleoptera	研究	不明

・借受

利用期間	利用者	所属	標本名	目的	点数
6.22	島田 孝	静岡市	Coleoptera	研究	2 exs.
10.4	森下俊介	豊橋市	Hymenopter	研究	319 exs.

11.27	Jake Lewis	OIST	Coleoptera	研究	249 exs.
-------	------------	------	------------	----	-------------

・ 寄贈標本

寄贈者名	標本名	点数	受け入れ日
福本（夕張市）	主にトンボ標本（国内、国外）	小型紙箱な ど 300 箱	2024 年 8 月 15 日

・ 新規整理登録標本

標本名	整理・登録	点数
SEHU-insect（昆虫類：鞘 翅目、膜翅目）	登録（S-NET/GBIF 掲載データ）	5000

4-3) SEHU 標本が引用された主な論文 13 件

1. Saito, H., 2022. A new species of Neologogynium and new recods of Lobogynium sudhiri of the mite family Diplogyniidae (Acari: Mesostigmata: Trigynaspida) phoretic on some beetles (Coleoptera: Histeridae, Synteliidae, and Geotrupidae) from Japan. Species Diversity, 27: 329–340.
2. Abe, J., 2023. Redescription of Nothoserphus afissae (Watanabe, 1954) (Hymenoptera: Proctotrupidae), a parasitoid wasp of lady beetle. Japanese Journal of Entomology, (n. ser.), 26 (3): 179–183.
3. Chen, H.-P., Lin, K.-T. and Wu, S., 2023. Re-evaluation of the taxonomic cnfusion of the metallic-blue Pimpla Fabricius, 1804 (Hymenoptera: Ichneumonidae: Pimplinae) species in the Oriental region. Zootaxa, 5357(2): 270–284.
4. Sasakawa, K., 2023. Taxonomic study of the alpine carabid beetle Nebria (Falcinebria) taketoi Habu, 1962 (Coleoptera, Carabidae). Alpine Entomology, 7: 185-194.
5. Chen H.-P. and Shiao S.-F., 2023. The newly recorded genus Nipponaetes Uchida (Hymenoptera: Ichneumonidae: Phygadeuontine) from Taiwan based on redescrptions of two species, with notes on their morphological variations. Journal of Taiwan Agricultural Research, 73(1): 11–23.
6. 大原昌宏・中岡利泰・高木大稔・小川直記・菊地波輝・山本ひとみ, 2023. 北海道えりも町豊似湖周辺ほか昆虫調査報告. VII. 甲虫類 4. えりも研究, (20): 1–3.
7. dela Cruz, I. N., and M. Ôhara, 2023. Revision of the genus Atholus Thomson, 1859 (Coleoptera, Histeridae) from the Philippines with additional records. ZooKeys, 1158: 1–26. doi.org/10.3897/zookeys/1158.100518
8. Kikuchi, T., and M. Ôhara, 2023. Taxonomic note of Syntelia histeroides Lewis, 1882

- (Coleoptera, Histeroidea, Synteliidae) from Japan. *Elytra*, (n. ser.), 13 (1): 1–12.
9. dela Cruz, I. N., and M. Ôhara, 2023. Additional records of the Japanese species of the genus *Atholus* Thomson, 1859 (Coleoptera, Histeridae), with SEM photos of external characters and illustration of mouthparts and female genitalia. *Elytra*, (n. ser.), 13 (1): 13–38.
 10. Ho, Y.-H., I. N. dela Cruz and M. Ôhara, 2023. Additional records of the species of the genus *Atholus* Thomson (Coleoptera, Histeridae) from Taiwan, with an updated key to the Taiwanese species. *Taiwanese Journal of Entomological Studies*, 8 (2): 40–50. doi.org/10.5281/zenodo.8077087
 11. Kikuchi, T., and M. Ôhara, 2023. Taxonomic note on the riverine histerid beetles of the genus *Hypocaccus* Thomson, 1867 (Coleoptera, Histeridae, Sapininae) in Japan, with description of a new species. *Elytra*, (n. ser.), 13 (2): 203–238.
 12. dela Cruz, I. N., Y.-H. Ho and M. Ôhara, 2023. Taxonomic notes of the endemic hister beetles *Atholus nitidissimus* Desbordes, 1925 (Coleoptera, Histerinae, Histerini) from the Philippines. *Elytra*, (n. ser.), 13 (2): 239–244.
 13. dela Cruz, I. N., M. Murakami, and M. Ôhara, 2023. New habitat record and possible ant-association of two species of Histeroidea (Coleoptera) in Japan. *Elytra*, (n. ser.), 13 (2): 245–246.

<魚類標本利用記録> (担当 田城文人 助教)

【利活用】

本学の魚類標本は、日常的に教員・学生の研究、および学生の教育に活用されている。その他にも、国内外から多数の標本借用の要望があり、本学以外の研究者にも活用されている。2023年度は海外からの来訪者や外国人研究者による利用が増加した。外部機関からの資料移管に関する問い合わせ・依頼が増えつつあり、それらの中には古い標本群や既報論文の証拠標本なども含まれる。それらの受け入れ判断等は、他博物館とも連携して次年度以降に取り組む予定である。

・ 目的別点数のまとめ

研究	教育	展示	その他	総数
3077	300	1	2405	5783

・ 標本庫（総合博物館構成員の利用は除く）

利用期間	利用者	所属	標本名	目的	点数
4.1-3.31	古庄 誠	北海道大学水産科学院	中深層性魚類他	研究	500
4.1-3.31	小幡 光汰	北海道大学水産科学院	ベロガレイ科魚類他	研究	200
4.1-3.31	樋口 淳也	北海道大学水産科学院	ホウボウ科魚類他	研究	300
4.1-3.31	井黒 浩輔	北海道大学水産科学院	ウラナイカジカ科魚類他	研究	300

4.1-3.31	園山 萌香	北海道大学水産科学院	ギンアナゴ属魚類他	研究	120
4.1-3.31	濱田 幸穂	北海道大学水産科学院	アンコウ属魚類他	研究	50
4.1-3.31	山梨 颯太	北海道大学水産科学院	フサカサゴ科魚類他	研究	50
4.1-3.31	李 証浩	北海道大学水産科学院	ゲンゲ科魚類他	研究	30
4.1-3.31	松本 堅	北海道大学水産科学院	チゴダラ科魚類・サメ類	研究	50
4.1-3.31	張 逸帆	北海道大学水産科学院	ソコイワシ科魚類	研究	20
4.1-3.31	檜垣 健介	北海道大学水産学部	トビウオ科魚類	研究	50
4.1-3.31	伊藤 和希	北海道大学水産学部	カレイ目魚類	研究	200
4.1-3.31	北向 祐人	北海道大学水産学部	ウキゴリ属魚類	研究	110
4.1-3.31	篠原 知樹	北海道大学水産学部	縦扁形底生性魚類	研究	20
4.1-3.31	二瓶 聡	北海道大学水産学部	アシロ目魚類	研究	70
4.1-3.31	山下 花梨	北海道大学水産学部	台湾産魚類	研究	60
4.1-3.31	横川 健太	北海道大学水産学部	台湾産魚類	研究	160
4.1-3.31	山口 篤・松野 孝平 他	北海道大学水産科学院 プランクトン教室	プランクトン標本	研究	10 回
4.1-3.31	木村 克也	北海道大学水産学部	海産魚類	研究	300
5.15-19	Hsuan-Ching Ho	National Museum of Marine Biology & Aquarium	中深層魚類	研究	80
5.15-19	Yo Su	National Sun Yat-sen University	ヒウチダイ科魚類他	研究	50
10.10-20	Shing-Lai Ng	National Taiwan Ocean University	カラスザメ科魚類他	研究	80
11.1	Devin D. Bloom	Western Michigan University	ヤツメウナギ科魚類他	研究	50
11.1	Lindsey DeHaan	University of Michigan	海産魚類	研究	30
11.6	仲谷 一宏	北海道大学名誉教授	サメ類	研究	5
1.9-17	Hsuan-Ching Ho	National Kaohsiung University of Science and Technology	中深層魚類	研究	50

・借受

利用期間	利用者	所属	標本名	目的	点数
------	-----	----	-----	----	----

5.18	Hsuan-Ching Ho	National Museum of Marine Biology and Aquarium	魚類標本（DNA 解析用試料）	研究	5
5.23	高橋 鉄美	兵庫県立人と自然の博物館	魚類標本	展示	1
5.26	甲斐 嘉晃	京都大学舞鶴水産実験所	魚類標本（DNA 解析用試料）	研究	14
6.7-14		水産学部海洋生物科学科（学生実験）	魚類標本	教育	300
7.17	Peter C. Searle	Cornell University	魚類標本（DNA 解析用試料）	研究	10
7.20	井藤 大樹	徳島県立博物館	魚類標本	研究	11
10.18	Hsiu-Chin Lin	National Sun Yat-sen University	魚類標本	研究	14
10.18	Hsiu-Chin Lin	National Sun Yat-sen University	魚類標本（DNA 解析用試料）	研究	5
10.20	Shoou-Jeng Joung	National Taiwan Ocean University	魚類標本	研究	2
10.20	Shoou-Jeng Joung	National Taiwan Ocean University	魚類標本（DNA 解析用試料）	研究	12
12.6	Amanda Hay	Australian Museum	魚類標本	研究	24
12.20	三澤 遼	水産研究・教育機構水産資源研究所	魚類標本	研究	1
12.20	三澤 遼	水産研究・教育機構水産資源研究所	魚類標本（DNA 解析用試料）	研究	1
2.8	遠藤 浩光	高知大学理工学部	魚類標本	研究	24
2.8	遠藤 浩光	高知大学理工学部	魚類標本	研究	1
2.8	Mark Lisher	Iziko Museums of South Africa	魚類標本（DNA 解析用試料）	研究	10
2.16	Hin-Kiu Mok	National Sun Yat-sen University	魚類標本	研究	8
3.1-		みんなの博物館	魚類標本写真	その他	2405

・ 寄贈標本

標本名	寄贈者名	点数
魚類標本	非公開（7 名・機関）	3000

・新規整理登録標本

標本名	整理・登録	点数
魚類標本	登録 (HUMZ 233526-235030)	1505
魚類標本	整理	多数

5-4) 証拠標本として利用された主な論文

1. 古庄 誠・森川英祐・三澤 遼・田城文人. 2023. 茨城県沖で採集された日本初記録のウミヘビ科魚類 *Ophichthus longicorpus* アズキウミヘビ (新称). 魚類学雑誌, 70: 187-192.
2. 井黒浩輔・今村 央. 2023. 北海道函館市臼尻で採集されたハリセンボン科魚類 2 種の北限記録. 北大水産彙報, 73: 27-32.
3. Kimura, K. 2023. First southeastern Pacific record of Balloon Alfonsin, *Beryx mollis* Abe, 1959 (Beryciformes, Berycidae), with notes on geographical meristic variations. Check List 19: 877-882.
4. Kimura, K. 2023. An enigmatic internal organ discovered in pink flabby whalefish, *Cetostoma regani* (Teleostei: Cetomimidae). Ichthyol. Res.: <https://doi.org/10.1007/s10228-023-00932-2>.
5. 小幡光汰・古庄 誠・今村 央・成松庸二. 2023. カンテントカゲギス属魚類 *Melanostomias nigroaxialis* の日本からの初記録. 魚類学雑誌, 70: 179-186.
6. 小幡光汰・河合俊郎. 2023. 北海道函館市臼尻から採集されたモヨウフグ *Arothron stellatus*. 北大水産彙報, 73: 41-46.
7. Obata, K., Kawai, T. and Shinohara, G. 2023. A rare flatfish, *Samaris spinea* (Teleostei: Pleuronectiformes: Samaridae) from the Ogasawara Islands, Japan, with notes on its distribution, taxonomy and sexual dimorphism. Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. A, 49: 179-189.
8. Obata¹, K., Mita, K., Senda, T., Kawai, T., Tashiro, F., Imamura, H., Aungtonya, C. and Banchongmanee, S. 2023. Deep-sea fishes from the Andaman Sea by R/V Chakratong Tongyai during 1996-2000. Part 7: order Stomiiformes. Phuket Mar. biol. Cent. Res. Bull. 80: 21-51.
9. 岡本 誠・甲斐嘉晃・三澤 遼・鈴木勇人・時岡 駿. 2023. 太平洋初記録のヤエギス科魚類 *Platyberyx maui* シャモジヤエギス (新称) と北海道初記録の *Platyberyx andriashevi* イロジロヤエギス. 魚類学雑誌, 70: 21-31.
10. White, W.T., O'Neill, H.L., Devloo-Delva, F., Nakaya, K. and Iglésias, S.P. 2023. What came first, the shark or the egg? Discovery of anew species of deepwater shark by investigation of eggcase morphology. J. Fish Biol.,103: 73-90.
11. Aitchison, R.M., Ebert, D.A., Séret, B. and Weigmann, S. 2024. Review of three southwestern Indian Ocean species of *Rhinobatos* (Rhinopristiformes: Rhinobatidae).

Endang. Species Res., 53: 67–87.

12. Diego, F.B.V., Avery, T.M., Gabler-Smith, M.K. and Lauder, G.V. 2024. The denticle multiverse: morphological diversity of placoid scales across ontogeny in the Portuguese dogfish, *Centroscymnus coelolepis*, and its systematic implications. *Diversity*, 15: 1105, <https://doi.org/10.3390/d15111105>.
13. Imamura, H. and Hoese, D.F. 2024. Type status and taxonomic accounts for *Ambiserrula jugosa* (McCulloch 1914) and *Inegocia harrisii* (McCulloch 1914) (Scorpaeniformes: Platycephalidae). *Ichthyol. Res.*: <https://doi.org/10.1007/s10228-023-00929-x>.
14. 金井聖弥・武藤望生・本村浩之. 2024. 北海道日本海沿岸から得られた北限記録のクロメジナ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 40: 58–61.
15. Matsumoto, T. and Motomura, H. 2024. Taxonomic review of the *Neomerinthe bucephalus* species group (Teleostei: Scorpaenidae), with description of a new species from Vanuatu. *Ichthyol. Res.*, 71: 13–39.
16. Matsunuma, M. and Tashiro, F. 2024. Identification of the holotype of *Pleuronectes chrysopterus* Bloch and Schneider 1801 as a species of *Platichthys* (Pleuronectidae), not *Pseudorhombus arsius* (Hamilton 1822) (Paralichthyidae). *Ichthyol. Res.*, 71: 187–192.
17. Matsunuma, M., Tashiro, F. and Motomura, H. 2024. First Japanese records of the flounders *Pseudorhombus elevatus* and *P. quinquocellatus* (Teleostei: Paralichthyidae) from Okinawa Island, Ryukyu Islands. *Spec. Divers.*, 29: 9–21.
18. Matsunuma, M., Ujihara, A. and Endo, H. 2024. Two new species of *Aulotrachichthys* (Beryciformes: Trachichthyidae) from the northwestern Pacific. *Ichthyol. Res.*, 71: 56–82.
19. Mori, T., Matsuzaki, K., Kai, Y. and Tashiro, F. 2024. *Careproctus rhomboides*, a new snailfish (Cottoidei: Liparidae) from the western North Pacific. *Ichthyol. Res.*: <https://doi.org/10.1007/s10228-024-00953-5>.
20. Obata, K. and Imamura, H. 2024. First Pacific record of the rare scaleless dragonfish *Grammatostomias circularis* (Teleostei: Stomiiformes: Stomiidae) from the Ogasawara Islands, Japan. *Spec. Divers.*, 29: 73–79.
21. Okamoto, M., Baldwin, C.C. and Long, D.J. 2024. Two new species of the deepwater cardinalfish genus *Epigonus* (Epigonidae) from deep reefs off Curaçao, southern Caribbean. *Ichthyol. Res.*: <https://doi.org/10.1007/s10228-024-00948-2>.
22. Su, Y., Ho, H.-C. and Chu, T.-W. 2024. First case of a reversed *Parabothus taiwanensis* Amaoka & Shen, 1993 from Taiwan (Pleuronectiformes: Bothidae), with first evidence of situs inversus viscerum in bothid. *PeerJ*, 12: e16829.
23. Vo, V.Q., Ho, H.-C., Dao, H.V., and Tran, T.C. 2024. New species of the eel genera *Dysomma* and *Dysommima* from Vietnam, South China Sea (Anguilliformes: Synphobranchidae). *J. Fish Biol.*: <https://doi.org/10.1111/jfb.15638>.

24. White, W.T., Stewart, A.L., O'Neill, H.L. and Naylor, G.J.P. 2024. Dichichthyidae, a new family of deepwater sharks (Carcharhiniformes) from the Indo-West Pacific, with description of a new species. *Fishes*, 9: 121, <https://doi.org/10.3390/fishes9040121>.

＜古生物学標本利用記録＞（担当 小林快次 教授）

北海道大学の院生や学生の利用が定期的にあった。脊椎動物化石だけではなく、植物化石や無脊椎動物化石など、広い分類群にわたり研究利用があった。また、「Innovate Museum 事業」のため、当館に保管されているタイプ標本の化石を撮影し、90件の標本が一般公開されることとなった。

・ 目的別点数のまとめ

研究	教育	展示	その他	総数
120	50	10	90	270

・ 借受

利用期間	利用者	所属	標本名	目的	点数
10. 26-	James Rule	ロンドン自然史博物館	<i>Archaeodobenus akamatsui</i>	研究	10
3. 27-	西村智弘	むかわ町穂別博物館	無脊椎動物化石	研究	200

・ 寄贈標本

なし

・ 新規整理登録標本

標本名	整理・登録	点数
無脊椎動物化石標本	整理	100

＜岩石鉱物鉱石標本利用記録＞（担当 北野一平 助教）

総合博物館には、1930（昭和 5）年に理学部旧地質学鉱物学教室が開設されて以降、歴代の教官・学生により国内外より収集・蓄積されてきた岩石・鉱物・鉱石標本が約 18 万点収蔵されている。現在ではほとんど入手不可能な千島列島や北朝鮮産の貴重な岩石・鉱物・鉱石標本をはじめ、北海道ではライマン標本に次いで二番目に古いとされる札幌農学校卒業生等により収集された地質標本コレクション、国内の全ての産地から採集され全試料の化学分析データも揃った黒曜石標本、北海道産新鉱物や北海道内の既に閉山された各鉱山産の鉱石・変質母岩類も収蔵されている。今年度は展示用の標本借用があり、STV 企画札幌駅 JR タワー主催の「北海道大学総合博物館がやってきた！ JR タワー・エゾミュージアム」展示または札幌市博物館活動センター企画展「地球ノカケラ」岩石・鉱物展に利用された。また、標本庫の標本調査で

の利用があり、6 件の標本寄贈があった。そのほかに、当館では北海道石標本を利活用した、新鉱物「北海道石」展示やカルチャーナイトでの「北海道石など蛍光観察会」を実施した。ボランティアを中心とした標本整理作業は継続されており、収蔵標本の情報照合のみならず、写真撮影、サイズ測定も行い、標本 excel データを更新して標本情報のデータベース化を着実に進めている。標本の 3D スキャンにも着手している。

・ 目的別点数のまとめ

研究	教育	展示	その他	総数
1		28	多数	29

・ 標本庫

利用期間	利用者	所属	標本名	目的	点数
4.17-4.19	吉田 郁吹	情報科学院 情報理工学コース	3 階展示室 展示標本	研究	1
5.25	福地 伸章	日鉄鉱コンサルタント株式会社	電気石含有火成岩・変成岩	視察	多数
10.3	山崎 真実	札幌市博物館活動センター	北海道石など	展示	12

・ 借受

利用期間	利用者	所属	標本名	目的	点数
9.16 ~ 9.24	飯島 寿之	STV	北海道石など	展示	1 4
12.2 ~ 2.24	柏原 理	札幌市博物館活動センター	北海道石など	展示	1 4

・ 寄贈標本

標本名	寄贈者名	点数
ピンクアメジストなど	EDUARDO JAWERBAUM	4
かんらん石-ざくろ石含有黒雲母石英ノーライト	前田仁一郎	1
パイロープ	前田仁一郎	1

・ 新規整理登録標本

標本名	整理・登録	点数
渡島帯	登録	22
神居古潭	登録	4
ベトナム・ナムディン	登録	28

渡島帯	登録	22
由井標本および野帳	整理	約 1400
常設展示室収蔵岩石標本	整理・データ更新	531

・利用に基づく報文

Kitano, I., Hokada, T., Baba, S., Kamei, A., Motoyoshi, Y., Nantasini, P., Setiawan, N.I., Dashbaatar, D., Toyoshima, T., Ishikawa, M., Katori, T. Osanai, Y., Nakano, N. (2023) Zircon geochronology of high-grade metamorphic rocks from outcrops along the Prince Olav Coast, East Antarctica: Implications for the multi-thermal events and regional correlations. Journal of Mineralogical and Petrological Sciences, 118, ANTARCTICA, S009.
<https://doi.org/10.2465/jmps.221220>

＜考古学標本利用記録＞（担当 江田真毅 教授）

総合博物館の考古学標本は主に文学部附属北方文化研究施設が 1960～1970 年代に発掘した道北地域のオホーツク文化期の資料群である。今年度は、香深井 1 遺跡（礼文町）から出土した土器の資料調査が目立った。従来の肉眼比較による研究のほか、蛍光 X 線を用いた理化学分析などにも利用されている。また、資料部研究員の協力のもと目梨泊遺跡（枝幸町）の資料の整理を進め、その成果を『北海道大学総合博物館研究報告第 9 号』として刊行した。当館のサーバ契約の変更に伴い考古学資料検索システム（<https://www.museum.hokudai.ac.jp/collection/database/scrapdb/>）は閉鎖せざるを得なくなってしまったものの、データのほとんどを Innovate MUSEUM 事業で作成したデジタルデータベース「みんなの博物館」上に移行し、引き続き検索が可能なものとした。さらに、63 点の標本の 3D データを取得し、「みんなの博物館」上で閲覧できるようにした。

・目的別点数のまとめ

研究	教育	展示	その他 (DX)	総数
64	0	0	63	127

・標本庫（標本庫は学内の院生・学生に日常的に利用されている。以下の利用記録は申請書が提出されたもののみで、実際の利用者の一部である）

利用期間	利用者	所属	標本名	目的	点数
4.24-5.2	Erin Gamble	University of Washington	香深井 1 遺跡出土土器	研究	40
11.6	内山 幸子	東海大学	考古学収蔵閲覧室見学	教育	

	(ほか職員 1 名、学生 13 名)				
11.15-11.16	島津 徳人	麻布大学 食品生理学 研究室	香深井 1 遺跡の動物骨 (ヒグ マ、ブタ)	研究	20
1.23	宮塚 義人	(有)宮塚文化財研究所	香深井 1 遺跡出土土器	研究	3
3.18	小嶋芳孝	金沢大学古代文明・文 化資源学研究所	香深井 1 遺跡出土陶質土器	研究	1

・借受 なし

・寄贈標本
なし

・新規整理登録標本

標本名	整理・登録	点数
香深井 1 遺跡出土の海獣骨	整理	
目梨泊遺跡出土資料	整理	

・利用に基づく報文 (1 報)

1. 江田真毅・天野哲也・小野裕子編. 2024. 『北海道大学総合博物館研究報告第 9 号』.

＜脊椎動物標本利用記録＞ (担当 江田真毅 教授)

総合博物館の脊椎動物標本は主に獣医学部や歯学部解剖学教室において主に 1960 年代以降に収集された資料群である。エゾシカを中心としたシカ類、全道のキタキツネ、動物園で飼育されていたキリンやライオン、カバなど貴重な標本が収蔵されている。今年は、遺跡出土動物骨の同定のための骨標本利用やコアホウドの胸骨の比較解剖学的研究などのための利用があった。また、鳥類の生態調査への利用を目的とした剥製の貸出や、円山動物園で開催された企画展「海鳥展」での展示のための海鳥の剥製や骨標本の貸出、STV 企画札幌駅 JR タワー主催の「北海道大学総合博物館がやってきた！ JR タワー・エゾミュージアム」での展示のための剥製の貸出があった。さらに、ヒグマや鳥類の耳小骨コレクション、キツネ、ラッコなどの骨標本やヒグマの剥製が本学の講義やイベントなどに借り出されている。また Innovate MUSEUM 事業との関連から 110 点の標本の 3D データを取得し、デジタルデータベース「みんなの博物館」上で閲覧できるようにした。収蔵閲覧室や作業室のバックヤードツアーは下記のほか大学博物館等協議会のエクスカージョンとしても実施した。

・目的別点数のまとめ

研究	教育	展示	その他 (DX)	総数
190	73	93	110	466

・標本庫（標本庫は学内の院生・学生に日常的に利用されている。以下の利用記録は申請書が提出されたもののみで、実際の利用者の一部である）

利用期間	利用者	所属	標本名	目的	点数
5.17	青木 大輔	森林総合研究所	剥製（カッコウ、ツツドリ、キンメフクロウ等）	研究	10
6.30-7.3	植月 学	帝京大学文化財研究所	骨格標本（鳥類、海獣類）	研究	20
9.13-9.20	原山 法大	東海大学生物学部	骨標本（アホウドリ類胸骨）	研究	102
11.6	内山 幸子 （ほか職員 1名、学生 13名）	東海大学	脊椎動物収蔵閲覧室見学	教育	
11.10	工藤 智美	札幌科学技術専門学校	脊椎動物収蔵閲覧室見学	教育	
1.23-1.26	高橋 鵬成	礼文町教育委員会	骨標本（ヒグマ、キタキツネ、トド、カワウ等）	研究	17
2.21	鈴木 聡	神奈川県立生命の星・地球博物館	骨標本（イタチ科）	研究	7

・借受

利用期間	利用者	所属	標本名	目的	点数
4.1.-3.31	増田 隆一	北海道大学理学研究院	哺乳類頭骨標本	教育	56
4.1.-3.31	奥田 ゆう	岡山理科大学	鳥類標本（コアホウドリ他）	研究	3
4.1.-3.31	板倉 来衣人	帯広畜産大学	頭骨標本（ヒグマ）	研究	17
5.11-6.2	室永 瑞貴	札幌市立東白石中学校	骨標本（トガリネズミ、ハシボソガラス等）、剥製（インドオコウモリ）	教育	9
6.28-11.20	松下 孝幸	土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム	コミミズク剥製	展示	1

5.17-3.31	青木 大輔	森林総合研究所	剥製（カッコウ、ツツドリ、キンメフクロウなど）	研究	10
7.30-8.1	工藤 智美	えぞホネ団 Sapporo	剥製（ヒグマ幼獣）	展示	1
7.31	謝 倩氷	北海道大学総合博物館 考古(骨)ボランティア	骨標本（コウライキジ、イ ワトビペンギン等）、鳥類 耳小骨コレクション	展示	35
9.7-10.6	本堂 正久	藤女子中学校・高等学校	骨標本（コガモ）	教育	1
10.21- 10.23	謝 倩氷	北海道大学総合博物館 考古(骨)ボランティア	鳥類耳小骨コレクション	展示	30
9.16 ~ 9.24	飯島 寿之	STV	剥製（ヒグマ、エゾシカ、 エゾライチョウなど）	展示	14
11.2-11.4	工藤 智美	えぞホネ団 Sapporo	剥製（ヒグマ幼獣、ウマ尾 等）、凍結乾燥標本（フン ボルトペンギン等）	展示	5
11.17- 11.18	工藤 智美	札幌科学技術専門学校	骨標本（エゾシカ、コアホ ウドリ、キングペンギン 等）	教育	7
1.10-2.14	柴田 千賀 子	札幌市円山動物園	剥製（コアホウドリ、ツノ メドリ等）、骨標本（ハシ ブトウミガラス、ウミネコ 等）	展示	7
1.26-3.31	高橋 鵬成	礼文町教育委員会	骨標本（クロアシアホウド リ）	研究	1
2.27-3.31	久井 貴世	北海道大学大学院文学研 究院	骨標本（クロヅル）	研究	2

・ 寄贈標本

標本名	寄贈者	点数
アオウミガメ剥製	個人	2
タイマイ剥製	個人	2

・ 新規整理登録標本

標本名	整理・登録	点数
哺乳類標本	登録	1558
鳥類標本	登録	82
爬虫類・両生類・魚類標本	登録	6

・利用に基づく報文（5 報）

1. Hayashi, S., Kubo, M. O., Sánchez-Villagra, M. R., Taruno, H., Izawa, M., Shiroma, T., Nakano, T., Fujita, M. 2023. Variation and process of life history evolution in insular dwarfism as revealed by a natural experiment. **Frontiers in Earth Science**, 11, DOI: 10.3389/feart.2023.1095903
2. 江田真毅 2023「北海道における ZooMS による動物利用研究の現状と可能性」高瀬克範編『季刊考古学 別冊 42 北海道考古学の最前線』, 雄山閣, 117-121 pp.
3. 許開軒・丸山真史・江田真毅 2023.「鳥類研究の最前線 2022 鳥学会 鳥類の最新研究 3 選 3 江戸時代の大坂城下町にいたのはどんな鳩？」野鳥, 88, 15-17 pp.
4. 江田真毅・宋姝・菊地大樹・劉斌 2024.「良渚古城遺跡群・鍾家港南段地点および卞家山地点出土の鳥類遺体」『日中共同研究報告書 vol. 3』, 六一書房, 199-204 pp.
5. Hsu, K., Eda, M. 2023. Poultry consumed by the Dutch in the Dejima trading post, Nagasaki, Japan. **Journal of Archaeological Science: Reports**, 49, 104008. <https://doi.org/10.1016/j.jasrep.2023.104008>

＜無脊椎動物標本利用記録＞（担当 柁原宏 教授・資料部研究員）

北大総合博物館に収蔵されている無脊椎動物コレクションはその由来に基づいて大きく 3 つのカテゴリーに分けられる。1 つ目は旧理学部動物学教室収蔵標本に収蔵されていたもの、2 つ目は理学部・理学院・理学研究院・多様性生物学講座 I のメンバーが研究に用いた証拠標本、3 つ目は学内外の研究者からの寄贈・供託によるものである。2016 年の耐震改修以降、主に第一カテゴリー（旧理学部動物学教室収蔵）と第三カテゴリー（寄贈・供託）の標本が 3 階南棟の S324（液浸標本）と S327（乾燥標本）に収蔵されているが、それらの多くは移転の際に段ボール箱に梱包された状態のまま棚におかれた状態であったが、荷ほどきの作業は令和 4 年度にほぼ完了した。第二カテゴリーの標本の多くは理学部 5 号館 5 階の多様性生物学講座 I の研究室で保管されている。これらには Invertebrate Collection of the Hokkaido University Museum (ICHUM) の通し番号を付して管理している。

2023 年度（令和 5 年度）は前年度に引き続き高木麻理さん（技術補助員）に週 1 回 10 時～17 時勤務していただき、萩谷盛雄氏寄贈の多岐腸類（扁形動物門）コレクション（第三カテゴリー）のラベル作成・データベース登録作業に従事して頂いた結果、萩谷コレクション全体の約 9 割にラベル貼付が完了した。

第二カテゴリーの標本は令和 5 年度に 379 件増加した。過去に ICHUM に供託された標本に基づいて、令和 5 年度には以下 15 報の論文（英文 14 報・和文 1 報）が公表されている。

・利用に基づく報文（15 報）

1. Abato J, Yoshida R, Kajihara H. 2023. Species description and phylogenetics of *Oerstedia fuscosparsa* sp. nov. (Nemertea: Monostilifera: Oerstedidae) from Japan. *Zootaxa* 5249: 589–597.

2. Kajihara H, Abato J, Matsushita M. 2023. Occurrence of an unidentified harrimaniid acorn worm in the genus *Stereobalanus* (Hemichordata: Enteropneusta) from the Japan Trench hadal zone. *Deep Sea Research I* 198: 104075.
3. Kakui K, Fujita Y. 2023. New sea spider species (Pycnogonida: Austrodecidae) from a submarine cave in Japan. *Journal of the Marine Biological Association of the United Kingdom* 103: e44.
4. Kakui K, Munakata M. 2023. A new *Sphaeronella* species (Copepoda: Siphonostomatoida: Nicothoidae) parasitic on *Euphilomedes* sp. (Ostracoda: Myodocopa: Philomedidae) from Hokkaido, Japan, with an 18S molecular phylogeny. *Systematic Parasitology* 100: 121–131.
5. Kakui K, Fukuchi J, Ohta M. 2023. *Diexanthema hakuohmaruae* sp. nov. (Copepoda: Siphonostomatoida: Nicothoidae) from the hadal zone in the northwestern Pacific, with an 18S molecular phylogeny. *Acta Parasitologica* 68: 413–419.
6. Kita Y, Kajihara H. 2023. Morphological and molecular characterization of a new species of the genus *Echinorhynchus* Zöega in Müller, 1776 (Acanthocephala: Echinorhynchidae) parasitizing the rock greenling *Hexagrammos lagocephalus* (Pallas) (Scorpaeniformes: Hexagrammidae) from eastern Hokkaido, Japan. *Systematic Parasitology* 100: 735–743.
7. Kita Y, Hiruta SF, Sasaki M, Kajihara H. 2023. Systematic position of the genus *Metacanthocephalus* Yamaguti, 1959 (Palaeacanthocephala: Echinorhynchida) inferred from molecular evidence, with a redescription of *Metacanthocephalus ovicephalus* (Zhukov, 1960). *Parasitology International* 94: 102731.
8. Matsumoto Y, Kajihara H, Kakui K. 2023a. A new species of *Leipsurops* Stebbing, 1899 (Amphipoda: Podoceridae) from Japan. *Nauplius* 31: e2023005.
9. Matsumoto Y, Kajihara H, Kakui K. 2023b. *Capropodocerus*, a new genus in Podoceridae (Crustacea: Amphipoda) from Japan, with descriptions of two new species. *Zootaxa* 5336: 577–589.
10. Onishi T, Hiruta S, Kajihara H, Dick MH. 2023. The bryozoan *Cauloramphus magnus* (Cheilostomata: Calloporidae) in northern Japan Includes multiple, cooccurring cryptic species. *Zoological Science* 40: 175–188.
11. 大矢佑基・露木葵唯. 2023. 高知県大月町から得られた *Trigonoporus* cf. *mirabilis* (扁形動物門: 多岐腸目) . *Kuroshio Biosphere* 20: 33–38.
12. Sato A, Arakawa K, Kakui K. 2023. Two new species in Leptocheliidae (Crustacea: Peracarida: Tanaidacea) from Japan, with notes on their phylogenetic position and aspects of morphology. *Zoologischer Anzeiger* 306: 51–68.
13. Shimada D, Kakui K, Fujita Y. 2023b. A new species of free-living marine nematode, *Fotolaimus cavus* sp. nov. (Nematoda, Oncholaimida, Oncholaimidae), isolated from a submarine anchialine cave in the Ryukyu Islands, southwestern Japan. *Zoosystematics and*

Evolution 99: 519–533.

14. Tsuyuki A, Oya Y, Jimi N, Hookabe N, Fujimoto S, Kajihara H. 2023. *Theama japonica* sp. nov., an interstitial polyclad flatworm showing a wide distribution along Japanese coasts. Zoological Science 40: 262–272.
15. Tsuyuki A, Oya Y, Kajihara H. 2023. A new species of slender flatworm in the genus *Eucestoplana* and a record of *E. cf. cuneata* (Platyhelminthes, Polycladida) from the Okinawa Islands, Japan, with an inference of their phylogenetic positions within Cestoplanidae. Zoosystematics and Evolution 99: 363–373.

大原昌宏 教授

研究内容の概要

昆虫体系学。(1) 海浜性甲虫群集の分類と生物地理学。東アジアと北米西海岸の海浜性甲虫(エンマムシ科、ガムシ科、ゴミムシダマシ科、ゾウムシ科など)の分類学的研究を行い、アジア・北米間の海浜性甲虫類の群集の種構成差異を明らかにし、両地域間の生物地理学的な分布の成り立ちと種間・属間系統との関係を検討した。科研費(分担)に関わる研究。(2) 北方圏のエンマムシ、陸生ガムシ(昆虫綱、鞘翅目)の分類学・生物地理学的研究。日本から千島、樺太、朝鮮半島にかけて、エンマムシ科(Histeridae)と陸生のガムシ科(Hydrophilidae)について分布、種構成など分類学的・生物地理学的基礎情報の収集を目的とした。特に陸生ガムシは日本北部における先行研究がないため、多くの新知見が得られた。(3) タイプ標本データベース作成。昆虫綱鞘翅目のタイプ標本の画像、原記載データ、ラベルデータに関するデータベースの構築を行った。(4) 博物館におけるバイオメティクス研究。動植物の持つ能力や形・機能などの特性を把握し、そこからヒントを得て人工的に設計・合成・製造する「生物規範工学」と協力し、博物館に収蔵される膨大な生物標本の利活用を探る先駆的なデータベース開発を行った。

原著論文

1. 大原昌宏・中岡利泰・高木大稔・小川直記・菊地波輝・山本ひとみ, 2023. 北海道えりも町豊似湖周辺ほか昆虫調査報告. VII. 甲虫類4. えりも研究, (20): 1-3.
2. dela Cruz, I. N., and M. Ôhara, 2023. Revision of the genus *Atholus* Thomson, 1859 (Coleoptera, Histeridae) from the Philippines with additional records. *ZooKeys*, 1158: 1-26. doi.org/10.3897/zookeys/1158.100518
3. Kikuchi, T., and M. Ôhara, 2023. Taxonomic note of *Syntelia histeroides* Lewis, 1882 (Coleoptera, Histeroidea, Synteliidae) from Japan. *Elytra*, (n. ser.), 13 (1): 1-12.
4. dela Cruz, I. N., and M. Ôhara, 2023. Additional records of the Japanese species of the genus *Atholus* Thomson, 1859 (Coleoptera, Histeridae), with SEM photos of external characters and illustration of mouthparts and female genitalia. *Elytra*, (n. ser.), 13 (1): 13-38.
5. Ôhara, M., and Y.-H. Ho, 2023. Records of Japanese histeroid beetles (Coleoptera, Synteliidae and Histeridae) from the collection of the National Museum of Natural Science, Taichung, Taiwan. *Elytra*, (n. ser.), 13 (1): 39-42.
6. Ôhara, M., 2023. Records of Korean histerid beetles (Coleoptera, Histeridae) in the Ehime University Museum Insect Collection, Matsuyama, Japan. *Elytra*, (n. ser.), 13 (1): 43-44.
7. Ôhara, M., N. Kobayashi and I. N. dela Cruz, 2023. Japanese supralittoral hydrophilid beetles (Coleoptera, Hydrophilidae), in the Ehime University Museum Insect Collection, Matsuyama, Japan. *Elytra*, (n. ser.), 13 (1): 58-60.
8. Ho, Y.-H., I. N. dela Cruz and M. Ôhara, 2023. Additional records of the species of the genus *Atholus* Thomson (Coleoptera, Histeridae) from Taiwan, with an updated key to the Taiwanese species. *Taiwanese Journal of Entomological Studies*, 8 (2): 40-50.

doi.org/10.5281/zenodo.8077087

9. Kikuchi, T., and M. Ôhara, 2023. Taxonomic note on the riverine histerid beetles of the genus *Hypocaccus* Thomson, 1867 (Coleoptera, Histeridae, Sapininae) in Japan, with description of a new species. *Elytra*, (n. ser.), 13 (2): 203–238.
10. dela Cruz, I. N., Y.-H. Ho and M. Ôhara, 2023. Taxonomic notes of the endemic hister beetles *Atholus nitidissimus* Desbordes, 1925 (Coleoptera, Histerinae, Histerini) from the Philippines. *Elytra*, (n. ser.), 13 (2): 239–244.
11. dela Cruz, I. N., M. Murakami, and M. Ôhara, 2023. New habitat record and possible ant-association of two species of Histeroidea (Coleoptera) in Japan. *Elytra*, (n. ser.), 13 (2): 245–246.
12. Ôhara, M., N. Kobayashi, I. N. dela Cruz and K. Ando, 2023. Japanese supra-littoral tenebrionid beetles (Coleoptera, Tenebrionidae) in the Ehime University Museum Insect Collection. *Elytra*, (n. ser.), 13 (2): 315–320.

執筆（著書・総説・解説・報告等）

1. 鈴村有紗・小林憲生・大原昌宏, 2023. 海浜性ガムシの分類と分布. 昆虫と自然, 58(3): 10–14.
2. 大原昌宏, 2023. 甲虫コレクションガイド, 31. 北海道大学総合博物館の甲虫コレクション. Sayabane, new series, (52): 26–31

学会発表

1. 大原昌宏, 2023. エンマムシ分類学と博物館. シンポジウム「日本の昆虫分類学のこれまでと今後」日本甲虫学会 第13回大会・日本昆虫分類学会 第26回大会. [愛媛大学農学部 大講義室]. 2023年12月3日. [招待講演].

一般講演

1. 大原昌宏, 2023. 海浜性 昆虫の視点から、北環太平洋の海岸を見る. 石狩川流域湿地・水辺・海岸ネットワーク 第6回フォーラム –しめっちフォーラム2023 湿地と再生可能エネルギー 虫の目、鳥の目、みんなの目. 石狩川流域湿地・水辺・海岸ネットワーク 主催. [生活 支援型文化施設 コンカリーニョ, 札幌, YouTube ライブ配信]. 2023年2月18日.[招待講演].
2. 大原昌宏, 2023. 人と昆虫 . 公益北海道新聞野生生物基金設立30周年記念展. 公益財団法人北海道新聞野生生物基金主催. [道新プラザDO-BOX]. 2023年7月25日.[招待講演].
3. 大原昌宏, 2023. 昆虫博士キャンプ, 中学・高校生. 札幌市定山溪自然の村 主催（学びの場を提供する事業）. [札幌市定山溪自然の村]. 2023年7月30日, 8月6日.[招待講演].
4. 大原昌宏, 2023. 「昆虫採集講座」. 令和5年度 第2回オープンサイエンスパーク 「ミクロな世界への冒険 昆虫採集と電子顕微鏡体験」. 主催 公立千歳科学技術大学地域連携センター. [公立千歳科学技術大学]. 2023年8月9日. [招待講演].
5. 大原昌宏, 2023. ネイチャーポジティブと博物館. 北海道大学総合博物館バイオミメティクス市民セ

ミナー、公立千歳科学技術大学・オープンサイエンス千歳 共同開催特別シリーズ 第二弾、第二回
地域学：歴史に学ぶ風土が拓く、持続可能な未来 ～自然史から読み解く生態系サービスと自然共生
～. [北海道大学総合博物館 3階 北講義室(N308)]. 2023年12月9日. [招待講演].

外部資金

1. 【分担】大原昌宏：科学研究費補助金・基盤研究(C)「防潮堤建設が及ぼす海浜性昆虫の種構成及び資源利用の変化」2021年1,430千円、2022年1,430千円（直接経費1,100千円、間接経費330千円）、2023年1,430千円、令和3年—令和6年4,290千円（直接3,300千円、間接経費990千円）代表者：小林憲生（埼玉県立大学・教授）（2021-2024）

学会活動

1. 一般社団法人日本昆虫学会：監査（（2023—2024）；代議員；日本産昆虫カタログ編纂委員会委員（2016—継続）
2. 日本甲虫学会：副会長（2023-継続）；
3. 日本動物分類学会：会員（2000-継続）
4. 北海道自然史研究会：会長（2017—継続）
5. Association of Systematic Biology Society of the Philippines: 会員（2015-現在）、Editorial Board（2016-現在）

社会貢献

1. 国土交通省 河川水辺の国勢調査（天塩川下流・留萌川及び留萌ダム） アドバイザー
2. 国土交通省 河川水辺の国勢調査（天塩川上流及び石狩川上流） アドバイザー
3. 国土交通省 幾春別川ダム、モニタリング計画 アドバイザー
4. 国立科学博物館 地球規模生物多様性情報機構日本ノード運営委員会 委員
5. 国立科学博物館 外部評価委員会 委員
6. 北海道環境影響評価審議会 委員
7. 北海道希少野生動植物保護対策検討有識者会議昆虫専門部会 構成員
8. 小樽市博物館協議会 委員長
9. 小樽市文化財審議会 委員
10. 北海道新聞社野生生物基金 評議員・助成金審査員
11. 前田一步園財団 助成金審査員

湯浅万紀子 教授

研究内容の概要

博物館教育学。（１）ミュージアム体験の長期的インパクトを検証する調査研究。日本ではまだ体系的に実施されていないミュージアム体験の長期的インパクトの検証に取り組み、人々の記憶に残るミュージアム体験とその人々とミュージアムとの関わりの変容を調査し、続く世代へと記憶をつなぐためのミュージアム活動の展開方法を研究している。認知面での学習効果にとどまらないミュージアム体験の多様な意味を明らかにすると同時に、ミュージアム活動の意義を検証し、ミュージアム資源を生かした活動への提案を導くための調査研究でもある。（２）大学博物館における複合教育プログラムの評価に関する調査研究。大学博物館は社会において今後どのような役割を果たしていくべきかを探るために、大学博物館独自のリソースを生かした活動として「複合教育プログラム」に注目した研究を行っている。複合教育プログラムとは、博物館の活動の様々な局面に学生を関与させて教育し、その学生が博物館活動の担い手として来館者とコミュニケーションすることにより更に学習を深化させ、学生と来館者双方に教育的な意味を持つ実践的な教育プログラムである。大学博物館ならではの学生教育とは何かを探り、更にその学生教育の意義をいかに評価すればよいかを研究している。（３）展示評価に関する調査研究。展示の総括的評価として、主として展示がいかに来館者に受け止められたかについて質的な調査を実施して評価するための研究を行っている。調査手法の検討、質問紙調査の自由記述回答や面接調査のデータの分析方法について研究し、メディア報道との関わり、展示解説を受けた人、展示解説を担った人へのインパクトなどを調査し、展示を多角的に検証する研究を行っている。更に、異なる展示にフィードバックできる指摘を求めて、評価方法を検討している。同時に、来館者プロフィールを継続的に分析することで、博物館の広報活動への示唆を導く。（４）博物館評価に関する調査研究。前項の展示評価を含めた包括的な博物館評価として、各館独自の使命と設立経緯、社会状況を踏まえた上で、博物館の組織体制、運営形態などを含めた活動のあらゆる局面を評価する手法、特に活動の質を評価するための手法を研究している。（５）新しいミュージアム像に関する調査研究。博物館の新しい姿、活動を導くために、運営体制の見直し、コレクションや人的資源の流動化、来館者・非来館者との関わり、異分野との協働など、博物館と博物館を取り囲む社会の文化資源を新しい視点で再組織化する研究を行っている。

原著論文

執筆（著書・総説・解説・報告等）

1. 湯浅万紀子, 2023. 2022 年度卒論ポスター発表会, 北海道大学総合博物館ニュース, 46:9.
2. 湯浅万紀子, 2023. 2022 年度ボランティア講座&交流会, 同上, 46:12
3. 湯浅万紀子, 2023. 博物館実習, 同上, 47:7.
4. 湯浅万紀子, 2023. 2022 年度学生企画ミュージアムグッズ, 同上, 47:8.
5. 湯浅万紀子, 2023. 博物館における北海道大学初任事務職員実地研修, 同上, 47:10.

学会発表

1. 湯浅万紀子, 2023, 北海道大学総合博物館におけるボランティア活動の紹介とマネジメントの重要

性, 第 18 回日本博物科学会, 2023 年 6 月 23 日。【招待講演】

2. 湯浅万紀子, 2023, ミュージアム体験の長期記憶から探るミュージアムの社会的役割, 秋田公立美術大学, 2023 年 10 月 30 日。【招待講演】
3. 湯浅万紀子, 2024, ミュージアム体験の長期記憶に関する研究の展開, 科研費研究成果報告会 子ども時代の「心に残る読書体験」を考える, 2024 年 3 月 9 日。【招待講演】

一般講演

1. 湯浅万紀子, 2023, 未来へと紡ぐミュージアム体験の記憶: ライフストーリーの観点から体験を意味づける, 北海道大学総合博物館 2023 年度土曜市民セミナー, 2023 年 6 月 10 日。

博物館教育研究活動

1. 学生企画ワークショップ「おえかきミュージアム」(7月29日・7月30日開催) 指導 (2023年度博物館コミュニケーション特論: 学生発案型プロジェクトの企画・運営・評価)、
2. 2022年度学生企画グッズ指導 (2022年度博物館コミュニケーション特論: ミュージアムグッズの開発と評価)、2023年度ミュージアムショップで販売開始。「北大総合博物館ポストカードブック」、「ミュージアムマグ」
3. 2023年度学生企画グッズ指導 (2023年度博物館コミュニケーション特論: ミュージアムグッズの開発と評価)、「ミュージアムガチャ: キーホルダー、マグネット、ラバーバンド」「おかき黒千石先生のパッケージ」「文具: ペンケース、鉛筆、栞」「Tシャツ」
4. 第4回「建築の学生」展 指導
5. 2023年度卒論ポスター発表会 発表・運営指導
6. 博物館における北海道大学初任事務職員実地研修 講義、見学案内、研修時のアテンド

外部資金

1. 日本学術振興会科学研究費 基盤 (C) 「企業博物館の多様なステークホルダーにおける博物館体験の長期記憶研究に関する研究」令和 1～5 年度, 研究代表者
2. 日本学術振興会科学研究費 基盤 (C) 「高度な理解促進を目指す獣医学臨床手技映像教材の開発」令和 1～5 年度, 藤田良治 (研究代表者) 研究分担者
3. 日本学術振興会科学研究費 基盤研究 (C) 「VR 技術を活用した森林教育プログラムの開発」令和 5～8 年度, 藤田良治 (研究代表者) 研究分担者

学会活動

1. 日本ミュージアムマネジメント学会 会員
2. 日本科学教育学会 会員
3. AAM 会員

社会貢献

1. 北海道立総合博物館協議会委員（～令和5年9月5日）
2. 北海道立近代美術館協議会委員（～令和5年5月31日）

メディアへの広報（プレスリリースなど）

1. 道新さっぽろ10区「北大大学院生考案の新商品 ポストカードブックとマグカップ」6月20日
2. プレスリリース「2023 学生企画『おえかきミュージアム 博物館をめぐってオリジナルの絵本を作ろう!』を開催」7月18日
3. 道新さっぽろ10区デジタル版「北大総合博物館で『おえかきミュージアム』」8月7日
4. JR 車内誌 The JR Hokkaido 北室かずこ「北海道ミュージアムグッズ紀行——愛しきものに会いに行く」グッズに挑む；学生企画ミュージアムグッズ 授業での取り組み紹介, 12月号
5. 道新さっぽろ10区「卒論 わかりやすく紹介 北大でポスター発表会」3月1日

小林快次 教授

研究内容の概要

古生物学。恐竜の進化や生態についての研究。カムイサウルスをはじめとする鳥脚類恐竜の進化、古生物地理学的な見解から分布のパターンを解明、環境と進化の関係性など。さらに、鳥類を含む獣脚類の進化も研究している。獣脚類における食性の変化と骨格の進化の関連性を研究している。海外のフィールドは、主に米国アラスカ州、モンゴル・ゴビ砂漠地域、カナディアンローキー山脈西部、ウズベキスタンを中心にこなしている。これらのフィールド調査から、アジア大陸と北米大陸の恐竜の多様性比較、北極圏への生理的な適応手段などを研究している。

原著論文

1. Therrien, F., Zelenitsky, D. K., Tanaka, K., Voris, J.T., Erickson, G.M., Currie, P.J., DeBuhr, C.L., and Kobayashi, Y. 2023. Exceptionally preserved stomach contents of a young tyrannosaurid reveal an ontogenetic dietary shift in an iconic extinct predator. **Science Advances** 9. DOI: 10.1126/sciadv.adi0505
2. Kubo, K., Kobayashi, Y., Chinzorig, T., and Khishigjav Tsogtbaatar, K. 2023. A new alvarezsaurid dinosaur (Theropoda, Alvarezsauria) from the Upper Cretaceous Baruungoyot Formation of Mongolia provides insights for bird-like sleeping behavior in non-avian dinosaurs. **PLOS ONE** 18(11): e0293801. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0293801>
3. Fiorillo, A. R., McCarthy, P. J., Shimer, G., Suarez, M. B., Takasaki, R., Chinzorig, T., Kobayashi, Y., O'Sullivan, P., and Orphys, E. 2024. New dinosaur ichnological, sedimentological, and geochemical data from a Cretaceous high-latitude terrestrial greenhouse ecosystem, Nanushuk Formation, North Slope, Alaska. **Geosciences** 14, 36. <https://doi.org/10.3390/geosciences14020036>
4. Fiorillo, A. R., Kobayashi, Y., McCarthy, P. J., Stelson, Laura, and Schwing, E. 2023. On the significance of a Late Cretaceous tyrannosaur track from Aniakchak National Monument (Chignik Formation, Campanian – Maastrichtian), southwestern Alaska. In (Yuong, N. ed.) Windows into sauropsid and synapsid evolution: essays in honor of Prof. Louis L. Jacobs, pp. 211-221, Dinosaur Science Center Press, South Korea.

執筆（著書・総説・解説・報告等）

1. 小林快次（執筆）2023年4月「ティラノサウルス解体新書新」320p. 講談社
2. 小林快次（監修）2023年7月「最強恐竜超図鑑」ポプラ社
3. 小林快次（監修）2023年11月「恐竜2 最新研究 新改訂版（講談社の動く図鑑 MOVE）」講談社
4. 小林快次（執筆）2023年4月22日「大人のための最先端理科 恐竜 恐竜の声」週刊ダイヤモンド, ダイヤモンド社.

5. 小林快次（執筆）2023 年 6 月 24 日「大人のための最先端理科 恐竜 恐竜とガン」週刊ダイヤモンド, ダイヤモンド社.
6. 小林快次（執筆）2023 年 8 月 26 日「大人のための最先端理科 恐竜 恐竜のクチビル」週刊ダイヤモンド, ダイヤモンド社.
7. 小林快次（執筆）2023 年 10 月 28 日「大人のための最先端理科 恐竜 ユーコン川に揺られて」週刊ダイヤモンド, ダイヤモンド社.
8. 小林快次（執筆）2023 年 12 月 16 日「大人のための最先端理科 恐竜 希少な全身骨格と多数の足跡 モンゴルの中国国境で大発見」週刊ダイヤモンド, ダイヤモンド社.
9. 小林快次（執筆）2024 年 2 月 17 日「大人のための最先端理科 恐竜 眠る恐竜化石の寝相が教える「体温が一定」だった可能性」週刊ダイヤモンド, ダイヤモンド社.
10. 小林快次（執筆）共同通信社から「知りたいホントの恐竜」として毎週連載し令和 5 年度一年間連載し、多くの地方紙に掲載（福島民友、徳島新聞、岩手日報、中国新聞セレクト、新潟日報、沖縄タイムス、北日本新聞、福島民友、岐阜新聞、信濃毎日、山陰中央新報、静岡新聞、福井新聞、中国新聞セレクト、新潟日報、岩手日報、山梨日日新聞、山陰中央新報、徳島新聞、山陰中央新報、日本海新聞）。第 1 回目「知りたいホントの恐竜：恐竜と怪獣の違い」
11. 小林快次（執筆）共同通信社 第 2 回目「知りたいホントの恐竜：恐竜とマンモスの違い」
12. 小林快次（執筆）共同通信社 第 3 回目「知りたいホントの恐竜：恐竜とビー助の違い」
13. 小林快次（執筆）共同通信社 第 4 回目「知りたいホントの恐竜：恐竜と鳥の違い」
14. 小林快次（執筆）共同通信社 第 5 回目「知りたいホントの恐竜：世界一大きな恐竜」
15. 小林快次（執筆）共同通信社 第 6 回目「知りたいホントの恐竜：世界一小さな恐竜」
16. 小林快次（執筆）共同通信社 第 7 回目「知りたいホントの恐竜：恐竜は最初から強かった？」
17. 小林快次（執筆）共同通信社 第 8 回目「知りたいホントの恐竜：恐竜の生きていた時代」
18. 小林快次（執筆）共同通信社 第 9 回目「知りたいホントの恐竜：恐竜が生きていた頃の空気は？」
19. 小林快次（執筆）共同通信社 第 10 回目「知りたいホントの恐竜：恐竜と国語」
20. 小林快次（執筆）共同通信社 第 11 回目「知りたいホントの恐竜：恐竜と社会」
21. 小林快次（執筆）共同通信社 第 12 回目「知りたいホントの恐竜：恐竜と算数」
22. 小林快次（執筆）共同通信社 第 13 回目「知りたいホントの恐竜：恐竜と理科」
23. 小林快次（執筆）共同通信社 第 14 回目「知りたいホントの恐竜：恐竜と英語」
24. 小林快次（執筆）共同通信社 第 15 回目「知りたいホントの恐竜：恐竜と音楽」
25. 小林快次（執筆）共同通信社 第 16 回目「知りたいホントの恐竜：恐竜と図工」
26. 小林快次（執筆）共同通信社 第 17 回目「知りたいホントの恐竜：最強の恐竜は？」
27. 小林快次（執筆）共同通信社 第 18 回目「知りたいホントの恐竜：最速の恐竜は？」
28. 小林快次（執筆）共同通信社 第 19 回目「知りたいホントの恐竜：ティラノサウルスは強かった？」
29. 小林快次（執筆）共同通信社 第 20 回目「知りたいホントの恐竜：ステゴサウルスの背中のは何のため？」
30. 小林快次（執筆）共同通信社 第 21 回目「知りたいホントの恐竜：パラサウロロフスのトサカは何のため？」

31. 小林快次（執筆）共同通信社 第22回目「知りたいホントの恐竜：ティラノサウルスはなぜ指2本？」
32. 小林快次（執筆）共同通信社 第23回目「知りたいホントの恐竜：日本で始めて発見された恐竜」
33. 小林快次（執筆）共同通信社 第24回目「知りたいホントの恐竜：日本の恐竜は何種類？」
34. 小林快次（執筆）共同通信社 第25回目「知りたいホントの恐竜：カムイサウルスはすごい」
35. 小林快次（執筆）共同通信社 第26回目「知りたいホントの恐竜：ヤマトサウルスはすごい」
36. 小林快次（執筆）共同通信社 第27回目「知りたいホントの恐竜：パラリテリジノサウルスはすごい」
37. 小林快次（執筆）共同通信社 第28回目「知りたいホントの恐竜：テリジノサウルスの爪はなんのため？」
38. 小林快次（執筆）共同通信社 第29回目「知りたいホントの恐竜：水の中で生活していた恐竜」
39. 小林快次（執筆）共同通信社 第30回目「知りたいホントの恐竜：子育てをしていた恐竜」
40. 小林快次（執筆）共同通信社 第31回目「知りたいホントの恐竜：卵泥棒？」
41. 小林快次（執筆）共同通信社 第32回目「知りたいホントの恐竜：恐竜の色がわかる？！」
42. 小林快次（執筆）共同通信社 第33回目「知りたいホントの恐竜：恐竜の復活は可能なの？」
43. 小林快次（執筆）共同通信社 第34回目「知りたいホントの恐竜：恐竜をペットにするとしたら？」
44. 小林快次（執筆）共同通信社 第35回目「知りたいホントの恐竜：ティラノサウルスのかむ力」
45. 小林快次（執筆）共同通信社 第36回目「知りたいホントの恐竜：ティラノサウルスの走る速さ」
46. 小林快次（執筆）共同通信社 第37回目「知りたいホントの恐竜：ティラノサウルスの狩り」
47. 小林快次（執筆）共同通信社 第38回目「知りたいホントの恐竜：ティラノサウルスの目」
48. 小林快次（執筆）共同通信社 第39回目「知りたいホントの恐竜：ティラノサウルスの嗅覚」
49. 小林快次（執筆）共同通信社 第40回目「知りたいホントの恐竜：ティラノサウルスは何を食べていたの？」
50. 小林快次（執筆）共同通信社 第41回目「知りたいホントの恐竜：恐竜は爬虫類」
51. 小林快次（執筆）共同通信社 第42回目「知りたいホントの恐竜：恐竜は冬を越せたの？」
52. 小林快次（執筆）共同通信社 第43回目「知りたいホントの恐竜：恐竜の声ってどんな声？」
53. 小林快次（執筆）共同通信社 第44回目「知りたいホントの恐竜：恐竜に羽毛が生えていた」
54. 小林快次（執筆）共同通信社 第45回目「知りたいホントの恐竜：恐竜に翼が生えていた」
55. 小林快次（執筆）共同通信社 第46回目「知りたいホントの恐竜：恐竜はなぜ絶滅したの？」
56. 小林快次（執筆）共同通信社 第47回目「知りたいホントの恐竜：大発見はどこに？」
57. 小林快次（執筆）共同通信社 第48回目「知りたいホントの恐竜：恐竜は垣根を越える」
58. 小林快次（執筆）共同通信社 第49回目「知りたいホントの恐竜：恐竜の「好き」から始まること」
59. 小林快次（執筆）共同通信社 第50回目「知りたいホントの恐竜：恐竜化石発掘って？」
60. 小林快次（執筆）共同通信社 第51回目「知りたいホントの恐竜：恐竜研究者になるには？」

学会発表

1. 吉田純輝, 小林快次, アントニー・フィオリロ. 2023 「現生主竜類における舌喉頭筋骨格系のネットワーク 解析と進化的考察」日本古生物学会第172例会（福岡県・九州大学）.
2. Yoshitsugu Kobayashi, Tsogtbaatar Chinzorig, Ryuji Takasaki, Anthony Fiorillo, Kentaro Chiba,

Mototaka Saneyoshi, and Shinobu Ishigaki. 2023. 演題「The northernmost occurrence of a deinocheirid ornithomimosaur from Montana (Upper Cretaceous, Judith River Formation): its paleobiogeographic and biodiversity significance」Society of Vertebrate Palaeontology, Cincinnati, Ohio, USA.

一般講演

1. 5月27日(土)、日本消化器学会北陸支部「人類と恐竜の胃腸病」金沢大学
2. 6月10日(土)、「最新恐竜研究 in 2023」えんてらす(長野県塩尻市)
3. 6月11日(日)、「最新恐竜研究 in 2023」えんぱーく(長野県塩尻市)
4. 6月30日(金)、「最新恐竜研究 in 2023」特別講演 日本骨形態計測学会
5. 7月2日(日)、「最新恐竜研究 in 2023」秀岳荘(北海道札幌市)
6. 7月9日(日)、FUKUI ザウルスフェス「恐竜の声」NHK 福井放送局
7. 7月24日(月)、「最新恐竜研究 in 2023」YES スクール
8. 10月7日(土)、「最新恐竜研究 in 2023」泌尿器科学会特別講演
9. 11月3日(金)、北海道大学 x STV SDG デー「最新恐竜研究 in 2023」北海道大学学術交流会館
10. 11月8日(水)、「最新恐竜研究 in 2023」幌向小学校(北海道岩見沢市)
11. 11月16日(木)、「最新恐竜研究 in 2023」中川中学校(北海道中川町)
12. 11月21日(火)「Dinosaurs of Beringia」Japanese Consulate in Anchorage, Alaska (On line)
13. 11月23日(木・祝)、「最新恐竜研究 in 2023」Sapporo Lodge
14. 12月3日(日)、「最新恐竜研究 in 2023」NHK カルチャーセンター青山
15. 12月7日(木)、「最新恐竜研究 in 2023」旭川市科学館サイバル
16. 12月9日(土)、「最新恐竜研究 in 2023」AOAO SAPPORO
17. 12月16日(水)、「最新恐竜研究 in 2023」新宿コズミックセンター
18. 1月13日(土)、「最新恐竜研究 in 2023」北海道保険医会
19. 1月21日(土)、「知求儀」愛知淑徳大学
20. 2月3日(土)「北海道の恐竜」イオンレイクタウン(埼玉県)
21. 2月4日(日)「北海道の恐竜」イオンレイクタウン(埼玉県)
22. 2月11日(日)「恐竜が語るもの：発掘・研究の現場から」NHK カルチャーセンター京都
23. 3月15日(土)「恐竜超伝説2 劇場版ダーウィンが来た！超巨大恐竜編」NHK カルチャーセンター青山教室
24. 3月16日(日)「恐竜超伝説2 劇場版ダーウィンが来た！絶滅直後の新たなシナリオ編」NHK カルチャーセンター青山教室
25. 3月20日(水・祝)「恐竜超伝説2 劇場版ダーウィンが来た！」豊洲ユナイテッド・シネマ
26. 3月23日(土)「NHK 子ども科学電話相談公開収録」NHK 札幌放送局
27. 3月30日(土)「恐竜が語るもの：発掘・研究の現場から」NHK カルチャーセンター浜松

テレビ・ラジオ等出演

1. 4月9日(日)、NHK ラジオ「子ども科学電話相談」出演
2. 5月21日(日)、NHK ラジオ「子ども科学電話相談」出演
3. 6月11日(日)、NHK 総合「ヒューマンエイジ 人間の時代第一集 人新世 地球を飲み込む欲望」出演
4. 6月15日(木)、NHK 総合「ヒューマンエイジ 人間の時代第一集 人新世 地球を飲み込む欲望 再放送」出演
5. 6月18日(日)、NHK ラジオ「子ども科学電話相談」出演
6. 7月5日(日)、NewsPicks「Weekly Ochiai」出演
7. 7月16日(日)、NHK ラジオ「子ども科学電話相談」出演
8. 9月3日(日)、NHK ラジオ「子ども科学電話相談」出演
9. 11月1日(水)、STV「どさんこワイド」出演
10. 11月2日(木)、STV「どさんこワイド」出演
11. 11月20日(月)、STV ラジオ「ようじのぢかん」出演
12. 11月21日(火)、STV ラジオ「ようじのぢかん」出演
13. 11月22日(水)、STV ラジオ「ようじのぢかん」出演
14. 11月23日(木)、STV ラジオ「ようじのぢかん」出演
15. 11月24日(金)、STV ラジオ「ようじのぢかん」出演
16. 12月31日(日)、NHK ラジオ「子ども科学電話相談」出演
17. 1月14日(日)、NHK 総合 ダーウィンが来た「お正月特集 龍のナゾ大研究」出演
18. 3月10日(日)、NHK ラジオ「子ども科学電話相談」出演

学会活動

1. 日本古生物学会 評議員
2. Society of Vertebrate Paleontology 会員

社会貢献

1. 旭川市科学館・サイパル 顧問
2. むかわ町穂別博物館 特別顧問
3. むかわ町穂別博物館 改修監修

メディアへの広報（プレスリリースなど）

1. プレスリリース 11月16日「鳥のように眠る新種の恐竜をモンゴルで発見～恐竜の生態から明らかになる鳥類への休眠行動の進化」
2. プレスリリース 12月11日「食べた獲物が胃に残るティラノサウルス科の全身骨格を世界で初めて発見」

江田真毅 教授

研究内容の概要

動物考古学。国内外の遺跡から出土した鳥類の骨を分析し、資料中に含まれる分類群の構成や解体・加工の痕跡などに基づいて各遺跡を形成した人々の活動域や狩猟技術、生業の季節性などについて動物考古学の観点から検討するとともに、考古動物学的視点から過去の鳥類相を明らかにしている。また、東アジア・東南アジアにおける家禽飼育の歴史の解明のために、中国、韓国、タイ、ベトナムなどで共同研究を実施し、東アジア・東南アジア各地の遺跡から出土した鳥骨も分析している。一方、特別天然記念物の海鳥、アホウドリ (*Phoebastria albatrus*) の分類と保全のための研究を進め、鳥島と尖閣諸島で生まれたアホウドリは遺伝的、生態的、形態的観点から別種であることを明らかにし、異なる保全単位として管理すべきことを提言してきている。近年は骨中のコラーゲンタンパクの大部分を占める I 型コラーゲンのアミノ酸配列の解析から、遺跡資料の種同定に有効なアミノ酸配列の特定を目指した研究を実施している。さらに、小林教授と共同で恐竜化石に由来するアミノ酸を解析する研究にも着手している。

原著論文

1. Tomita, N., Sato, F., Thiebot, J. B., Nishizawa, B., Eda, M., Izumi, Hi., Konno, S., Konno, M., Watanuki, Y. 2024. Incomplete isolation in the nonbreeding areas of two genetically separated but sympatric short-tailed albatross populations. **Endangered Species Research**, 53, 213–225, <https://www.int-res.com/prepress/n01302.html>
2. Hsu, K., Eda, M. 2023. Poultry consumed by the Dutch in the Dejima trading post, Nagasaki, Japan. **Journal of Archaeological Science: Reports**, 49, 104008. <https://doi.org/10.1016/j.jasrep.2023.104008>
3. Eda, M., Izumi, H., Yoneda, M., Fujita, S. 2023. The earliest evidence of domestic chickens in the Japanese Archipelago. **Frontiers in Earth Science**, 11. <https://doi.org/10.3389/feart.2023.1104535>
4. 江田真毅 2024. 「あるサバティカル研修：私のヨーク大学滞在記」北海道大学考古学研究室研究紀要, 3, 47-56 pp. <https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/91239>

執筆（著書・総説・解説・報告等）

1. 江田真毅 2023 「考古学資料からみた日本のニワトリ」バイオストーリー, 40, 54-59 pp.
2. 江田真毅 2023 「弥生文化におけるニワトリ利用に迫る」科学, 93, 997-1001 pp.
3. 江田真毅 2023 「北海道における ZooMS による動物利用研究の現状と可能性」高瀬克範編『季刊考古学 別冊 42 北海道考古学の最前線』, 雄山閣, 117-121 pp.
4. 許開軒・丸山真史・江田真毅 2023. 「鳥類研究の最前線 2022 鳥学会 鳥類の最新研究 3 選 3 江戸時代の大坂城下町にいたのはどんな鳩？」野鳥, 88, 15-17 pp.
5. 江田真毅 2024. 「動物考古学から世界最古の家禽を探る」米田穰・佐々木由香・覚張隆史編（中村慎一監修）『東アジア考古科学の新展開』, ティーケー出版印刷, 70-77 pp.

6. 江田真毅・宋姝・菊地大樹・劉斌 2024.「良渚古城遺跡群・鍾家港南段地点および卞家山地点出土の鳥類遺体」『日中共同研究報告書 vol. 3』, 六一書房, 199-204 pp.
7. Hadjikoumis, A., Arbuckle, B. S., de France, S. D., Deshpande-Mukherjee, A., Eda, M., Gillis, R. E., Hongo, H., Janzen, A., Makarewicz, C. A., Thornton, E. K., Wright, E. 2023. Animal Domestication. Reference Module in Social Sciences. Elsevier. <https://doi.org/10.1016/B978-0-323-90799-6.00105-1>.

学会発表

1. 江田真毅 2023.「種内における亜種ニホンライチョウの形態的特性」日本鳥学会 2023 年度大会（金沢大学）
2. 山崎剛史・江田真毅・杉田典正・西海功 2023.「鳥島のアホウドリは未記載新種か？」日本鳥学会 2023 年度大会（金沢大学）
3. 松田勉・大塚伸・竹内祥生・江田真毅・泉洋江・堀田昌伸 2023.「北アルプス北部立山高山帯におけるワシミミズク *Bubo bubo* の確認」日本鳥学会 2023 年度大会（金沢大学）
4. 江田真毅 2023.「遺跡出土の骨から江戸時代の鳥類を垣間見る」第 5 回標本集会 江戸時代の鳥を知ろう 日本鳥学会 2023 年度大会（金沢大学）
5. Eda, M., Izumi, H., Yoneda, M., Fujita, S. 2023. Were chickens successively bred during the Yayoi period in Japan? Collagen peptide fingerprinting and radiocarbon dating approaches. 14th International Council for Archaeozoology (Cairns, Australia).
6. Hsu, K., Eda, M. 2023. Poultry consumption in early modern (17th–19th centuries) Nagasaki, Japan. 14th International Council for Archaeozoology. 14th International Council for Archaeozoology (Cairns, Australia).
7. 江田真毅・Samantha Presslee・Jessica Hendy 2023.「微破壊タンパク質分析による遺跡出土鯨類骨片同定の試み」動物考古学会第 10 回大会（北海道大学総合博物館）
8. 許 開軒・丸山真史・江田真毅 2023.「大坂城下町のニワトリ」動物考古学会第 10 回大会（北海道大学総合博物館）

一般講演

1. 4 月 15 日（土）、「ニワトリ？ガチョウ？ 世界最古の家禽を動物考古学から探る」土曜市民セミナー（北海道大学総合博物館）

テレビ・ラジオ等出演

なし

外部資金

1. 科学研究費助成事業国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(A))「コラーゲンタンパクの質量分析に

よる東南アジアにおける家禽飼育の起源と拡散の解明」研究代表者

2. 科学研究費助成事業基盤研究(B)「東アジアにおける家禽飼育の起源と拡散の解明」研究代表者
3. 科学研究費助成事業学術変革領域研究(A)「動物考古学から探るユーラシア家畜文化のダイナミズム」研究分担者
4. 科学研究費助成事業国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))「東南アジア大陸部における後期更新世人類の環境適応の解明」研究分担者
5. 科学研究費助成事業基盤研究(C)「隠蔽種が明らかとなった特別天然記念物アホウドリの生殖隔離に関連する行動学的研究」研究分担者
6. 科学研究費助成事業基盤研究(B)「日本列島で土器を使い始めた人々の形態・遺伝子・食性・健康状態を解明する」研究分担者
7. 科学研究費助成事業基盤研究(B)「総合資料学にもとづく古代アンデス文明の社会統合の解明」研究分担者
8. 科学研究費助成事業基盤研究(B)「生業動態からみた擦文文化の分布拡大要因」研究分担者

学会活動

日本動物考古学会 編集委員長

日本鳥学会 英文誌編集委員

日本鳥学会 基金運営委員会副委員長

International Journal of Osteoarchaeology, Editorial Board

メディアへの広報（プレスリリースなど）

1. 4月20日（木）、「日本最古のニワトリの雛を発見～弥生文化におけるニワトリ飼育の解明へ～」

阿部剛史 准教授

研究内容の概要

海藻分類学。（１）紅藻ソゾ属および近縁属の系統分類学的研究と化学成分研究。広義ソゾ属（*Chondrophycus*, *Laurencia*, *Laurenciella*, *Osmundea*, *Palisada*, *Yuzurua*）の系統分類学的研究を、形態形質に加えて分子系統、培養実験、成分分類学的手法を用いて進めている。また、ウラソゾの種内分化（ケミカルレース）における個体群構造について、分子系統学的手法を用いて解明を進めた。

（２）北方コンブ類の系統分類学的研究。資料部との共同研究として、サハリン・カムチャツカおよび日本産の材料を用い、北方コンブ類の系統分類学的研究を進めている。（３）日本及び東南アジア・極東ロシアの海藻相に関する研究。上記の２群に限らず東南アジアから日本を経て極東ロシアに至る北西太平洋の海藻相についての研究をおこなっている。（４）日本海における寒冷適応進化・多様化に関する共同研究。日本海をはじめとする縁海で、氷期に分断された海域で寒冷適応化・種分化が生じ、次の間氷期に北方の寒冷海域に進出するという「日本海多様化工場説」を、神谷隆宏教授（金沢大）が貝形虫の研究から提唱した。この説を海藻類において検証する共同研究をおこなっている。（５）標本に含まれる放射性同位体に着目した共同研究。数十年から百年以上前に採集された海藻標本が多数収蔵されている当館の特徴を活かし、磯焼け現象が見られる前の時代における窒素源の推定や、核実験以前の本来の沃素同位体比の推定など、分類学以外の分野に海藻標本を活用する共同研究をおこなっている。

田城文人 助教

研究内容の概要

魚類分類学。(1) 深海性魚類の分類学的・生物地理学的研究。基礎生物学的な情報に乏しい深海性魚類を対象として、それらの種多様性や進化史を形態・分子データに基づき多角的な手法で調査している。中でも、水産上重要種は資源管理等の側面からも正確な基礎情報の把握が求められる。そこで、現在はウナギ目を中心に、水産重要種を多く含む分類群を主な研究対象としている。(2) 日本海産浅海性魚類の分類学・生物地理学的研究。日本列島は太平洋・日本海・オホーツク海・東シナ海に囲まれるが、日本海に産する魚類の種多様性は未解明な状況にある。そこで、とくに研究が進んでいない浅海性魚類を対象として、日本海産魚類の種多様性の解明を進めている。同時に、過去(所蔵標本)から現在(新規標本)までの標本を利活用することで、種多様性の時系列的な変動に関する研究も実施している。(3) アンダマン海産深海性魚類の分類学的研究。アンダマン海(東部インド洋)に分布する深海性魚類を対象として、それらの分類学的な研究を実施している。標本調査に際しては、標本を保有するタイ王国プーケットの研究施設を訪問し、現地スタッフらに資料の維持・管理を指導している。(4) 北海道産魚類のDNA解析用試料・写真インベントリーの構築。水産科学館には24万点の魚類標本があるが、形態観察を主用途とする標本であった。近年は北方系魚類の集団遺伝解析も盛んに実施されつつあり、他機関からの利用要望も多いことから、各種10個体を目安にしてDNA解析用の資料を蓄積させている。加えて、標本化前の色彩保存・記録を目的として、全ての種で生鮮時写真を撮影し、写真資料として保管している。

原著論文

1. 古庄 誠・森川英祐・三澤 遼・田城文人. 2023. 茨城県沖で採集された日本初記録のウミヘビ科魚類 *Ophichthus longicarpus* アズキウミヘビ(新称). 魚類学雑誌, 70: 187-192.
2. Obata1, K., Mita, K., Senda, T., Kawai, T., Tashiro, F., Imamura, H., Aungtonya, C. and Banchongmanee, S. 2023. Deep-sea fishes from the Andaman Sea by R/V Chakratong Tongyai during 1996-2000. Part 7: order Stomiiformes. Phuket Mar. biol. Cent. Res. Bull. 80: 21-51.
3. Matsunuma, M. and Tashiro, F. 2024. Identification of the holotype of *Pleuronectes chrysopterus* Bloch and Schneider 1801 as a species of *Platichthys* (Pleuronectidae), not *Pseudorhombus arsius* (Hamilton 1822) (Paralichthyidae). Ichthyol. Res., 71: 187-192.
4. Matsunuma, M., Tashiro, F. and Motomura, H. 2024. First Japanese records of the flounders *Pseudorhombus elevatus* and *P. quinquocellatus* (Teleostei: Paralichthyidae) from Okinawa Island, Ryukyu Islands. Spec. Divers., 29: 9-21.
5. Mori, T., Matsuzaki, K., Kai, Y. and Tashiro, F. 2024. *Careproctus rhomboides*, a new snailfish (Cottoidei: Liparidae) from the western North Pacific. Ichthyol. Res.: <https://doi.org/10.1007/s10228-024-00953-5>.

執筆(著書・総説・解説・報告等)

1. 田城文人. 2023. おしゃべりな標本たち 55 「アフリカの淡水魚」. 北海道新聞, 夕刊, 2023.6.10.

学会発表

1. 田城文人・高見宗広・三澤 遼・成松庸二. 2023. 遺伝・形態データに基づく日本産ホラアナゴ属魚類の分類. 2023 年度日本魚類学会年会 (長崎), 2023 年 9 月 1 日-4 日, ポスター発表.
2. 松沼瑞樹・和田英敏・金井聖弥・田城文人・本村 浩之. 2023. 日本産ヒラメ科ガンゾウビラメ属の分類学的再検討. 2023 年度日本魚類学会年会 (長崎), 2023 年 9 月 1 日-4 日, 口頭発表.
3. 小幡光汰・杉山明日香・河合俊郎・田城文人・今村 央・Aungtonya Charatsee・Banchongmanee Surapong. 2023. 調査船 Chakratong Tongyai によってタイ王国プーケット沖のアンダマン海から採集されたハダカイワシ目魚類. 2023 年度日本魚類学会年会 (長崎), 2023 年 9 月 1 日-4 日, ポスター発表.
4. 坂上 嶺・田城文人. 2023. 北海道太平洋沿岸で採集されたマツカワ天然仔魚. 2023 年度日本魚類学会年会 (長崎), 2023 年 9 月 1 日-4 日, ポスター発表.
5. 園山萌香・田城文人・今村 央. 2023. 日本産ギンアナゴ *Gnathophis heterognathos* は 1 種なのか?. 2023 年度日本魚類学会年会 (長崎), 2023 年 9 月 1 日-4 日, ポスター発表.

一般講演

1. 令和 5 年 9 月 9 日, 第 6 回土曜市民セミナー「コロナ禍と戦争 魚類分類屋の苦悩、そして新たな取り組み」, 北海道大学総合博物館.

外部資金

1. 科学研究費助成事業基盤研究(C)「深海底生性魚類の種多様性評価：コスモポリタンは真実か？」研究代表者

学会活動

1. 日本魚類学会 代議員
2. 日本魚類学会 編集委員 (和文誌主任)

首藤光太郎 助教

研究内容の概要

植物体系学。(1) 北海道の維管束植物相に関する研究。北海道は国内の都道府県の中で最も広く未踏地も多いことから、他の都道府県と比べ植物相の解明が不十分である。道内における希少種などの特筆すべき種の新産地やその生育および分布状況、一定範囲の植物相などを研究している。(2) ツツジ科イチヤクソウ属を用いた植物の菌従属栄養性の進化。ツツジ科イチヤクソウ属には葉が縮小しほぼ完全な菌従属栄養性をもつヒトツバイイチヤクソウと、これに近縁な普通葉をもつイチヤクソウが知られている。両者は近縁な関係間で異なる菌従属栄養性を示すことから、菌従属栄養植物の進化過程の研究に有用な材料であり、これらの系統・分類・進化学的な研究を行っている。(3) 日本国内の水生植物相に関する研究。国内の水生植物は、およそ4割の種が環境省のレッドリストに掲載されており、全国的に減少傾向にある。その一方で、国内における水生植物の分布状況は十分に把握されていない。自然湖沼・ため池・河川といった日本国内の水辺を巡り、水生植物相調査、分類学的研究、調査手法について研究を行っている。(4) 植物標本の収集および活用に関する研究。分類群・地域環境問わず日常的に植物標本を収集・整理し、陸上植物標本庫(SAPS)の蓄積を図っている。これらのコレクションや既存の標本を活用し、国内産植物の分類や分布の整理を行う。

原著論文 ※査読のあるもの

1. **Shutoh K.** 2023. Lectotypification of four intraspecific taxa described by Dr. Misao Tatewaki from Rebun and Rishiri islands, Hokkaido, Japan. *Journal of Japanese Botany* 98(4): 208–213.
2. Tamaki I, Mizuno M, Ohtsuki T, **Shutoh K**, Tabata R, Tsunamoto Y, Suyama Y, Nakajima Y, Kubo N, Ito T, Noma N, Harada E. 2023. Phylogenetic, population structure, and population demographic analyses reveal that *Vicia sepium* in Japan is native and not introduced. *Scientific Reports* 13: 20746.
3. **Shutoh K**, Kurosawa T, Kato M, Takahashi H, Grabovskaya-Borodina A. 2023. A note on the lectotype and type locality of *Pyrola subaphylla* (Ericaceae). *Journal of Japanese Botany* 98(6): 285–292.
4. **首藤光太郎**, 山崎真実, 佐久間春子, 富士田裕子. 2023. 北海道新産のゴハリマツモ(マツモ科)と道内におけるマツモ属の極めて稀な結実記録. *植物地理・分類研究* 71(1): 65–71.
5. 山岸洋貴, **首藤光太郎**. 2023. 北海道におけるミヤマキケマン(ケシ科)の分布について. *植物地理・分類研究* 71(1): 73–78.
6. 加藤ゆき恵, **首藤光太郎**. 2023. 北海道大学内で所在不明となっていたホロタイプ3点の発見と『秋山茂雄『極東亜産スゲ属植物』図版標本目録』(2009)の補遺. *莎草研究* (25): 29–37.
7. 石川弘晃, 富士田裕子, **首藤光太郎**. 2023. 国内東限を更新するチャボイ(カヤツリグサ科)の新産地を北海道風蓮湖で確認. *莎草研究* (25): 45–50.

執筆(著書・総説・解説・報告等) ※査読のない研究会誌や紀要等で発表した原著論文を含む

1. 山崎真実, 首藤光太郎. 2023. 札幌市東区におけるヒンジモ *Lemna trisulca* L. の新たな生育地点及びサッポロさとらんど内「さとの池」の水生植物. 水草研究会誌 (115): 17-24.
2. 首藤光太郎. 2024. 北海道立北方民族博物館収蔵の原ひろ子博士が採集した植物標本群の同定. 北海道立北方民族博物館研究紀要 (33): 55-73.
3. 加藤ゆき恵, 首藤光太郎, 城坂 (平林) 結実, 水島未記, 持田誠, 山崎真実. 2024. 北海道内博物館合同展示「押し花の押し花〜牧野富太郎と植物標本」の報告. 北海道博物館研究紀要 (9): 127-136.
4. Cole TCH, Higer HH, 首藤光太郎, 高野温子. 2023. ツツジ科系統ポスター (翻訳, https://www.researchgate.net/publication/372147103_ERICACEAE_tsutsujikexitongposuta_EricaPP_Japanese).

学会発表 (*演者)

1. *首藤光太郎, 山崎真実. 「念願の石狩低地帯へ! 4年ぶりのエクスカージョンで観察予定の水草たち」. 水草研究会第45回全国集会, 2023年8月19日, 北海道大学札幌キャンパス, O-10, 口頭.
2. *佐久間春子, 富士田裕子, 首藤光太郎, 三木昇, 内田暁友, 井上京. 「北海道浮島湿原における現在の植生と過去からの変化」. 植生学会第28回大会, 2023年10月14日, 甲南女子大学, A08, 口頭.
3. *富士田裕子, 石川弘晃, 加藤ゆき恵, 首藤光太郎. 「北海道根釧地域の湿地の植物多様性の解明と自然資源の評価に向けて」. 植生学会第28回大会, 2023年10月14日, 甲南女子大学, B13, 口頭.
4. 加藤ゆき恵, 首藤光太郎, 城坂 (平林) 結実, 水島未記, 持田誠, 山崎真実. 「北海道内博物館合同展示「押し花の押し花〜牧野富太郎と植物標本〜」開催報告」. 北海道自然史研究会 2023 年度大会, 2024年2月18日, 北海道大学札幌キャンパス, 口頭.
5. *首藤光太郎. 「イチヤクソウ属の系統分類学的研究および北海道・東北地方を中心とした地域植物相の研究」. 日本植物分類学会第23回大会, 2024年3月11日, 東北大学片平キャンパス, 日本植物分類学会奨励賞受賞講演, 口頭.
6. *児玉円, 秋本香奈子, 須貝杏子, 田中啓介, 成田あゆ, 首藤光太郎, 岩崎貴也. 「外来種オニハマダイコンの日本への侵入の歴史」. 日本植物分類学会第23回大会, 2024年3月9日, 東北大学片平キャンパス, PA16, ポスター.
7. *石川弘晃, 富士田裕子, 首藤光太郎. 「国定公園化候補地となった北海道根室地方の湿地群の植物相とその特徴」. 日本植物分類学会第23回大会, 2024年3月9日, 東北大学片平キャンパス, PA26, ポスター.
8. 加藤将, 平澤優輝, 伊東拓朗, 首藤光太郎, 佐藤妙子, *志賀隆. 「種子植物 126 科 206 種の標本種子の発芽・生存可能性評価」. 日本植物分類学会第23回大会, 2024年3月11日, 東北大学片平キャンパス, PB26, ポスター.
9. *井河龍之介, 首藤光太郎. 「札幌市南区八剣山の維管束植物相とその変化: 登山道沿いでの多様性の低下」. 日本植物分類学会第23回大会, 2024年3月11日, 東北大学片平キャンパス, PB32, ポスター.

10. ***首藤光太郎**, 石川弘晃, 富士田裕子.「環境省レッドリスト未掲載の希少種 2 種の北海道根室地方における分布・採集・生育状況」. 日本植物分類学会第 23 回大会, 2024 年 3 月 11 日, 東北大学片平キャンパス, PB33, ポスター.

社会貢献活動（一般向け講演）

1. ***首藤光太郎**.「北海道における水生植物の生きざまとフロラ調査継続の重要性」. 北海道自然保護講演会, 2023 年 5 月 20 日, 札幌市資料館（北海道札幌市）.
2. ***首藤光太郎**.「北海道で始まった水草研究」. 北海道大学総合博物館ボランティアの会講演会, 2023 年 5 月 26 日, 北海道大学総合博物館（北海道札幌市）.
3. ***首藤光太郎**.「コロナ禍の 3 年で逆にできるようになった（？）北海道内の植物研究」. 北海道大学総合博物館土曜市民セミナー, 2023 年 8 月 12 日, 北海道大学総合博物館（北海道札幌市）.
4. ***首藤光太郎**.「北海道の水草の特徴と, 最近の水草研究の新知見紹介」. 水草研究会第 45 回全国集会公開講演会「北海道の水草研究最前線」, 2023 年 8 月 19 日, 北海道大学総合博物館（北海道札幌市）.
5. ***首藤光太郎**.「北海道の植物相研究の現状」. 日本植物学会第 87 回大会公開講演会「植物から見た北海道の自然」, 2023 年 9 月 9 日, 北海道大学工学院（北海道札幌市）.
6. ***首藤光太郎**.「植物標本のオーソドックスな利活用」. 公開講演会「標本庫知新 植物標本とそのタネの利活用と可能性」, 2024 年 3 月 23 日, 北海道大学総合博物館（北海道札幌市）.

社会貢献活動（委員等）

1. 環境省希少野生動植物種保存推進員（2015 年～現在）
2. 環境省「重要生態系監視地域モニタリング推進事業（陸水域調査）」調査員（2017 年～現在）
3. 北広島市特別天然記念物野幌原始林保存活用計画検討委員会委員（2023 年～現在）

テレビ・ラジオ等出演

特になし

外部資金

1. 独立行政法人環境再生保全機構環境研究総合推進費「生物多様性保全・気候変動対策・地域振興を最適化させる自然公園設計:北海道東部・根釧地方における学際的研究と実践」, 研究分担者, 2,187,000 円.
2. 科学研究費補助金基盤研究(B)「収蔵施設および分類群横断的調査に基づく博物館標本種子の発芽可能性の総合評価」, 研究分担者, 250,000 円

学会活動

1. 日本植物分類学会 研究・普及推進委員会委員（2019 年～現在）
2. 水草研究会 事務局（2021 年～現在）

3. 水草研究会 幹事（2019 年～現在）
4. 東北植物研究会『東北植物研究』編集委員（2015 年度～）
5. 水草研究会 水草研究会第 45 回全国集会実行委員（2023 年 8 月）
6. 日本植物学会第 87 回大会実行委員（2022 年～2023 年 9 月）

メディアへの広報（プレスリリースなど）

1. 2023 年 12 月 5 日 織田信長の薬草園の謎：伊吹山の希少植物イブキノエンドウは日本の在来種である

北野一平 助教

研究内容の概要

地質学および岩石鉱物学。変成岩の形成過程や起源・帰属についての研究。南極やスリランカといった Gondwana 超大陸の形成に伴う大陸衝突帯に位置していた変成岩を調査・分析し、①変成岩の元々の岩石である原岩の種類・形成テクトニクス場・形成年代を推定し、その原岩の起源・帰属を明らかにする、②変成岩が経験した変成作用の温度圧力時間履歴を解読し、当該地域における変成過程のテクトニクスを復元する。また、国内では、日本列島最古級の地質体である黒瀬川構造帯、長門構造帯、三郡蓮華帯の変成岩および関連する深成岩を主な対象として分析し、日本列島の初期の発達史を研究している。そのほかにも、日高山脈を占める日高変成帯など道内の地質体や、ベトナムの変成岩類の研究にも着手し始めている。

原著論文

1. Baba, S., Nantasin, P., Kamei, A., Kitano, I., Motoyoshi, Y., Setiawan, N., Dashbaatar, D., Hokada, T. (2023) Counter-clockwise P-T history deduced from kyanite-bearing pelitic gneiss in Tenmondai Rock, Lützow-Holm Complex, East Antarctica. **Journal of Mineralogical and Petrological Sciences**, 118, ANTARCTICA, 221202. <https://doi.org/10.2465/jmps.221202>
2. Kitano, I., Hokada, T., Baba, S., Kamei, A., Motoyoshi, Y., Nantasin, P., Setiawan, N.I., Dashbaatar, D., Toyoshima, T., Ishikawa, M., Katori, T. Osanai, Y., Nakano, N. (2023) Zircon geochronology of high-grade metamorphic rocks from outcrops along the Prince Olav Coast, East Antarctica: Implications for the multi-thermal events and regional correlations. **Journal of Mineralogical and Petrological Sciences**, 118, ANTARCTICA, S009. <https://doi.org/10.2465/jmps.221220>
3. Takehara, M., Horie, K., Hokada, T., Baba, S., Kamei, A., Kitano, I. (2023) Zircon geochronology and geochemistry of felsic gneisses from Harvey Nunatak, Napier Complex, East Antarctica. **Journal of Mineralogical and Petrological Sciences**, 118, ANTARCTICA, S015. <https://doi.org/10.2465/jmps.230331>

執筆（著書・総説・解説・報告等）

1. 北野一平. 2023. 神居古潭巡検参加報告. 日本地質学会 News, 26 (9), 24–25.
2. 北野一平. 2023. 北海道大学総合博物館と極地・北方域研究. 極地, 59 (2), 69–72.

学会発表

1. 北野一平. 2023. 日高山脈ソガベツ沢のマイロナイト化した泥質グラニュライトの温度圧力経路. 日本地質学会北海道支部2023年度例会, 札幌.
2. 亀井淳志, 市川もも, 外田智千, 谷健一郎, 北野一平, 馬場壮太郎, Nugroho I. SETIAWAN, Prayath NANTASIN, Davaa-ochir DASHBAATAR, 本吉洋一. 2023. 東南極リュツォ・ホルム岩体の天文台岩

に産する変花崗岩類をもたらした火成活動。日本鉱物科学会2023年年会，大阪（ハイブリッド）。

3. 北野一平. 2023. 栃木県西部足尾山地から見出された片麻岩の温度圧力条件. 日本地質学会第130年学術大会, 京都.
4. 北野一平. 2023. 栃木県西部足尾山地に産する片麻岩に含有されるクリソベリルの産状報告と意義. 日本地質学会第130年学術大会, 京都.
5. 亀井淳志, 市田花歩, 栗田 晶, 外田智千, 堀江憲路, 竹原真美, 馬場壮太郎, 北野一平, Nugroho I. SETIAWAN, Prayath NANTASIN, Davaa-ochir DASHBAATAR, 本吉洋一. 2023. 東南極リュツォ・ホルム複合岩体のあけぼの岩に産する変花崗岩類をもたらした火成活動. 日本地質学会第130年学術大会, 京都.
6. 大和田正明, 宮下由香里, 佐藤大介, 小山内康人, 北野一平. 2023. 山口県東部屋代島の深成岩類の火成活動史：九州地域との比較. 日本地質学会第130年学術大会, 京都.
7. Kitano, I., Osanai, Y., Tsujimori, T., Takenouchi, K., Nakano, N. 2023. New zircon U–Pb geochronology of high-pressure schists from the Itoigawa-Omi area in the Hida Gaien Belt, Japan. International Association for Gondwana Research 2023 Convention and 20th International Conference on Gondwana to Asia (Niigata, Japan)
8. Bui, T.S.V., Kitano, I., Osanai, Y., Nakano, N. 2023. Monazite dating of pelitic gneisses in the Dai Loc Complex, Truong Son Belt, Vietnam. International Association for Gondwana Research 2023 Convention and 20th International Conference on Gondwana to Asia (Niigata, Japan)
9. Kitano, I. 2023. The pressure–temperature path of a mylonitized pelitic granulite in the Hidaka metamorphic belt, Hokkaido, Japan. The fourteenth Symposium on Polar Science (Tokyo, Japan: Hybrid).
- 10.

一般講演

なし

テレビ・ラジオ等出演

1. NHK 北海道 ほっとニュース北海道「“北海道石”だとする石 ネットで出品相次ぐ」取材・放送（6/6）
2. HBC 北海道放送「今日ドキッ！」取材（6/8）
3. TV News「噴出物の正体は「石英」健康への影響は…観光客の姿も「迫力ある」北海道蘭越町」取材（7/3）
4. フジテレビめざまし8 電話取材（7/4）
5. 株式会社 JALCA 取材（8/5）
6. エフエム北海道（AIR-G'）「世界のあこがれ～北海道ブランド～」北海道の新鉱物（10/8・15 放送）

学会活動

1. 日本地質学会 会員

2. 日本鉱物科学会 会員
3. 日本地球惑星科学連合 会員
4. 南極地質研究委員会 委員

博物館教育研究活動

1. 2022 年度学生企画グッズ指導（2022 年度博物館コミュニケーション特論：ミュージアムグッズの開発と評価）、2023 年度ミュージアムショップで販売開始。「北大総合博物館ポストカードブック」、「ミュージアムマグ」
2. 2023 年度学生企画グッズ指導（2023 年度博物館コミュニケーション特論：ミュージアムグッズの開発と評価）、「ミュージアムガチャ：キーホルダー、マグネット、ラバーバンド」「おかき黒千石先生のパッケージ」「文具：ペンケース、鉛筆、栞」「T シャツ」
3. 第 4 回「建築の学生」展 指導
4. 2023 年度卒論ポスター発表会 発表・運営指導

社会貢献

1. ライマン来道 150 周年・2023 年度「地質の日」記念講演会（5/27）
2. 新鉱物「北海道石」展示（5/30～9/3）
3. 「北海道石など蛍光観察会」カルチャーナイトでのイベント（7/21）
4. 「北海道大学総合博物館がやってきた！JR タワー・エゾミュージアム」（9/16～9/24）
5. 「SDGs デー2023」ワークショップ（11/3）

メディアへの広報（プレスリリースなど）

1. 北海道新聞「さっぽろ 10 区」取材（6/12）
2. JR 北海道車内広報誌『The JR Hokkaido』ミュージアムグッズ特集（10/31）

賞罰

なし

IV. 教育

教育分野の取り組み

- 博物館教員は、全学教育・大学院共通授業、学芸員関連科目と博物館実習を主担当や分担を行っており、教育に大きく貢献している。
- 博物館独自の教育プログラムである、ミュージアムマイスター認定コースとパラタクソノミスト養成講座を行っており、多彩に多次元に北海道大学の院生や学生の質向上に努めている。
- 各教員は、他部局を兼務しており、院生や学生の研究指導をし、各分野の研究レベル向上に貢献している。

A 全学教育・大学院共通授業、学芸員関連科目と博物館実習

学芸員養成科目	
博物館資料保存論	大原昌宏（分担）
博物館教育論	湯浅万紀子（分担）
博物館資料論	阿部剛史（分担）
博物館実習（事前事後指導）	大原昌宏（分担）
博物館実習（館務実習） 実習分野：第2農場、陸上植物、動物、地学	湯浅万紀子、博物館教員全員、（坪田敏男、近藤誠司、越前谷宏紀、三谷朋弘）、事務（井上猛）、研究支援推進員（市来紗都子、土田江里子）、技術補助員（柴野伸幸）
博物館展示論	小林快次（分担）、北野一平（分担）、江田真毅（分担）
全学教育	
一般教育演習「モノ・コト・ヒト」	阿部剛史（主担当）、博物館教員全員
大学院教育	
大学院共通授業「博物館コミュニケーション特論Ⅰ」	湯浅万紀子
大学院共通授業「博物館コミュニケーション特論Ⅲ」	湯浅万紀子、北野一平
大学院共通授業「博物館学特別講義Ⅰ」	首藤光太郎（主担当）、北野一平、大原昌宏、小林快次、阿部剛史

B ミュージアムマイスター認定コース

ミュージアムマイスター認定コースは、課題探究能力、協調性と自主性を備え、問題解決能力、コミュニケーション能力、マネジメント能力をもち、自己評価の視点を身につけた北大生を認定する、学内のさまざまな部局の協力を得て展開している総合博物館独自の教育システムである。

担当教員：湯浅万紀子、北野一平、小林快次、江田真毅、首藤光太郎

活動内容：以下の三段階で開講科目を設置している。

（１）導入科目：環境・人間・文化に関する基礎知識を学習する科目や導入的なフィールド体験型科目。また、博物館の存在意義や活動についての基礎知識を学習する科目。

（２）ステップアップ科目：実物資料の扱い方やフィールドワークの方法を学習する科目や講座。さらに博物館活動と運営について理解を深める科目。

（３）社会体験型科目：博物館での活動を通じて社会とつながる実践と評価を行う科目やプロジェクト。

(a) 卒論ポスター発表会での発表

開催日：令和 6 年 3 月 2 日（土）・3 日（日）

会場：総合博物館 1 階 知の交流ホール、企画展示室

内容：ガイダンスと 3 回の中間発表会、開催前日のリハーサルを経て、卒論を市民向けの 1 枚のポスターにまとめ、市民と審査員に向けて説明し、質疑応答を行った。参加学生：11 名（農学部 1 名・理学部 4 名・工学部 5 名・文学部 1 名）

受賞者：最優秀賞；木元 友理香（工学部）・石川 弘晃（農学部）、SDGs 賞；石川 弘晃（農学部）、ミュージアム・マイスター賞；木元 友理香（工学部）、来館者賞；杉浦 寛大（理学部）

(b) 卒論ポスター発表会の運営

開催日と会場：同上

内容：広報ポスター（学内・学外向け）の制作・掲示依頼、中間発表会への参加、発表会プログラムの制作、運営方法の検討、2 日間の発表会の運営

参加学生：5 名（理学部 2 年生・文学院修士課程 1 年生・理学院修士課程 2 年生各 1 名、農学院博士課程 1 年生 2 名）

令和 5 年度ミュージアムマイスター認定

5 名：荒川大地（理学部 3 年）、柿澤彩花（工学部 4 年）、荒岡柊二郎（理学部 4 年）、古郷優平・長峰実央（理学院修士 2 年）

C パラタクソノミスト養成講座

本養成講座は、北大生を対象にしており、一般市民も参加できるものである。受講することによって、学術標本やサンプルを正しく同定できる能力を持つことを目的とする。また、標本の研究や教育的面の価値や重要性を認識し、当館に収蔵されている学術標本を利活用しやすいように整備する人材を増やすことを目的としている。本年度は、5 分野 7 講座を開催した。

1. 昆虫パラタクソノミスト養成講座 初級

会期：2023年7月8-9日

場所：北海道大学総合博物館 3階（N328）

講師：大原昌宏・山本周平

参加人数：12名

2. 岩石パラタクソノミスト養成講座（初級）

会期：2023年7月15日

場所：北海道大学総合博物館 3階（N328）

講師：竹下 徹

参加人数：15名

3. 考古パラタクソノミスト養成講座（初級）

会期：2023年8月6日

場所：北海道大学総合博物館 3階（N328）

講師：小野裕子

参加人数：10名

4. パラタクソノミスト養成講座 植物（初級）

会期：2023年9月16日

場所：北海道大学総合博物館 3階（N328）

講師：首藤光太郎

参加人数：12名

5. きのごパラタクソノミスト養成講座 初級

会期：2023年10月21日

場所：北海道大学総合博物館 3階（N328）

講師：小林孝人

参加人数：10名

6. 昆虫甲虫パラタクソノミスト養成講座 中級

会期：2024年3月9-10日

場所：北海道大学総合博物館 3階（N328）

講師：大原昌宏・菊地那樹・Ian dela Cruz・下中淳之介

参加人数：10名

7. 昆虫甲虫パラタクソノミスト養成講座 上級

会期：2024年3月16-17日

場所：北海道大学総合博物館 3階（N328）

講師：大原昌宏・菊地那樹・Ian dela Cruz・下中淳之介

参加人数：10名

D 各教員が指導する院生や学生

総合博物館の教員は、他の部局の兼任を勤めており、院生や学部生を指導・教育しており、大学の研究と教育の質向上に大きく貢献している。以下がそのリストとなる。

氏名	学年	所属	担当教員
久保 孝太	D3	理学院(S203)	小林快次
清水 洲平	D3	理学部(S203)	小林快次
Xuanyu Zhou	D3	理学部(S203)	小林快次
宇津木 洋平	D3	理学部(S203)	小林快次
田中 美羽	D2	理学院(S203)	小林快次
高田 健太郎	D2	理学部(S203)	小林快次
大薮 隼平	D1	理学部(S203)	小林快次
守屋 友一朗	M2	理学部(S203)	小林快次
蒔田 青空	M2	理学部(S203)	小林快次
大村 颯	M2	理学部(S203)	小林快次
川本一陽	M2	理学部(S203)	小林快次
東 祐大	M2	理学部(S203)	小林快次
堤 裕規	M2	理学部(S203)	小林快次
鬼塚 翔暉	M2	理学部(S203)	小林快次
西原 祐貴	M2	理学部(S203)	小林快次
大野 真緒	M1	理学部(S203)	小林快次
伊藤 政矩	M1	理学部(S203)	小林快次
矢倉 鉄平	M1	理学部(S203)	小林快次
多久和 隼	M1	理学部(S203)	小林快次
菅 遥斗	B4	理学部(S203)	小林快次
祖父江 陽介	B4	理学部(S203)	小林快次
松田 大洋	B4	理学部(S203)	小林快次
能瀬 晴菜	D3	農学院 (S203)	大原昌宏

Ian Dela Cruz	D3	農学院 (S203)	大原昌宏
菊地 那樹	D3	農学院 (S203)	大原昌宏
竹本 拓矢	D2	農学院 (S203)	大原昌宏
下中淳ノ介	M1	農学院 (S203)	大原昌宏
西村 涼大	M1	農学院 (S203)	大原昌宏
大西 慶	D3	理学院 (S203)	湯浅万紀子
雲中 慧	M2	理学院 (S203)	湯浅万紀子
森本 智郎	M2	理学院 (S203)	湯浅万紀子
岩本 歩夢	M2	理学院 (S203)	湯浅万紀子
橋本 彩加	M2	理学院 (S203)	湯浅万紀子
西嶋 圭	M2	理学院(N307)	阿部剛史
五十嵐 茉奈	M1	理学院(N307)	阿部剛史
久野 建志郎	B4	理学院(N307)	阿部剛史
許 開軒	D3	文学院 (S203)	江田真毅
荒井 綺乃	M2	文学院 (S203)	江田真毅
楊 紫雲	研究生 (10月入学)	総合博物館 (S203)	江田真毅
劉 旻	研究生 (10月入学)	総合博物館 (S203)	江田真毅
佐久間 春子	M2	農学院 (N324)	首藤光太郎
井河 龍之介	M1	農学院 (N324)	首藤光太郎
石川 弘晃	B4	農学院 (N324)	首藤光太郎
奥山 修右	B3	農学院 (N326 に 簡易机設置)	首藤光太郎
伊藤 和希	B4	水産学部	田城文人
北向 祐人	B4	水産学部	田城文人

修士論文・博士論文の主査・副査（件数）

教員名	博士論文	修士論文
小林快次	2 件（主査 2）	5 件（主査 3・副査 2）
大原昌宏	4 件（主査 2・副査 2）	3 件（副査 3）
湯浅万紀子	1 件（主査 1）	2 件（主査 2）

江田真毅	2 件（主査 1・副査 1）	1 件（主査 1）
阿部剛史	-	-
田城文人	0 件	3 件（副査 3）
首藤光太郎	0 件	2 件（主査 1・副査 1）
北野一平	0 件	0 件

V. 社会貢献

A 展示

<常設展示>

・新型コロナウイルス蔓延防止対策

5月8日に新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5類」に引き下げられたことを受け、「感じる展示室」と各常設展示室内の「触れる展示」を再開した。

・北大の学び舎維持発展 WG 開催

趣旨：2016年7月26日にリニューアルオープンした総合博物館には、新たに人文・社会・自然科学を網羅する本学の全12学部の最新の研究や教育、社会貢献などについて紹介する「北大の学び舎」が加わった。全学部の最新情報を手軽に得ることができる。北大の学び舎維持発展WGは、各部局の展示担当教員と共に、展示を維持し発展するために議論するものである。

担当教員：首藤光太郎、北野一平

開催日：第1回令和5年8月21日（月）対面とオンラインのハイブリット形式にて開催

・水産科学館展示施設 WG

水産科学館本館の改築に伴う準備活動を実施した。

・展示解説・案内対応

展示解説・案内対応は館として実施しないこととした。

・その他

- 「北大のいま」展示の北大の組織図、および「北大の学び舎」展示の各学部サイネージの就職状況の情報を更新した。

<企画展示>

・展示名：新鉱物「北海道石」期間限定展示

担当者：北野一平

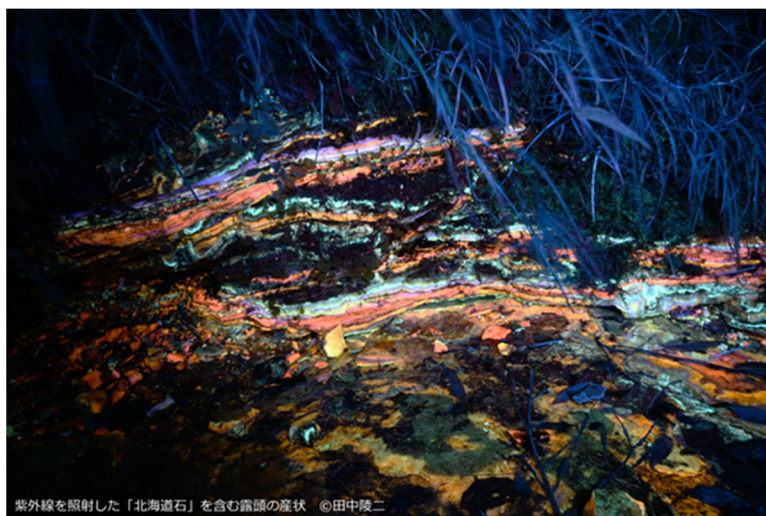
概要：「北海道石」は2023年1月に認定された新鉱物であり、特別な許可を得たうえで「北海道石」を発見・研究・命名した研究グループからの寄贈標本を期間限定で公開した。「北海道石」は産出が稀な有機鉱物の一種で、北海道河東郡鹿追町および北海道上川郡愛別町で発見された。紫外線照射下で、美しく蛍光する。新鉱物「北海道石」を含む有機鉱物の実物標本とともにそれらの蛍光する様子を映した映像を展示した。地球科学の最前線や地球の神秘を感じられるだけでなく、博物館の貴重な収蔵標本を一般公開する意義・後世へ継承するための保管する意義への理解を一助する機会となった。

期間：令和5年5月30日（火）から9月3日（日）

会場：北海道大学総合博物館3階展示室「鉱物・岩石標本の世界」

主催：北海道大学総合博物館

入館者数：75,418 名



・展示名：「近代農業がみた夢 - 札幌農学校第二農場と小岩井農場がつくる風景」展

担当者：小澤丈夫（総合博物館資料部研究員・工学研究院教授）、角哲（北海道大学大学院工学研究院准教授）

概要：札幌農学校の農場施設に焦点をあて、日本の近代農業の発展とその展開について紹介した。近代農業の高等教育機関として設置された札幌農学校のほか、民間の生産農場として発展した小岩井農場施設も対象とした。いずれも、近代農場に関する施設が重要文化財に指定されており、その比較を通じて近代建築の展開について展示した。

期間：令和5年7月22日（土）から9月10日（日）

会場：総合博物館 1階企画展室

主催：北海道大学総合博物館、北海道大学大学院工学研究院建築デザイン学研究室

共済：公益法人小岩井農場財団

協力：小岩井農牧株式会社、名古屋市立大学大学院角哲研究室、公益社団法人日本建築家協会北海道支部

入館者数：46,165 名



・展示名：「第4回 建築の学生展」

担当者：北野一平、湯浅万紀子、小篠隆生（工学研究院）

概要：当館での第1～3回「建築の学生」展に続き、本学工学部 環境社会工学科 建築都市コース授業のなかで学生達が製作した建築模型や図面を多数紹介した。会期中、学生達が会場に常駐し、学生は来場者に説明し質問に答えて交流した。「学生の建築」展ではなく、「建築の学生」展としたタイトルには、学生達との対話を通して建築を学ぶ彼らの姿を知ってもらいたいという思いが込められている。第2回・第3回に続き、2会場（企画展示室、知の交流ホール）での大規模な展示となり、メインビジュアルや会場構成も更に洗練された。また、来場者が学生の作品についての感想やメッセージを付箋に綴って会場に自身で吊るして公開していく体験型展示を初めて行った。その意図は、展示コンセプトである「あなたの好きを聞かせてください」を来場者が表現する場とすること、そして実際に展示空間という作品/建築空間をつくる主体となることで、新たな目線から建築をみてもらうことである。1回目から対応している大学院生1名は運営を外れ、その役割は下級生に引き継がれたが、役割分担を決めたメンバーが全体をスムーズに運営した。第2会場への誘導が無事なされ、来場者数は会場別に、1日目は373名、2日目は283名、総数で656名であり、第1回の来場者総数470名、第2回436名を大幅に上回ったが、3回目の859名には及ばなかった。第2会場の体験型展示に参加したのは1日目は225名、2日目は161名、総数386名であった。個々の作品・全体への感想などを問うアンケートを第1会場で配布し、第2会場で回収した。回収数は295枚であり、学生の解説を中心に概ね好評であった。企画のプロセス、出展リスト、会場構成、アンケートの分析、学生メンバーの考察が盛り込まれた報告書が、第1～3回に続いてまとめられた。展示制作に関わるコスト、主担当の学生の負担、博物館スタッフとの連携について課題は残るが、学生が主体となって展示の制作・解説・運営を行い、報告書をまとめる取り組みは評価に値する。なお、令和5年度の博物館年次報告会では、「建築の学生」展全4回の実践の報告と考察について、第1～3回を主担当した工学研究院修士2年生・ミュージアムマイスターの佐々木悠貴さんが発表した。

期間：令和5年9月30日（土）・10月1日（日）

会場：総合博物館1階 知の交流ホールと企画展示室

主催：北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース有志学生

共催：北海道大学総合博物館

入館者数：1,829 名



第4回建築の学生展

あなたの好きを聞かせてください

第4回建築の学生展

2023.9.30[Sat]-10.1[Sun]
10:00-17:00 入場無料

◎授業で製作した建築模型・図面等の展示や学生による説明を行います。

会場：北海道大学総合博物館1階企画展示室、知の交流ホール
主催：北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース有志学生、
文学部人文科学科哲学・文化学コース芸術学研究室有志学生
共催：北海道大学総合博物館

お問い合わせ
<建築の学生展> 代表：金子千裕（北海道大学工学部4年）
E-mail：archi-gakuseiten@googlegroups.com
<総合博物館> TEL：011-706-2658
E-mail：museum.jimu@museum.hokudai.ac.jp

～インスタ、HPでも展示中！～



アクセス



・展示名：「写真展「恋するシマエナガ」—愛すべき7グラム—」

担当者：大原昌宏

概要：道内において、注目度の高い野鳥であるシマエナガを様々な切口で紹介することにより、より多くの来館者に野生生物とその背景となる自然環境を理解する動機づけに資することを目的とする。写真家山本光一氏の令和4年9月に北海道新聞社より出版されたシマエナガの写真集「まるごとしまえなが」（山本光一著／添付フライヤー、プレスリリース参照）の作品A1～A3ノビ（26点）と山本氏が所蔵する「シマエナガの巣」「シマエナガのはく製」などの資料を用い効果的に展示する。

また講演会と3D模型への絵付けワークショップも期間中に開催した。

期間：令和5年10月8日（日）～12月24日（日）

会場：総合博物館 1階 企画展示室

主催：北海道大学総合博物館

関連講演会：

(1) 令和5年11月18日・19日 北海道大学総合博物館知の交流ホール

「野鳥界のアイドル シマエナガの秘密と魅力～人が範とすべき素晴らしい生態～」山本光一（自然写真家）

(2) 令和5年12月16日 北海道大学総合博物館知の交流ホール

「札幌博物場の鳥類標本コレクション」加藤 克（北海道大学 FSC 植物園 准教授）

関連ワークショップ：令和5年11月18、19日 北海道大学総合博物館 3階 N324

3D 模型への絵付け作業

参加者：60 名

入館者数：48,319 名



写真展
恋するシマエナガ
愛すべき7グラム

関連講演会のお知らせ

スライドトーク

「野鳥界のアイドル シマエナガの秘密と魅力
～人が範とすべき素晴らしい生態～」

日時・会場：11月18日（土）・19日（日）、13時30分から
北大総合博物館・知の交流ホール（参加無料、先着順60名）

講師：山本光一（自然写真家）

写真展「恋するシマエナガ 愛すべき7グラム」について、スライドを用いて説明していただきます。

セミナー

「札幌博物場の鳥類標本コレクション」

日時・会場：12月16日（土）13時30分から
北大総合博物館・知の交流ホール（参加無料、先着順60名）

講師：加藤 克（北海道大学 北方圏フィールド科学センター 博物館）

札幌博物場（北大植物園内の博物館）には、札幌農学校の設立とほぼ同時期から収集が続けられている、約12,000点の鳥類標本が所蔵されています。この点数は、日本でも5本の指に入るものですが、一部の著名なコレクション以外の標本についてはそれほど知られてはいません。しかし、北海道で最も歴史の長い博物館だからこそ残されてきた興味深い標本が多く所蔵されています。

本講演では、北大キャンパス内で農学部と理学部の教員がある鳥を撃ち落とすことで言い争いになったというエピソードを含めて、所蔵標本の魅力を伝えたいと思います。

2023年10月8日（日）▶▶▶ 12月24日（日）
10:00～17:00（休館：月曜、祝日の場合は翌日休館）
北海道大学総合博物館 1階企画展示室（札幌市北区北10条西8丁目）
問い合わせ TEL：011-706-2658

主催：北海道大学総合博物館 後援：チームウバシナリ 協力：アンフィ同会社

・展示名：「トガリネズミ展—他の哺乳類とくらべてみよう—」

担当者：大原昌宏

概要：2017年以来、総合博物館では生体展示を開催しており、トガリネズミの認知は次第に上がっている印象を受ける。また本年は、当博物館研究員（低温研・助教）の大舘智志がトガリネズミの研究で日本哺乳類学会賞を受賞し、トガリネズミ類の研究研究成果を一般に紹介するのにより機会でもある。本企

画では主に一般市民を対象に北海道に生息しているトガリネズミ類の生体展示を行うとともに、パネル等での啓蒙教育を行う。また今回の企画の特徴は、トガリネズミ類などの小型哺乳類の骨格の展示を行う。これは科学的に興味深いだけでなく、美術・造形的に優れたアトラクションとなると思われる。合わせて一般市民向けにトガリネズミ類の進化・生態や飼育などについての講演を行う。

期間：令和5年12月12日（火）～12月24日（日）

会場：総合博物館 1階 北極域研究センター展示室

主催：北海道大学総合博物館

後援：北海道大学低温科学研究所、東海大学札幌キャンパス

協力：円山動物園、野生動物生息域外保全センター

関連セミナー：

令和5年12月24日 北海道大学総合博物館知の交流ホール

「トガリネズミを飼育して初めて明らかになってきたこと～北海道産トガリネズミ類の繁殖、成長、音声の研究」河合久仁子（東海大学生物学部生物学科）

「私のトガリネズミ研究～30年を振り返って」大舘智志（北海道大学低温科学研究所）

入館者数：5,140名

小さなちいさな哺乳類

トガリネズミ展

—他の小型哺乳類とくらべてみよう—

2023.12.12（火）～12.24（日）

北海道大学総合博物館 1階 北極域研究センター展示室
開館時間：10：00～17：00 入場無料
休館日：月曜日

【公開セミナー】
「わたしのトガリネズミ研究
～30年を振り返って」
大舘智志（北大低温研）
「北海道産トガリネズミ類の繁殖と
成長・音声の研究」（仮題）
河合久仁子（東海大学生物学部）
12月24日（日）13：30～15：00
定員50名、先着順・参加無料、申し込み不要
北大総合博物館1階 知の交流コーナーにて開催予定
※詳細・受付方法などを変更する可能性があります。
開催情報は北大総合博物館HP、FBをご確認ください。

トガリネズミは
ネズミではないのだ

1円玉10g×2枚

トガリネズミ

後援：北海道大学低温科学研究所、東海大学札幌キャンパス
協力：札幌市円山動物園、野生動物生息域外保全センター
主催：北海道大学総合博物館
〒060-0810 札幌市北區北10条西5丁目
TEL：011-706-2658
https://www.museum.hokudai.ac.jp/

・展示名：「怪物ヒグマ OSO18 の顛末展」

担当者：坪田敏男・江田真毅

概要：過去5年間で66頭の牛を襲ったヒグマが釧路町で2023年7月31日に捕殺された。最初に牛の被害が出た場所（オソツベツ）とその時に計測された足跡の幅が18cmだったことに因みコードネーム“OSO18”と名付けられた。今回、2回にわたってNHKの特集番組（NHKスペシャル）で放映された内容に基づき、NHK札幌放送局の協力を得て、このヒグマの顛末を骨格標本とパネルの展示により紹介した。

期間：令和5年12月20日（水）～2024年2月18日（日）

会場：総合博物館 1階 ラウンジ

主催：北海道大学総合博物館

協力：NHK札幌放送局

入館者数：21,306名



・展示名：「北海道大学総合博物館がやってきた！JR タワー・エゾミュージアム」

担当者：大原昌宏、江田真毅、北野一平

概要：総合博物館で収集・保存してきた資料の中から、北海道に関連した標本・資料を選び抜き、JR札幌

駅のコンコースで出張展示を実施した。北海道に生息するヒグマやエゾシカ、エゾライチョウ、ギンザンマシコなどはく製、ウスバキチョウやオオルリオサムシなどの昆虫標本を紹介した。またかんらん岩やインジウム鉱石などの岩石鉱物標本を展示するとともに、北海道石などの蛍光観察展示も実施した。

期間：令和5年9月16日（火）～9月24日（日）

会場：JRタワー 1F 東コンコース

主催：札幌駅総合開発株式会社

共催：北海道大学総合博物館

企画：STV 札幌テレビ放送

来場者数：45,000 名



・バイオメティクス市民セミナー・公立千歳科学技術大学オープンサイエンスパーク千歳 共同開催特別展示シリーズ

・展示名：「サイエンス X アート プロジェクト」

担当者：大原昌宏

概要： バイオメティクス市民セミナーでは、公立千歳科学技術大学オープンサイエンスパークとの共同開催特別シリーズ「地域学：歴史に学び風土が拓く、持続可能な未来～古代史から学ぶ持続可能な地域の未来～」を開催するにあたり、講演に関連する展示を併設する。市民セミナーの講演者の指導のもと、

千歳市美々ワールドにある千歳湖周辺において地域の児童・生徒による昆虫採集と、採集した昆虫の電子顕微鏡観察を行った。顕微鏡写真の印象をもとにして、児童・生徒らが作画した作品を展示する。

期間：令和5年11月24日（金）～12月15日（金）

会場：総合博物館 1階 知の交差点南側壁 N127室

主催：北海道大学総合博物館・公立千歳科学技術大学

協賛：高分子学会北海道支部、北海道大学電子科学研究所、高分子学会バイオメティクス研究会、フォトニクスワールドコンソーシアム（PWC）、NPO法人バイオメティクス推進協議会

関連セミナー：令和5年12月9日 バイオメティクス市民セミナー

北海道大学総合博物館
バイオメティクス市民セミナー

入場無料
WEB同時配信

公立千歳科学技術大学
オープンサイエンスパーク千歳

共同開催特別シリーズ 第二弾

第2回「地域学：歴史に学び風土が拓く、持続可能な未来～自然史から読み解く生態系サービスと自然共生～」

13:30～14:00
「自然史とSTEM教育」
七尾もも子・佐藤 真一・Naji-野村 志志

14:00～14:30
「自然史情報発信の宝庫としての博物館の役割」
国立科学博物館 野村 真平

14:30～15:00
「ネイチャー・デザインと博物館」
北海道博物館 大塚 昌宏

15:00～15:30
会場との対談と運動休憩

2023.12.9日（土）
13:30～15:30
北海道大学総合博物館
3F 北講義室（N308）

現地定員（先着45名）およびウェブ同時配信 併用の
ハイブリッド方式での開催となります
<https://youtube.com/live/Ph4KPH9HxH?feature=share>

・展示名：「縄文遺跡 キウス周堤墓群」

担当者：大原昌宏

概要： バイオメティクス市民セミナーでは、公立千歳科学技術大学オープンサイエンスパークとの共同開催特別シリーズ「地域学：歴史に学び風土が拓く、持続可能な未来～古代史から学ぶ持続可能な地域の未来～」を開催するにあたり、講演に関連する展示を併設する。市民セミナーの講演者の指導のもと、旧石器時代から今に至るまで千歳市周辺には人々が集い、多くの遺跡があることを紹介する。千歳市周辺の遺跡を地図上にプロットしたパネルから始まり、北海道で最も古い遺跡やキウス周堤墓群関連、アイヌ関連パネルなどを展示する。

期間：令和6年2月24日（土）～5月6日（日）

会場：総合博物館 1階 知の交差点南側壁 N127室

主催：北海道大学総合博物館・公立千歳科学技術大学

協賛：高分子学会北海道支部、北海道大学電子科学研究所、高分子学会バイオミメティクス研究会、フォ
トニクスワールドコンソーシアム（PWC）、NPO 法人バイオミメティクス推進協議会

関連セミナー：令和 6 年 3 月 2 日 バイオミメティクス市民セミナー

北海道大学総合博物館
バイオミメティクス市民セミナー

入場無料
WEB同時配信

公立千歳科学技術大学
オープンサイエンスパーク千歳
共同開催特別シリーズ 第二弾

第3回「地域学」歴史に学び風土が拓く、持続可能な未来
～古代史から学ぶ持続可能な地域の未来～

13:30～14:00
「キタムと東洋の歴史」
千歳市歴史博物館 展示室 西田 康雄

14:00～14:30
「キタムと東洋社会」
千歳市歴史博物館 展示室 西田 康雄

14:30～15:00
「キタムと東洋の歴史」
千歳市歴史博物館 展示室 西田 康雄

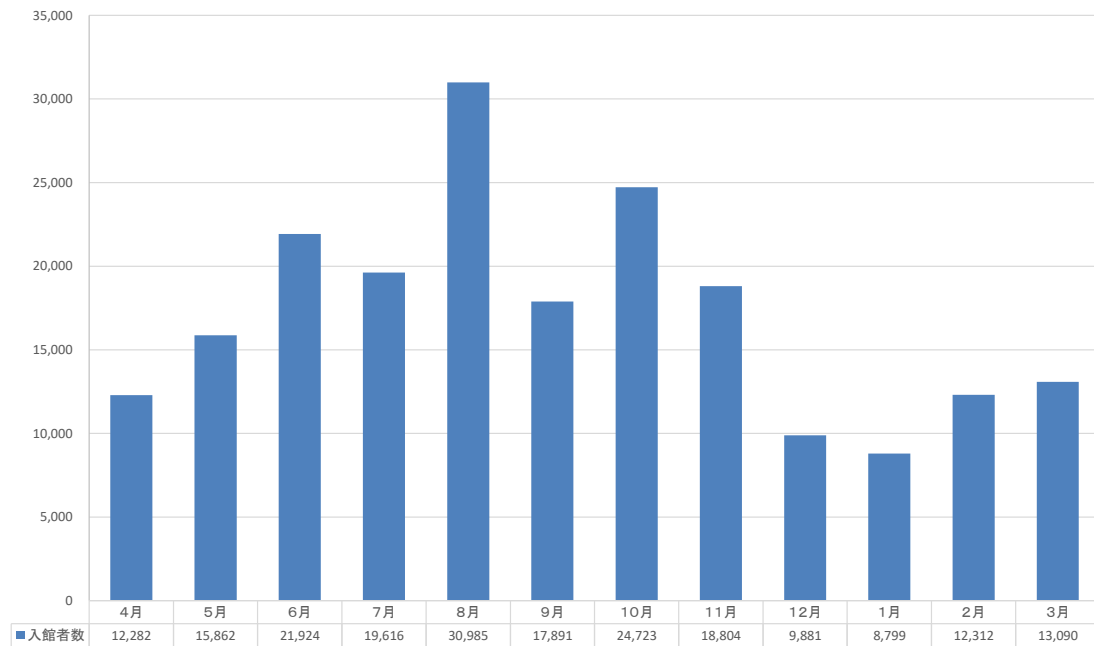
15:00～15:30
会場との対話と運動会

3月2日
13:30～15:30
北海道大学総合博物館
3F 北講義室 (N308)

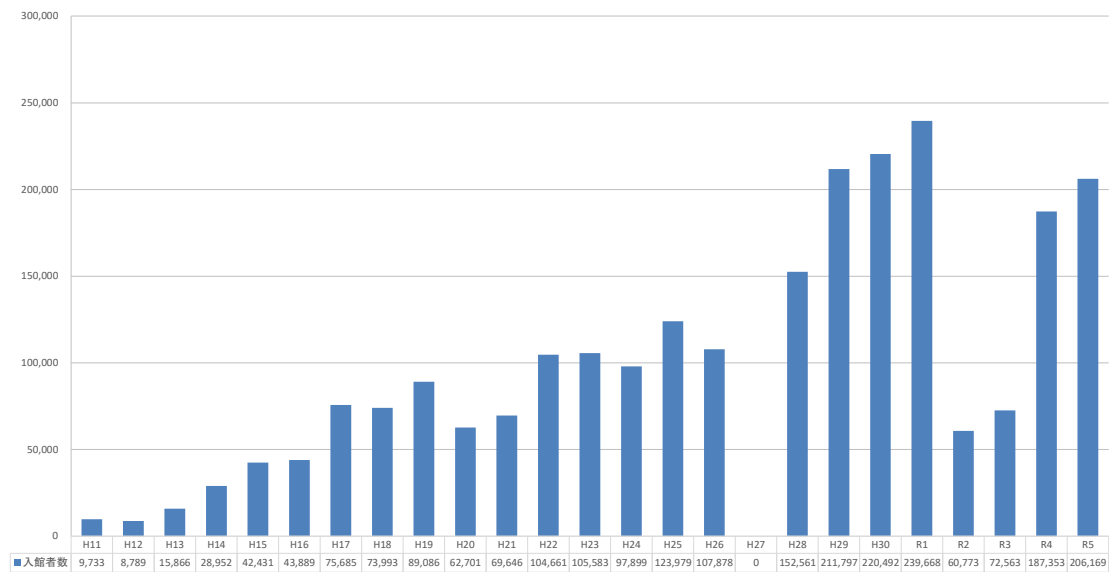
現地開催(来場45名) および WEB同時配信 併用の
ハイブリッド方式での開催となります
<https://youtube.com/live/z30m7KWP58?feature=share>

北海道大学総合博物館入館者数の推移

・令和5年度月間入館者数



・年間入館者数（人）



※平成10年11月試行的に開設（3階アイランドアーク） ※平成11年4月1日開設

※平成13年9月27日 1階展示ゾーン開設 ※平成17年11月3日2階展示ゾーン開設

※平成27年4月1日～平成28年7月25日 耐震改修工事のため休館 ※平成28年7月26日リニューアルオープン

※令和2年2月29日～7月13日,令和3年5月3日～6月30日,3年8月27日～10月3日 新型コロナウイルス感染防止のため臨時休館

B セミナー

・土曜市民セミナー

コロナ禍の落ち着きを確認し、土曜市民セミナーを再開した。令和5年度は「北大の研究最前線2023」と題して総合博物館の研究部教員と資料部研究員が講師となるセミナーを実施した。

令和5年4月15日（土）13:30-15:00（以下、開催時間は同じ）

タイトル「ニワトリ？ガチョウ？世界最古の家禽を動物考古学から探る」

演者：江田真毅（北海道大学総合博物館 教授）

令和5年5月13日（土）

タイトル「博物館収蔵海藻標本の利用」

演者：阿部剛史（北海道大学総合博物館 准教授）

令和5年6月10日（土）

タイトル「未来へと紡ぐミュージアム体験の記憶 ライフストーリーの観点から体験を意味づける」

演者：湯浅万紀子（北海道大学総合博物館 教授）

令和5年7月22日（土）

タイトル「2023 夏季企画展の楽しみ方 札幌農学校付属農場と小岩井農場施設」

演者：小澤丈夫（北海道大学大学院工学研究院 教授／北海道大学総合博物館 資料部研究員）・角哲（名古屋市立大学大学院芸術工学研究科）

令和5年8月12日（土）

タイトル「コロナ禍の3年で逆にできるようになった（？）北海道内の植物研究」

演者：首藤光太郎（北海道大学総合博物館 助教）

令和5年9月9日（土）

タイトル「コロナ禍と戦争 魚類分類屋の苦悩、そして新たな取り組み」

演者：田城文人（北海道大学総合博物館水産科学館 助教）

令和5年10月7日（土）

タイトル「天然のタイムカプセル 琥珀に眠る太古の昆虫化石について」

演者：山本周平（北海道大学総合博物館 資料部研究員）

令和5年11月11日（土）

タイトル「北海道の首の短い大型首長竜：プリオサウルス類」

演者：越前谷宏紀（北海道大学総合博物館 資料部研究員）

令和 5 年 12 月 9 日（土）
タイトル「自然科学で探る縄文文化の年代と食べ物」
演者：國木田大（北海道大学大学院文学研究院 准教授／北海道大学総合博物館 資料部研究員）

令和 6 年 1 月 20 日（土）
タイトル「クマを知り クマに学ぶ」
演者：坪田敏男（北海道大学大学院獣医学研究院 教授／北海道大学総合博物館 館長）

令和 6 年 2 月 10 日（土）
タイトル「海浜性甲虫の分類と生態」
演者：大原昌宏（北海道大学総合博物館 教授）

令和 6 年 3 月 9 日（土）
タイトル「魚に寄生して暮らすーウオノエ科甲殻類の多様性」
演者：川西亮太（北海道教育大学教育学部 准教授／北海道大学総合博物館 資料部研究員）

・ライマン来道 150 周年・2023 年度「地質の日」記念講演会

「ライマンと北海道一日米文化交流の視点から」

令和 5 年 5 月 27 日（土）に開催

ライマン来道 150 周年・2023 年度「地質の日」記念講演会



日本国志地質図説大図（明治 9（1874）年 5 月 10 日刊行） 北海道大学総合博物館蔵

ライマンと北海道
一日米文化交流の視点から

講師：関 秀孝 氏
元北海道開発局企画課長、北海道史研究協議会幹事

2023 年 5 月 27 日（土）
13:30 ~ 15:00

定員 50 名 入場無料
【事前申込不要】

北海道大学総合博物館 1 階「知の交流」

お問い合わせ先
北海道大学総合博物館 TEL: 011-706-2808
http://www.hokudai.ac.jp/museum/

地質の日

主催：地質の日北海道実行委員会 共催：北海道大学総合博物館 協賛：北海道大学総合博物館

・公開講演会「標本庫知新 植物標本とそのタネの利活用と可能性」

令和 6 年 3 月 23 日（土）に開催



・その他

- 北海道大学初任事務職員実地研修

目的：本学初任事務職員が来館者絵の解説・案内を通して、北海道大学への理解と知識をより深め、職員としての意識を高めるとともに、コミュニケーション能力を身につける。

経緯：2017年度より実施（2020・2021年度はコロナ禍での休館のため実施せず）

研修生：2023年度初任事務職員 27名

内容：7月 総合博物館の使命や役割、来館者対応についての講義と全館見学案内（湯浅万紀子）

8月2日～4日 グループに分かれて2時間の見学対応

C 公開シンポジウム

今年度は実施しなかった。

D ボランティア活動

1999年度から、総合博物館では標本整理や展示解説などの分野でボランティア活動を推進している。

15分野へと幅も広がり、登録者数も増えている。各グループでの研修に加え、博物館の研究と教育に幅広く関心を持ってもらい、ボランティアの交流を促進するため、博物館が主催してボランティア講座・交流会を開催している。水産科学館でも標本整理に学生ボランティアが活動している。

分野	担当者	登録者数
ボランティア・マネジメント	湯浅万紀子、山田久恵、（柴野伸幸、市来紗都子、土田江里子）	
・化石	小林快次	30名
・考古	江田真毅	46名
・昆虫	大原昌宏	26名

・植物	首藤光太郎	34名
・展示解説	湯浅万紀子	18名
・遠友夜学校	阿部剛史、(藤田正一)	10名
・歴史展示	阿部剛史、(藤田正一)	4名
・4Dシアター	北野一平	16名
・メディア	大原昌宏	3名
・チェンバロ	大原昌宏	10名
・図書	江田真毅、大原昌宏	12名
・第2農場	近藤誠司、首藤光太郎	12名
・ハンズオン	北野一平、湯浅万紀子	6名
・きたみてガーデン	首藤光太郎	8名
・地学	北野一平	22名
ボランティア等関連団体		
・HUISA	小林快次	
・北大ミュージアムクラブ Mouseion	湯浅万紀子	

ボランティア表彰対象の方々

5年表彰：糸井容子（化石）、大沼良文（第2農場）、大村 颯（化石）、高橋道子（北大の歴史）、新田紀敏（植物）、林 裕子（植物）、山角美夏（化石）、山田大隆（メディア、展示解説、図書、第2農場）で計8名

10年表彰：蝦名順子（植物）、木村聖子（化石）、木村則子（考古）、木村映陽（化石）、高木和恵（図書）、本名百合子（図書）で計6名

E 自治体や他機関との協定締結

神流町恐竜センター（2013年6月1日より）

むかわ町（2014年9月1日より）

北海道立北方民族博物館（2015年3月24日より）]

洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会（2018年12月18日より）

札幌市青少年科学館（2023年7月21日より）

F その他

・研究報告会

毎年度末に、研究部、資料部、学生・院生、ボランティアから発表者を募り、博物館活動を報告する会。2018年度以来の対面開催となった。新型コロナウイルス蔓延の影響によって縮小された博物館活動は、感染拡大防止対策をしながら、少しずつ活動を広げていった。

開催日：令和6年3月18日（月）対面開催

14:00 館長の挨拶（坪田敏男館長）

14:10 全体報告（江田真毅研究部長）

14:30 研究部研究報告（首藤光太郎先生）

14:50 資料部長から全体報告（小澤丈夫資料部長）

15:00 資料部研究員研究報告（天野哲也先生）

15:20 学生・院生研究報告（佐々木悠貴さん、建築の学生展について）

15:40 ボランティア会長から報告（在田一則ボランティア会長）

15:50 ボランティア活動報告（展示解説グループ：笹谷幸恵さん）

16:05 ボランティア表彰（5年、10年）

16:20 館長から閉会の挨拶（坪田敏男館長）

・カルチャーナイト 2023

認定 NPO 法人カルチャーナイト北海道が主催する、札幌市内の公共・文化施設や企業で開催するイベント。地域の住民だけでなく観光客も対象とした、北海道の地域文化活動。

開催日：令和5年7月21日（金）

場所：総合博物館

内容：常設展示の公開を21時まで延長した。また、チェンバロ演奏会、4Dシアター公演、夏の星空の観望会（協力：札幌天文同好会）、夜の北大植物観察会、新鉱物北海道石などの展示鉱物標本の傾向観察会を実施した。

・北海道大学ホームカミングデー

北海道大学では、平成24（2012）年度から、同窓生などをキャンパスに招いて交流を深め、本学の今を知っていただく「北海道大学ホームカミングデー」を開催している。総合博物館では初年度より協力を行い、同窓生や関係者、来館者から好評をいただいている。

開催日：令和5年9月30日（土）

場所：総合博物館

・高校教育との連携

今年度は実施しなかった。

・ Innovate MUSEUM 事業

文化庁の令和 5 年度 Innovate MUSEUM 事業に採択された、「多館種連携による非公開資料のデジタル化とオンライン公開による博物館展示機能の DX 推進業務」事業を実施した。北海道大学総合博物館が中核館となって、札幌市博物館活動センター、札幌市円山動物園、北海道立北方民族博物館、むかわ町穂別博物館、群馬県立自然史博物館、北九州市立自然史・歴史博物館と連携し、各館の分野横断的な非公開標本資料群のデジタル化（4,081 点）および新規構築したデジタル・ミュージアム「みんなの博物館」（<https://minna-museum.jp/>）での公開（8,508 点）を行った。加えて、学芸員 DX 人材育成を目的とした写真撮影技術研修会、デジタルデータ取得手法講座を実施し、一般向けデータベース PR 動画（<https://www.youtube.com/watch?v=79-f274zj28>）を作成・公開した。

事業期間：令和 5 年 6 月 7 日～令和 6 年 2 月 29 日

・ SDGs デー

北海道大学サステナビリティ推進機構 SDGs 事業推進本部と札幌テレビ放送（STV）主催の北海道大学×STV 「SDGs デー2023」が北海道大学総合博物館で開催された。オープニングイベントの小林快次教授による一般講演「最新恐竜研究 2023」をはじめ、総合博物館での恐竜、考古、植物、岩石・鉱物の 4 分野のワークショップ、10 種類の展示標本を探す謎解き探検カードラリーが実施された。

開催日：令和 5 年 11 月 3 日（金・祝）対面開催

・ 第 26 回大学博物館等協議会・第 18 回日本博物科学会

大学博物館等協議会は、大学附置の博物館や設置準備委員会、国立博物館等で創設された団体である。その第 26 回大会および第 18 回日本博物科学会が北海道大学で開催され、当館がホストを務めた。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で 3 大会ぶりの対面開催となった。シンポジウム「大学博物館におけるボランティア活動の現状と課題」では、坪田館長による趣旨説明の後、広島大学総合博物館の清水則雄先生、名古屋大学博物館の梅村綾子先生、東京大学総合研究博物館の佐々木猛智先生、当館の湯浅万紀子先生に各館のボランティア活動についてご講演いただいた。口頭発表は教育、研究、地域と社会連携、マネジメント、展示の 5 つのセッションからなる 13 件、ポスター発表は 6 件を数えた。また北方生物圏フィールド科学センター植物園博物館と総合博物館で特別見学会・ガイドツアーを実施した。植物園博物館のツアーでは、同館の加藤克先生に解説いただいた。

開催日：令和 5 年 6 月 22 日（木） ・ 23 日（金）

場所：北海道大学学術交流会館

VI. 国際的な活動

A 各種協定締結

A 各種協定締結

1. ロシア・サハリン州立郷土博物館（2000 年 8 月 1 日より）
2. ドイツ・ゼンケンベルグ自然史博物館（2009 年 11 月 18 日より）
3. フランス・ストラスブール動物学博物館（2009 年 11 月 20 日より）
4. ロシア・カムチャッカ国立工科大学（2010 年 8 月 20 日より）
5. インドネシア・Padjadjaran 大学地質学部（2011 年 2 月 24 日より）
6. ロシア・イルクーツク工科大学（2011 年 6 月 1 日より）
7. モンゴル科学アカデミー古生物学研究所（2011 年 8 月 15 日より 2030 年 5 月 20 日）
8. アメリカ合衆国テキサス州ダラス自然史博物館（2011 年 8 月 23 日より 2021 年 8 月 22 日）
9. タイ王国国立科学博物館（タイ）（2012 年 9 月 19 日より 2021 年 7 月 26 日）
10. 韓国地質資源研究院地質博物館（2013 年 3 月 20 日より 2023 年 3 月 19 日）
11. アメリカ合衆国・アラスカバシフィック大学（2021 年 9 月 2 日より 2031 年 9 月 1 日）

B 客員教授・外国人研究員

今年度は該当者がいなかった。

VII. 広報 博物館ニュース、HP、FB、新聞報道記録など

・博物館ニュース

46号と47号を出版した。



CONTENTS

- 01 新館長就任挨拶
- 02 プレスリリース
- 07 選任挨拶
- 09 年輪ポストカード委員会
- 11 クラーク博士の正体と家系来訪



CONTENTS

- 01 夏季の企画「近代農業がもたらした夢-札幌農学校第二農場と小野井農場がつくる風景」
- 02 全国博物館等協議会開催
- 03 プレスリリース
- 09 学生企画ワークショップ「おえかきミュージアム」を開催
- 13 「北海道大学総合博物館がやってきた!」JRタワー・エゾミュージアム開催



・ホームページ掲載

4月6日フジドリームエアライン機内誌で本館が紹介されています。

4月11日2023年度土曜市民セミナー「北大の研究最前線 2023」開催（上期）

4月14日ボランティア活動内容報告

4月18日【5月13日開催】土曜市民セミナー第2回「博物館収蔵海藻標本の利用」

4月20日江田真毅教授の研究が北海道大学のプレスリリースで紹介されました。

4月21日【5月14日開催】ポプラチェンバロのミュージアムコンサート

5月9日【5月27日開催】『ライマン来道150周年・2023年度「地質の日」記念講演会』

5月16日【6月10日開催】土曜市民セミナー第3回「未来へと紡ぐミュージアム体験の記憶 ライフストーリーの観点から体験を意味づける」

5月19日2023春 新・学生企画グッズ（1）ポストカードブック販売開始

5月23日【6月～10月開催】夏季の金曜日夜間開館を再開

5月30日新鉱物「北海道石」期間限定展示

6月2日NHKスペシャルの大型シリーズ「ヒューマンエイジ 人間の時代」に当館小林快次教授が出演

6月7日2023春 新・学生企画グッズ（2）ミュージアムマグ 販売開始

6月26日【研究報告】プリオサウルス類化石に関する研究成果

6月9日【7月7日・7月8日開催】パラタクソノミスト養成講座 昆虫初級 受講生募集

6月15日【7月15日開催】パラタクソノミスト養成講座岩石初級 受講生募集

6月24日【7月21日開催】カルチャーナイト 2023

6月26日プリオサウルス類化石に関する研究成果

7月1日【7月22日～9月10日開催】夏季企画展「近代農業がみた夢 - 札幌農学校第二農場と小岩井農場がつくる風景」

7月1日【7月22日開催】土曜市民セミナー第4回「2023 夏季企画展の楽しみ方 札幌農学校付属農場と小岩井農場施設」

7月4日【7月21日開催】宇宙の4Dシアターカルチャーナイト特別プログラム「シン・アmanoガワ」

7月6日小林快次教授が、7月9日放送のNHK『ダーウィンが来た!』に出演

7月7日【8月6日開催】考古パラタクソノミスト養成講座（初級）の受講生募集

7月7日【7月21日開催】新鉱物「北海道石」など展示鉱物標本の蛍光観察会

7月11日【7月8日・9日開催】パラタクソノミスト養成講座昆虫初級

7月12日【8月12日開催】土曜市民セミナー第5回目「コロナ禍の3年で逆にできるようになった（？）北海道内の植物研究」

7月13日「おえかきミュージアム 博物館をめぐってオリジナルの絵本を作ろう！」参加者募集

7月26日【北海道の水草 研究最前線】公開講演会開催のお知らせ

7月28日デイノスクス模型の公開展示開始！

7月28日【9月16日・17日開催】植物パラタクソノミスト養成講座（初級）の受講生募集

8月2日坪田館長が、NHK ニュース内のコーナー『シラベルカ』に出演

8月9日【9月30日・10月1日開催】第4回 建築の学生展

8月16日【9月9日開催】土曜市民セミナー第6回目「コロナ禍と戦争 魚類分類屋の苦悩、そして新たな取り組み」

9月4日【9～10月開催】金曜ナイトミュージアム

9月7日2023年度 博物館実習を実施

9月7日【9月16～24日開催】「北海道大学総合博物館がやってきた！JR タワー・エゾミュージアム」

9月13日【10月21日開催】きのこパラタクソノミスト養成講座（初級）受講生募集

9月14日【10月7日開催】土曜市民セミナー第7回「天然のタイムカプセル 琥珀に眠る太古の昆虫化石について」

9月15日プリオサウルス類化石の展示公開

9月20日2023年度後期土曜市民セミナー「北大の研究最前線 2023」開催のお知らせ

9月21日【9月29日開催】金曜ナイトミュージアム チェロコンサート

9月26日THE インパクトランキング 4年連続国内1位を称える盾の展示が開始

9月27日【10月6日・13日・20日開催】金曜ナイトミュージアム BIOCAFE 金曜の夜生き物たちの世界へ

9月28日当館 北野一平助教が AirG のラジオ番組『世界のあこがれ～北海道ブランド』に出演

9月28日【11月5日開催】 ポブラチェンバロのミュージアムコンサート

10月2日【11月3日開催】 『北海道大学×STV SDGs デー2023』

10月2日小林快次教授が STV テレビ・ラジオに出演

10月4日【10月8日～12月24日開催】 山本光一氏写真展「恋するシマエナガ～愛すべき7グラム」

10月7日【11月11日開催】 土曜市民セミナー第8回「北海道の首の短い大型首長竜：プリオサウルス類」

10月10日【11月3日開催】 SDGsデー恐竜最新研究2023 参加者募集（10/15 締切）

10月11日【11月1日～3日開催】 札幌農学校第二農場ガイドツアー

10月20日 2023 年度卒論ポスター発表会 発表者・運営スタッフの募集を開始

10月24日【11月18日開催】 写真展「恋するシマエナガ 愛すべき7グラム」関連企画シマエナガ、リアル模型絵づけワークショップ

11月7日ウィリアム・ペン・ブルックス博士の玄孫ジェームス N. スミス氏が 札幌農学校第2農場、総合博物館を訪問

11月9日小林快次教授が、木村洋二さんのラジオ番組に出演

11月11日【12月9日開催】 土曜市民セミナー第9回「自然科学で探る縄文文化の年代と食べ物」

11月16日小林快次教授の研究が北海道大学のプレスリリースで紹介されました。

11月17日【12月9日開催】 北海道大学総合博物館バイオミメティクス市民セミナー・ 公立千歳科学技術大学オープンサイエンスパーク千歳 共同開催特別シリーズ 第二弾

11月22日【12月3日9日開催】 総合博物館内に「元気ショップいこ～る」が出前出店

12月5日【研究報告】 織田信長の薬草園の謎：伊吹山の希少植物イブキノエンドウは日本の在来種であることを明らかにしました。

12月7日 JR 北海道車内誌で当館のミュージアムグッズ開発の取り組みが掲載されました。

12月9日ミュージアムマイスター認定式

12月12日【研究報告】 食べた獲物が胃に残るティラノサウルス科の全身骨格を世界で初めて発見！

12月16日【11月18日、19日開催】 写真展「恋するシマエナガ 愛すべき7グラム」関連講演会

12月16日4Dシアター『これであなたも流星博士』公演のお知らせ

12月18日【12月12日～12月24日 開催】 トガリネズミ展ー他の小型哺乳類とくらべてみようー

12月18日【12月24日開催】 トガリネズミ展公開セミナー

12月18日【1月20日開催】 第10回土曜市民セミナー「クマを知り クマに学ぶ」

12月20日【12月20日～2月18日開催】 「怪物ヒグマ OSO18 の顛末展」

12月27日小林快次教授が、NHK「ダーウィンが来た！」（お正月特集）に出演

12月27日賞金 北大総長と小林教授の対談が公開されました！

1月20日公衆無線 LAN サービスがご利用いただけます/Free Wi-Fi service available.

1月20日重要文化財 「札幌農学校第二農場」の施設公開について

1月22日【2月3日開催】 ポブラチェンバロとチェロによるミュージアムコンサート

1月23日【2月10日開催】第11回土曜市民セミナー「海浜性甲虫の分類と生態」

1月26日【3月2日～3日開催】2023年度北大卒論ポスター発表会開催

2月2日【3月9日・10日開催】「昆虫甲虫パラタクソノミスト養成講座 中級」受講生募集

2月3日小林快次教授が2月9日放送のNHK『北海道道』に出演

2月6日バーチャル・ミュージアム「みんなの博物館」仮公開開始のお知らせ

2月7日【3月16日・17日開催】の昆虫甲虫パラタクソノミスト養成講座（上級）の受講者を募集

2月8日【3月2日開催】北海道大学総合博物館バイオメディクス市民セミナー・公立千歳科学技術大学オープンサイエンスパーク千歳 共同開催特別シリーズ 第三弾

2月10日【3月9日開催】第12回土曜市民セミナー「魚に寄生して暮らすーウオノエ科甲殻類の多様性」

2月21日【2月20日から開催】縄文遺跡 キウス周堤墓群 パネル展

2月28日小林快次教授が、映画『恐竜超伝説2 劇場版ダーウィンが来た！』に出演

2月28日公開講演会『標本庫知新 植物標本とそのタネの利活用と可能性』の開催

3月5日2023年度卒論ポスター発表会開催

3月7日当館 坪田敏男館長がクラウドファンディング「世界のクマ研究最前線/人とクマが共に生きられる環境を未来へ」を開始いたしました。

3月19日2023年度ボランティア表彰式

・フェイスブック掲載

4月6日フジドリームエアライン機内誌で本館が紹介されています。

4月11日2023年度土曜市民セミナー「北大の研究最前線2023」開催（上期）

4月18日【5月13日開催】土曜市民セミナー第2回「博物館収蔵海藻標本の利用」

4月21日【5月14日開催】ポプラチェンバロのミュージアムコンサート

5月9日【5月27日開催】『ライマン来道150周年・2023年度「地質の日」記念講演会』開催

5月16日【6月10日開催】土曜市民セミナー第3回「未来へと紡ぐミュージアム体験の記憶 ライフストーリーの観点から体験を意味づける」

5月19日2023春 新・学生企画グッズ（1）ポストカードブック販売開始

5月23日【6月～10月開催】夏季の金曜日夜間開館を再開

5月30日新鉱物「北海道石」期間限定展示

6月2日NHKスペシャルの大型シリーズ「ヒューマンエイジ 人間の時代」に当館小林快次教授が出演

6月7日2023春 新・学生企画グッズ（2）ミュージアムマグ 販売開始

6月9日【7月7日・7月8日開催】パラタクソノミスト養成講座 昆虫初級 受講生募集

6月15日【7月15日開催】パラタクソノミスト養成講座岩石初級 受講生募集

6月24日【7月21日開催】カルチャーナイト2023

7月1日【7月22日～9月10日開催】夏季企画展「近代農業がみた夢 - 札幌農学校第二農場と小岩井農場がつくる風景」

7月1日【7月22日開催】土曜市民セミナー第4回「2023 夏季企画展の楽しみ方 札幌農学校付属農場と小岩井農場施設」

7月4日【7月21日開催】宇宙の4Dシアターカルチャーナイト特別プログラム「シン・アmanoガワ」

7月6日小林快次教授が7月9日放送のNHK『ダーウィンが来た！』に出演

7月7日考古パラタクソノミスト養成講座（初級）の受講生募集

7月7日【7月21日開催】新鉱物「北海道石」など展示鉱物標本の蛍光観察会

7月11日【2023年7月8日・9日開催】パラタクソノミスト養成講座昆虫初級

7月12日【8月12日開催】土曜市民セミナー第5回目「コロナ禍の3年で逆にできるようになった（？）北海道内の植物研究」

7月13日2023 学生企画「おえかきミュージアム 博物館をめぐってオリジナルの絵本を作ろう！」参加者募集

7月15日【2023年7月15日開催】に今年度二回目のパラタクソノミスト養成講座、岩石初級が開催！

7月21日今夜は！カルチャーナイト

7月22日【7月22日～9月10日開催】2023 年度夏季企画展「近代農業がみた夢 - 札幌農学校第二農場と小岩井農場がつくる風景」

7月28日北海道内博物館合同展示「押し花の押し花」～牧野富太郎と植物標本～現在、総合博物館にて展示公開中

7月28日公開講演会「北海道の水草 研究最前線」を開催

7月28日デイクス模型の公開展示が始まりました！

8月1日植物パラタクソノミスト養成講座（初級）の受講生募集

8月2日坪田館長が、NHK ニュース内のコーナー『シラベルカ』に出演

8月8日【9月30日・10月1日開催】第4回 建築の学生展

8月16日【9月9日開催】土曜市民セミナー第6回目「コロナ禍と戦争 魚類分類屋の苦悩、そして新たな取り組み」

9月4日【9～10月開催】金曜ナイトミュージアム

9月7日2023 年度 博物館実習が実施されています。

9月7日「【9月16～24日開催】北海道大学総合博物館がやってきた！JR タワー・エゾミュージアム」

9月13日【10月21日開催】きのこパラタクソノミスト養成講座（初級）受講生募集

9月14日【10月7日開催】土曜市民セミナー第7回「天然のタイムカプセル 琥珀に眠る太古の昆虫化石について」

9月15日2023 年度 博物館実習は、9月5日(火)～8日(金)、9月11日(月)～14日(木)の8日間の日程で行われました。

9月20日2023 年度後期土曜市民セミナー「北大の研究最前線 2023」開催のお知らせ

9月20日植物初級パラタクソノミスト養成講座終了いたしました！

9月21日【9月29日開催】金曜ナイトミュージアム チェロコンサート

9月26日THE インパクトランキング 4 年連続国内 1 位を称える盾の展示が始まりました。

9月27日【10月6日・13日・20日開催】金曜ナイトミュージアム BIOCAFE 金曜の夜生き物たちの世界へ

9月28日当館 北野一平助教が AirG のラジオ番組『世界のあこがれ～北海道ブランド』に出演

9月28日【11月5日開催】ポプラチェンバロのミュージアムコンサート

9月30日【9月30日・10月1日開催】建築の学生展開幕！

10月2日【11月3日開催】『北海道大学×STV SDGs デー2023』

10月2日小林快次教授が STV テレビ・ラジオに出演いたします。

10月4日【10月8日～12月24日開催】山本光一氏写真展「恋するシマエナガ～愛すべき7グラム」展

10月7日【11月11日開催】土曜市民セミナー第8回「北海道の首の短い大型首長竜：プリオサウルス類」

10月10日【11月3日開催】SDGsデー恐竜最新研究2023 参加者募集（10/15 締切）

10月20日2023年度卒論ポスター発表会 発表者・運営スタッフの募集を開始いたします。

10月24日【11月18日開催】写真展「恋するシマエナガ 愛すべき7グラム」関連企画シマエナガ、リアル模型絵づけワークショップ

10月24日【10月21日開催】、パラタクソノミスト養成講座きのご初級

10月31日【12月16日開催】【写真展「恋するシマエナガ 愛すべき7グラム」 関連講演会開催

11月7日ウィリアム・ペン・ブルックス博士の玄孫ジェームス N. スミス氏が 札幌農学校第2農場、総合博物館を訪れました。

11月9日小林快次教授が、木村洋二さんのラジオ番組に出演いたします。

11月11日【12月9日開催】土曜市民セミナー第9回「自然科学で探る縄文文化の年代と食べ物」

11月16日小林快次教授の研究が北海道大学のプレスリリースで紹介されました。

11月17日【12月12日～12月24日開催】トガリネズミ展 ー他の小型哺乳類とくらべてみようー

11月18日【11月18日・19日開催】写真展「恋するシマエナガ 愛すべき7グラム」関連講演会スライドトーク「野鳥界のアイドルシマエナガの秘密と魅力～人が範とすべき素晴らしい生態～」を開催

11月22日【12月3日・9日開催】総合博物館内に「元気ショップいこ～る」が出前出店します。

12月7日JR北海道車内誌で当館のミュージアムグッズ開発の取り組みが掲載されました。

12月9日ミュージアムマイスター認定式

12月9日【1月20日開催】第10回土曜市民セミナー「クマを知り クマに学ぶ」

12月16日4Dシアター『これであなたも流星博士』公演のお知らせ

12月16日【12月24日開催】トガリネズミ展公開セミナー

12月20日【12月20日～2月18日 開催】「怪物ヒグマ OSO18の顛末展」

12月22日【2月3日開催】ポプラチェンバロとチェロによるミュージアムコンサート

12月27日寛金北大総長と小林教授の対談が公開されました！

12月27日小林快次教授が、NHK「ダーウィンが来た！」（お正月特集）に出演いたします。

- 1月19日【1月20日開催】、愛知淑徳大学にて、当館の小林快次先生と湯浅万紀子先生が、シンポジウム知求儀「問題はサイエンスなのか？ アートなのか？」（同大学 創造表現学会主催）の討論会に登壇します。
- 1月23日【2月10日開催】第11回土曜市民セミナー「海浜性甲虫の分類と生態」
- 1月26日【3月2日～3日開催】2023年度北大卒論ポスター発表会開催
- 2月2日【3月9日・10日開催】「昆虫甲虫パラタクソノミスト養成講座 中級」受講生募集
- 2月3日小林快次教授が2月9日放送のNHK『北海道道』に出演します。
- 2月6日バーチャル・ミュージアム「みんなの博物館」仮公開開始のお知らせ
- 2月7日【3月16日・17日開催】の昆虫甲虫パラタクソノミスト養成講座（上級）の受講生募集
- 2月10日【3月9日開催】第12回土曜市民セミナー「魚に寄生して暮らすウオノエ科甲殻類の多様性」
- 2月20日【2月17日～3月17日開催】色鉛筆の恐竜博～アカデミアの魅力・アートの調べ～展
- 2月28日小林快次教授が、映画『恐竜超伝説2 劇場版ダーウィンが来た！』に出演いたします！
- 2月28日公開講演会『標本庫知新 植物標本とそのタネの利活用と可能性』の開催
- 3月5日【3月3日・4日開催】2023年度卒論ポスター発表会開催
- 3月7日当館 坪田敏男館長がクラウドファンディング「世界のクマ研究最前線/人とクマが共に生きられる環境を未来へ」を開始いたしました。

・新聞報道記録（セミナー開催告知は除く。）

- | | | | |
|----|--------------|-------|--|
| 1 | 北海道新聞 | 4月 8日 | おしゃべりな標本たち53 |
| 2 | 北海道新聞 | 4月12日 | 来春から小6理科教科書にむかわ竜登場 |
| 3 | 北國新聞 | 4月20日 | 弥生時代にニワトリ繁殖？ |
| 4 | 東京新聞 | 4月20日 | 奈良の「唐古・鍵遺跡」 日本最古ひなの骨 |
| 5 | 上毛新聞 | 4月21日 | 奈良で日本最古 ニワトリの骨 |
| 6 | 日刊工業新聞 | 4月21日 | ニワトリ雛の骨発見 |
| 7 | 奈良新聞 | 4月21日 | 唐古・鍵遺跡のニワトリひなの骨 日本最古と判明 |
| 8 | 北海道新聞 | 4月23日 | <第五感紀行> 北大の薄片技術 |
| 9 | 北海道新聞 | 4月28日 | さっぽろ10区 悩める学生が物語の推進力 |
| 10 | 北海道新聞苫小牧・日高版 | 5月13日 | 初「恐竜まつり」コスプレや講演 |
| 11 | 北海道新聞 | 5月13日 | おしゃべりな標本たち54 |
| 12 | 北海道新聞苫小牧・日高版 | 5月14日 | 恐竜化石 解説に笑顔 |
| 13 | 北海道新聞苫小牧・日高版 | 5月23日 | 穂別地区再整備計画＊ 新設・既存を併用＊温浴カフェ、交流施設も＊26年4月までに開業 |
| 14 | 北海道新聞釧路・根室版 | | |

- | | | |
|-------------------|--------|--|
| | 6月 2日 | 釧路市立博物館 収蔵庫ほぼ満杯 |
| 15 読賣新聞 | 6月 2日 | 弥生中期ニワトリ飼育か |
| 16 北海道新聞 | 6月10日 | おしゃべりな標本たち55 |
| 17 朝日新聞 | 6月13日 | 弥生時代にニワトリ飼育？ |
| 18 北海道新聞 | 6月20日 | さっぽろ10区 紫外線で黄緑色に光る 話題の「北海道石」見に来て |
| 19 北海道新聞 | 6月20日 | さっぽろ10区 北大大学院性考案の新商品 ポストカードとマグカップ |
| 20 北海道新聞 | 7月 3日 | クマ市街地出没生態や背景探る |
| 21 北海道新聞 | 7月 8日 | おしゃべりな標本たち56 |
| 22 北海道新聞 | 7月 8日 | おしゃべりな標本たち57 |
| 23 北海道新聞函館・渡島・桧山版 | 7月11日 | 個人作の標本 北大（函館）に寄贈＊青森・故野村さんの魚や貝280種 遺族から＊管理適切 資料として活用へ |
| 24 北海道新聞札幌市内版 | 7月14日 | 地下鉄乗ってスタンプ集め 市交通局、あすからイベント |
| 25 北海道新聞札幌近郊版 | 7月14日 | ホリデー・テーリング 地下鉄・市電乗りスタンプ集めよう |
| 26 毎日新聞 | 7月21日 | 弥生中期に養鶏の痕跡 |
| 27 北海道新聞函館・渡島・桧山版 | 7月27日 | 青森から魚の標本搬入 |
| 28 北海道新聞 | 8月 7日 | さっぽろ10区 北大総合博物館で「おえかきミュージアム」 |
| 29 北海道新聞苫小牧・日高版 | 8月30日 | 穂別地区新博物館 住民らに理解深める |
| 30 北海道新聞 | 10月14日 | 恐竜研究 日本、北海道がアツい |
| 31 北海道新聞旭川・上川版 | 11月18日 | 「自分の夢を追って」 |
| 32 北海道新聞 | 11月24日 | 卓上四季 |
| 33 北海道新聞 | 12月15日 | 絶滅危機 環境対策真剣に |
| 34 北海道新聞 | 1月 1日 | 国立科博CF 成功したけれど… |
| 35 北海道新聞 | 1月 5日 | 岩石・鉱物好き集まれ！ |
| 36 北海道新聞 | 1月 5日 | 朝の食卓 郵便局での思い出 |
| 37 北海道新聞 | 2月11日 | ゲーム機の資料価値とは |
| 38 朝日新聞 | 2月14日 | 古代日本の鶏はほとんどがオス「日本最古の骨」からわかったこと |
| 39 朝日新聞 | 2月17日 | はじまりを歩く 鶏 |
| 40 北海道新聞 | 3月 1日 | さっぽろ10区 卒論 わかりやすく紹介 |

・テレビ・ラジオ報道

1	NHKラジオ第一	5月21日	「子ども科学電話相談」
2	NHK	6月11日	NHKスペシャル「ヒューマンエイジ 人間の時代」第1 集：人新世～地球を飲み込む欲望～
3	NHKラジオ第一	6月18日	「子ども科学電話相談」
4	NHK	7月 9日	「ダーウィンが来た！」恐竜研究ホットスポット日本！
5	NHKラジオ第一	7月16日	「子ども科学電話相談」
6	NHK	8月 1日	NHKニュース「シラベルカ」
7	NHK	8月 2日	NHKニュース「シラベルカ」
8	NHKラジオ第一	9月 3日	「子ども科学電話相談」
9	STV	9月29日	「どさんこワイド179」
10	STV	10月 4日	「どさんこワイド朝」
11	AIR-G'	10月 8日	「世界のあこがれ～北海道ブランド」
12	STVラジオ	10月14日	「藤井孝太郎のログイン！よる☆PA」
13	AIR-G'	10月15日	「世界のあこがれ～北海道ブランド」
14	STVラジオ	11月20日～24日	「ようじのぢかん」
15	NHKラジオ第一	11月26日	「子ども科学電話相談」
16	NHK	1月 7日	「ダーウィンが来た！」お正月特集 龍のナゾ大研究！
17	NHK	2月 9日	「北海道道」～ボールペンは太古の夢を見る～
18	NHKラジオ第一	3月10日	「子ども科学電話相談」
19	NHKラジオ第一	3月31日	「子ども科学電話相談」

VIII. 令和5年度予算状況

・運営費交付金

単位：千円

区 分	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
当初配分予算額	44,990	43,302	44,811	41,458	41,460

・外部資金受入状況等

【科学研究費採択状況】

【科学研究費分担金一覧（他機関から受領する分）】

単位：千円

単位：千円

年 度	件数	金 額	年 度	件数	金 額
2019年度	9件	10,396	2019年度	12件	2,674
2020年度	11件	25,305	2020年度	11件	4,173
2021年度	11件	18,850	2021年度	14件	17,337
2022年度	4件	6,500	2022年度	10件	5,707
2023年度	6件	9,540	2023年度	10件	5,974

【受託研究受入状況】

単位：千円

年度	件 名	相手方	金 額
2019～2022年度	なし		
2023年度	生物多様性保全・気候変動対策・地域振興を最適化させる自然公園設計：北海道東部・根釧地方における学際的研究と実践	独立行政法人環境再生保全機構	2,398

【奨学寄付金委任経理金の受入状況】

【総合博物館支援基金】

単位：千円

単位：円

年 度	件 数	金 額
2019年度	4件	3,582
2020年度	0件	0
2021年度	0件	0
2022年度	0件	0
2023年度	0件	0

受入年度	受入金額
2019年度	732,912
2020年度	335,423
2021年度	318,723
2022年度	614,688
2023年度	861,418

IX. 令和5年度の主な出来事

- 4月 1日 坪田敏男館長 着任
- 4月 1日 研究支援推進員 土田江里子さん 着任
- 4月28日 文部科学省高騰教育局国立大学法人支援課大江企画官 博物館見学
- 5月11日 リトアニア国立博物館ご一行（4名） 博物館見学
- 5月14日 ポプラチェンバロミュージアムコンサート「ポプラのプレリユード」
- 5月25日 ダクタリ動物病院 加藤元総合院長（他2名） 博物館見学
- 5月26日 ボランティアの会総会・講演会
- 5月27日 『ライマン来道150周年・2023年度「地質の日」記念講演会』
- 5月30日 新鉱物「北海道石」期間限定展示（～9/3）
- 6月 1日 事務補助員 高橋千華子さん 着任
- 6月 6日 北京科技大学副学長（他3名） 博物館見学
- 6月22日 北海道大学学術交流会館にて第26回大学博物館等協議会・第18回日本博物科学会開催（～6/23）
- 7月21日 カルチャーナイト2023
- 7月22日 夏季企画展「近代農業がみた夢 - 札幌農学校第2農場と小岩井農場がつくる風景」（～9/10）
- 7月29日 学生企画「おえかきミュージアム」（～7/30）
- 8月19日 【北海道の水草 研究最前線】公開講演会
- 9月16日 札幌駅 JR タワー1F東コンコースにて「北海道大学総合博物館がやってきた！ JRタワー・エゾミュージアム」開催（～9/24）
- 9月29日 金曜ナイトミュージアムチェロコンサート
- 9月30日 第4回建築の学生展（～10/1）
- 10月 8日 写真展「恋するシマエナガ～愛すべき7グラム」開催（～12/24）
- 11月 1日 札幌農学校第2農場ガイドツアー開催（～11/3）
- 11月 2日 ウイリアム・ベン・ブルックス博士の玄孫ジェームス N. スミス氏 博物館、第2農場見学
- 11月 5日 ポプラチェンバロのミュージアムコンサート開催
- 11月18日 写真展「恋するシマエナガ 愛すべき7グラム」関連企画シマエナガ、リアル模型絵づけワークショップ開催（～11/19）
- 12月12日 トガリネズミ展 - 他的小型哺乳類とくらべてみよう（～12/24）
- 12月16日 4Dシアター『これであなたも流星博士』開催
- 12月16日 「恋するシマエナガ 愛すべき7グラム」関連講演会開催
- 12月20日 「怪物ヒグマ O S O 18の顛末展」開催（～2/18）
- 12月24日 【トガリネズミ展】公開セミナー開催
- 1月26日 国連大学ご一行（3名） 博物館見学

2月 1日 文部科学省高等教育局高等教育企画課（3名） 博物館見学
2月 3日 ポプラチェンバロとチェロによるミュージアムコンサート開催
2月20日 縄文遺跡 キウス周堤墓群 パネル展（～未定）
3月 2日 2023年度卒論ポスター発表会（～3/3）
3月 7日 リトアニア農業副大臣ご一行（11名） 博物館見学
3月27日 公開講演会『標本庫知新 植物標本とそのタネの利活用と可能性』開催
3月31日 技術補助員 柴野伸幸さん 退職

X. 総合博物館の第4期（令和4～9年度）中期目標

中期目標

<基本的な理念と目標>

博物館独自の目標：『博物館の使命・目的・コンセプト』として、以下の4つを掲げている。1）学術標本の保管・整理、次世代への継承と情報の提供、2）学術資料を用いた学際的研究分野の開拓、3）展示・セミナー等を通じた教育普及活動、4）博物館文化の創造と発信。

大学の方針に沿った目標：総合博物館には、開学以来収集されてきた国内屈指の質・量をもつ学術標本・資料群が散逸せずに保管されている。一方、函館の総合博物館分館水産科学館や北方生物圏フィールド科学センター植物園博物館、同苫小牧研究林森林資料館等、貴重な学術標本・資料を保管する本学の施設は道内に散在している。学術標本・資料は、教育・研究の成果を明らかにするとともに、適切に分類・整理・登録し、組織的に保管・管理を行うことにより、次なる教育・研究を支援するための貴重な財産となる。これまで、総長裁量経費や科学研究補助金によりデータベース化を進めてきているものの、データベースの8点は日進月歩であり、例えば現在盛んに利用され始めている画像による検索等ができるものではない。

本学の第4期中期計画には、学術情報基盤を整備と研究データのアーカイブが盛り込まれている。現在デジタル化されていない学術標本・資料を含めてDX化し、全学に散在する学術標本・資料をオンラインで活用できるようにすることが研究力強化のために必要と考えられる。

分館水産科学館の展示施設の主要部は、施設老朽化のため閉館状態となっている。分館施設における諸活動の全面再開に向け、改築を目指す。

<教育に関する目標>

総合博物館では、展示制作と解説、グッズ開発、ポスター発表会などのプロジェクトの運営など、さまざまな学生教育を行なってきた。総合博物館独自の教育プログラムである、ミュージアムマイスター認定コースとパラタクソノミスト養成講座を継続し、多彩かつ多次元に本学の院生や学生の質の向上に努める。卒論ポスター発表会を開催し、新規にSDGs賞を設ける。また、総合博物館独自の全学教育科目や大学院共通科目の提供と、学芸員関連科目および博物館実習を継続し、引き続き本学の教育に貢献する。各教員は、他部局を兼務する形でそれぞれの専門分野の講義を担当し、院生・学生の研究を指導している。今後もこれからの教育活動を継続し、各分野の研究レベル向上に貢献する。

中期計画は以下の通りである。

- ・ミュージアムマイスター認定コースのマイスター認定：年2名以上
- ・卒論ポスター発表会の開催：年1回（SDGs賞を新規創設）
- ・パラタクソノミスト養成講座の開催：年間3回以上
- ・全学教育・大学院共通授業、学芸員関連科目と博物館実習の担当
- ・兼担する他部局の院生や学生の研究指導

＜研究に関する目標＞

総合博物館には、300 万点を越える国内屈指の学術標本・資料群がある。これらの学術標本・資料を利用した研究促進のために、標本・資料の収集と整理を行う。また、研究力強化のために、総合博物館所蔵の学術標本・資料の DX 化を進める。博物館標本・資料を用いた研究を推進し研究を論文として出版する。さらに、資料部研究員の研究の活性化を促す。これらの研究成果を積極的に発信し、総合博物館の研究活動の高さを伝える。

中期計画は以下の通りである。

- ・学術標本・資料利用点数：年 100 点以上
- ・新規登録学術標本・資料点数：年 1,000 点以上
- ・学術標本・資料の DX 化
- ・標本を利用した論文出版：年 10 本以上
- ・査読付き論文出版：年 10 本以上
- ・資料部研究員による年次報告会での発表：2 題以上
- ・プレスリリースの発信：年 2 回以上
- ・博物館ニュースの出版：年 2 回

＜社会貢献に関する目標＞

近年、総合博物館の入館者数は国内大学博物館でトップクラスの数で、札幌市の観光施設で 15 位前後に位置している。常設展示では、本学の最新の教育・研究の成果を常に示すよう努めており、これは本学としても特質すべき社会貢献と言える。今後も、常設展示の運用、企画展示の開催、セミナーやイベントの開催などの博物館活動を継続し、本学の最新の教育・研究成果を発信する。また、新規の計画として本学全体の指針である SDGs への取り組みや本学発ベンチャー企業の支援などのための情報発信も担う。さらに、展示の DX 化を図る。当館の活動は 200 人を越えるボランティアに支えられており、同時に生涯学習の場を提供している。今後もこの日本の博物館として最大規模のボランティア組織を円滑に維持・運営していく。

中期計画は以下の通りである。

- ・入館者数：年 15 万人以上
- ・夏季企画展の開催：年 1 回
- ・常設展示の維持・発展：デジタルサイネージを毎年更新
- ・常設展示において北大が取り組んでいる SDGs の研究や教育を紹介
- ・北大発ベンチャー企業の取り組みの展示を開始
- ・展示の DX 化
- ・土曜市民セミナーやその他のイベントの開催：年 15 回
- ・ボランティア：登録者数を 200 人維持し運営
- ・年次報告会の開催：年 1 回
- ・HP や facebook を随時更新

- ・オープンキャンパス、ホームカミングデー、サステナビリティウィークへの協力
- ・大学博物館協議会・博物科学会の開催